

大学等名	県立広島大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違しない



③ 修了要件

本プログラムは、本学の全学共通教育科目より構成しており、
 学び・スキルリテラシー科目群の授業「ICTリテラシーⅠ」(必修1単位)、
 「ICTリテラシーⅡ」(選択1単位)と、
 学際知の科目群の授業「統計入門」(選択2単位)の3科目を以て構成し、計4単位を修得することを要件とする。

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
ICTリテラシーⅠ(地域創生学部)	1	○		○					
ICTリテラシーⅠ(生物資源科学部)	1	○		○					
ICTリテラシーⅠ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○		○					
ICTリテラシーⅠ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○		○					
ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○	○	○					
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)	1	○	○	○	○						
ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)	1	○	○	○	○						
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)	1	○	○	○	○						
ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	1	○	○	○	○						
統計入門(地域創生学部)	2	○	○								
統計入門(生物資源科学部)	2	○	○								
統計入門(保健福祉学部・看護学コース)	2	○	○								
統計入門(保健福祉学部・理学療法学コースほか)	2	○	○								

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AIなど「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AIなど「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AIなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AIなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・AI最新技術の活用例など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・AI最新技術の活用例など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(2~8回目) ・AI最新技術の活用例など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(2回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データなど「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・調査データなど「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・調査データなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(2回目) ・調査データなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(2回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がりなど「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・データ・AI活用領域の広がりなど「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・データ・AI活用領域の広がりなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(2~8回目) ・データ・AI活用領域の広がりなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・データ解析など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・データ解析など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(2~8回目) ・データ解析など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(2回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・AI利活用事例紹介など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・AI利活用事例紹介など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・AI利活用事例紹介など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(2~8回目) ・AI利活用事例紹介など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(2回目)

(4)活用に当たったの 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、デー タ倫理、AI社会原則 等)を考慮し、情報セ キュリティや情報漏洩 等、データを守る上で の留意事項への理解 をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(2回目) ・個人情報保護など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(2回目) ・個人情報保護など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(7回目) ・個人情報保護など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(10回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅠ(地域創生学部)」(1~3回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅠ(生物資源科学部)」(1~3回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅠ(保健福祉学部・看護学コース)」(2~3回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅠ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(8~9回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(1~2回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(1~2回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(7~8回目) ・情報セキュリティなど「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(7~8回目)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(7~8回目) ・データの種類など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(7~8回目) ・データの種類など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(9~10回目) ・データの種類など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(13~15回目) ・データの分布など「統計入門(地域創生学部)」(1~15回目) ・データの分布など「統計入門(生物資源科学部)」(1~15回目) ・データの分布など「統計入門(保健福祉学部・看護学コース)」(1~15回目) ・データの分布など「統計入門(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(1~15回目)
		2-2
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計など「ICTリテラシーⅡ(地域創生学部)」(13~15回目) ・データの集計など「ICTリテラシーⅡ(生物資源科学部)」(13~15回目) ・データの集計など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・看護学コース)」(11~15回目) ・データの集計など「ICTリテラシーⅡ(保健福祉学部・理学療法学コースほか)」(11~12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力
- ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力
- ・データ・AI利活用技術の概要及び社会における活用例について理解すること

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)

(役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名)

(役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

大学教育実践センターは、教育改革の企画や教育制度の充実に関する業務などを担い、大学としての総合力の強化を図ることを目的に設置されている。
令和4年度、同センターの下に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度申請に向けた検討ワーキング」を立ち上げ、全学部から、数理・データサイエンス・AIの教育内容に関わる教職員が参画し、ICTリテラシー、統計学、AI等を含めた情報教育のカリキュラムを検討し、関連科目の整備を行った。令和5年度より、同検討ワーキングは、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)運営委員会」に移行し、プログラムの運営、点検にあたる予定である。

⑦ 具体的な構成員

大学教育実践センター長 田中聡
教育推進部門長 岡田高嘉
全学共通教育部門長 河村和也
科目担当
佐々木宣介
富田哲治
岩田貴樹
岡部正幸
飯田忠行
広谷大助

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	4%	令和5年度予定	8%	令和6年度予定	12%
令和7年度予定	16%	令和8年度予定	20%	収容定員(名)	2,120

具体的な計画

履修者・履修率の向上に向けて、年度初めのオリエンテーション等の場で、本制度について学生に周知し、関連科目の積極的な履修を推奨する。また学期ごとに学生の理解度・授業の満足度を計るため学生への授業アンケートで調査し、仕組みや教育上の工夫、学生指導・支援等の学修サポート等の見直しを行う。

そのほか、本プログラムを構成する科目の一部(ICTリテラシー I)は全学必修科目としており、数理データサイエンス科目の導入を全学生に受講させ、データ分析や演習を行うことで学生に数理・データサイエンス・AIの関連科目に興味を抱かせる足がかりとする。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する科目は、全学共通教育科目であるため、学部学科に関わらずすべての学生が履修可能である。また、各学部ごとに履修支援・学修サポートも円滑に行う。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修登録を行う際に必ず利用する修学支援システム、時間割表、学生便覧を用いて履修に必要な情報が確認できるようにする。特に、時間割上で同じ時間に他の科目を多く配置しないなど、履修機会をできるだけ確保する。

また本学では入学時から学生ごとにチューター教員による面談を行っており、この面談の中でも履修に係るアドバイスを実施し、本プログラムの積極的な履修につなげる。

そのほか、本プログラムの目標や身に付けることができる能力等をHP等で掲示し、プログラム履修への動機づけを行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

数理・データサイエンス・AI教育科目の基礎となる、ICTリテラシー I・IIについては、授業担当教員が学生一人一人に対しきめの細やかな学習支援を行うために、1クラスの人数が30～40人程度になるようにクラス分けを行う。クラス分けを行うことで個々の学生の躓きや、疑問点に即座に対応することが可能となっており、このようなサポートを行うことで、文系も含めた多くの学生の本プログラムの履修・修得が実現する。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学習指導については、学生の理解を促進させるために定期的に課題を出題し、授業時間外にも必要な学習が効果的に行える仕組みを設ける。
また、教員ごとにオフィスアワーを設け、授業担当教員が質問対応や履修上の相談に対応できる体制を整備する。学生は学生便覧や修学支援システムUniversalPassportより、教員のメールアドレス、オフィスアワーを確認し、電子メールにて質問や問い合わせをすることが可能である。
また、Microsoft Teamsが全学的に利用可能であり、そのチャット機能を活用することで、学生と教員との間でスムーズなコミュニケーションが可能となる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

大学教育実践センター	
(責任者名) 田中聡	(役職名) センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本学の修学支援システムUniversalPassportやMicrosoft Teams等を活用し、授業担当教員は履修者ごとの講義出席状況及び課題の提出状況を把握することが出来る。 また、チューター制度により、出席状況が思わしくない学生や、本プログラムの構成科目であり、全学必修科目である「ICTリテラシー I」の単位を修得できなかった学生に対し、学期ごとの履修面談で履修を促している。
学修成果	本学で開講しているすべての科目において、各学期終了時に「学生による授業評価アンケート」を実施している。この評価項目の中には、授業外学修、学修活動への支援の程度、授業目標の達成度等が含まれており、この結果から学生の理解度を分析している。 また、この授業評価アンケートを教員にフィードバックすることで、授業の改善を図り、教育効果を高めている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	上記の「学生による授業評価アンケート」において、「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。」「この授業の内容に関してさらに学びたい。」の質問項目の評価から学生の理解度を確認することができる。このデータを数理・データサイエンス・AI教育プログラムの構成科目の授業内容を改善するための参考とし、毎年の授業の改善・更新の検討材料としている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	各教員は、「学生による授業評価アンケート」のフィードバックを受けて、授業改善(コメント作成)を行っている。そして、授業アンケートの全体集計や教員のコメントを基に作成した報告書『学生による授業評価の概要』を毎年HPに公開している。この報告書においては、当該科目を管轄する主任教員の総括コメント(現状分析や今後の課題など)が掲載されている。学生は、HP上のこれらの情報にアクセスして、履修登録の際の参考とすることができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目「ICTリテラシー I」については全学必修科目であり、基礎を全学生に履修させることで、数理・データサイエンス・AI教育の導入教育を行い、その上位科目の「ICTリテラシー II」や関連科目の「統計入門」の履修につなげることができる。実際に、「ICTリテラシー I」を受講した学生の83%が「ICTリテラシー II」を受講している。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本教育プログラムの履修者の修了生はまだいないが、本学のキャリアセンターにおいて、学生の就職先調査を毎年行っており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。また、本学卒業生を採用した企業に対して企業アンケートを3年に1度実施している。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の運営主体である広島県立大学法人が行う「法人評価委員会」では、学外の大学関係者だけではなく、産業界からも委員を任命して外部評価を行っている。評価委員会から指摘のあった課題や意見については、毎年、改善や見直し等を行っている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、学部ごとの専門分野も加味した社会での実例をもとにAI等がどのような活用をされているかを中心に扱い、学生が関心を深めることができる講義内容としている。また、学生による授業評価アンケート等を活用し、その内容について必要な見直しを行っている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「学生による授業評価アンケート」を学期ごとに実施し、学生の理解度や授業への関心を調査している。また、学部の専門分野に近接した事例をあげるなどして、学生が好奇心を寄せ、より深く学びたいような授業づくりを行っている。これにより、数理・データサイエンス・AI分野の知識が学生自身の専門分野や、就職後にも重要であり役立つことであると認識させることができている。

授業科目名	ICTリテラシー I d (Q1)		
担当教員氏名	佐々木宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。事前にメール等で在室時間を確認すること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 学生が週2時間の授業外学修を行うことを想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	地域創生学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高・栄養教諭一種 必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを 使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・インターネット等を った情報検索 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法 ・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。		

授業計画	準備学習
第1回	(1)授業の進め方の説明, (2)学内ネットワーク・情報処理演習室利用の注意事項, (3)スマートフォンセキュリティその1 (DVD視聴), (4)タッチタイピング (美香のタイプトレーナ, タイプウエル国語R) Windowsの基本操作について復習しておくこと タイピング練習, 毎日練習, 第11回授業で検定を実施
第2回	(1)入力装置の基本操作について, (2)ファイルの保存と管理について, (3)プリンタへの出力について, (4)スマートフォンセキュリティその2 (DVD視聴), (5)タイピング練習 Windowsの基本操作について復習しておくこと
第3回	(1)Office365 (Outlook) の い方, (2)情報倫理・セキュリティに関する注意事項, (3)メール利用上の注意事項, (4)スマートフォンセキュリティその3 (DVD視聴), (5)タイピング練習 Windowsの基本操作について復習しておくこと
第4回	(1)情報活用力テキスト Section11 プレゼンテーション I, (2)プレゼン資料作成演習第1回 PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第5回	(1)情報活用力テキスト Section1 情報検索, (2)出発地から目的地までの経路検索 Webブラウザ, Wordの基本操作について復習しておくこと
第6回	(1)デザインの基本原則, (2)スライドマスタの利用, (3)プレゼン資料作成演習第2回 PowerPointの基本操作について復習しておくこと

第7回	(1)情報活用カテキスト Section12 プレゼンテーションⅡ, (2)プレゼン資料作成演習第3回	PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第8回	(1)情報活用カテキスト Section13 プレゼンテーションⅢ, (2)課題1: PowerPointによる架空の発表資料作成	PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第9回	(1)情報活用カテキスト Section6 ファイル・データ管理, (2)タイピング練習	Windowsの基本操作について復習しておくこと
第10回	(1)情報活用カテキスト Section9 文書表現 (文章作成のポイント, 文書の体裁を整える), (2)タイピング練習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第11回	(1)タイピング練習, (2)課題2: タイピング検定	タッチタイピングの練習をしておくこと
第12回	(1)情報活用カテキスト Section9 文書表現 (さまざまな文書), (2)ビジネス文書作成演習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第13回	(1)情報活用カテキスト Section10 ビジュアル表現, (2)図解表現演習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第14回	(1)レポートの基本・構成・作成手順, (2)文書作成ドリル第1回	Webブラウザ, Word, Excelの基本操作について復習しておくこと
第15回	(1)文書作成ドリル第2回, (2)課題3: Wordによるレポート作成	Webブラウザ, Word, Excelの基本操作について復習しておくこと
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシー I b (Q1)		
担当教員氏名	小川 仁士		
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 週2時間の授業外学修を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時まで提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	生命環境学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高一種免（全教科）必修		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切 ツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・インターネット等を使った情報検索 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法 ・プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好 者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー 第4版 ISBN978-4-908434-25-9		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。		
授業計画	準備学習		
第1回	①授業の進め方の説明, ②学内ネットワーク・情報処理演習室利用の注意事項, ③スマートフォンセキュリティその1 (DVD視聴), ④タッチタイピング (美香のタイプトレーナー, タイプウェル国語R)		
第2回	①入力装置の基本操作について, ②ファイルの保存と管理について, ③プリンタへの出力について, ④スマートフォンセキュリティその2 (DVD視聴), ⑤タイピング練習		
第3回	①Office365 (Outlook) の使い方, ②情報倫理・セキュリティに関する注意事項, ③メール利用上の注意事項, ④スマートフォンセキュリティその3 (DVD視聴), ⑤タイピング練習		
第4回	①情報活用力テキスト Section11 プレゼンテーション I, ②プレゼン資料作成演習第1回		
第5回	①情報活用力テキスト Section1 情報検索, ②出発地から目的地までの経路探索		
	Windowsの基本操作について復習しておくこと タイピング練習, 毎日練習, 第11回授業で検定を実施		
	Windowsの基本操作について復習しておくこと		
	Windowsの基本操作について復習しておくこと		
	PowerPointの基本操作について復習しておくこと		
	Webブラウザ, Wordの基本操作について復習しておくこと		

第6回	①デザインの基本原則, ②スライドマスタの利用, ③プレゼン資料作成演習第2回	PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第7回	①情報活用力テキスト Section12 プレゼンテーションⅡ, ②プレゼン資料作成演習第3回	PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第8回	①情報活用力テキスト Section13 プレゼンテーションⅢ, ②課題1: PowerPointによる架空の発表資料作成	PowerPointの基本操作について復習しておくこと
第9回	①情報活用力テキスト Section6 ファイル・データ管理, ②タイピング練習	Windowsの基本操作について復習しておくこと
第10回	①情報活用力テキスト Section9 文書表現 (文章作成のポイント, 文書の体裁を整える), ②タイピング練習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第11回	①タイピング練習, ②課題2: タイピング検定	タッチタイピングを練習しておくこと
第12回	①情報活用力テキスト Section9 文書表現 (さまざまな文書), ②ビジネス文書作成演習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第13回	①情報活用力テキスト Section10 ビジュアル表現, ②図解表現演習	Wordの基本操作について復習しておくこと
第14回	①レポートの基本・構成・作成手順, ②文書作成ドリル第1回	Webブラウザ, Word, Excelの基本操作について復習しておくこと
第15回	①文書作成ドリル第2回, ②課題3: Wordによるレポート作成	Webブラウザ, Word, Excelの基本操作について復習しておくこと
第16回		
授業計画		
シラバス備考	授業の形式・方式についてはコロナウイルス感染症をめぐる社会情勢次第で変更する可能性がある。変更する場合は、ポータル配信(掲示登録)などで事前に通知する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシー I (看A) Q1		
担当教員氏名	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義（対面講義を前提とするが、状況によってオンライン・ハイブリッドへの切り替えも検討する） 授業日程に従って、配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	看護学コース1年次対象		
免許等指定科目	養護教諭一種免許状取得のための必修科目		
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 情報を適切に活用できる基礎知識やスキルを習得することを目とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力		
授業の内容	デジタル教材を併用し、授業を行う。 インターネット等を使った情報検索について学習する。 情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席および課題未提出は評価の対象外とする。 課題の提出を30%、課題の内容を70%、合計100%として評価する。演習課題（宿題）は毎回の授業の最後に提示する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	なし		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。		

授業計画	準備学習
第1回	①授業計画の説明, ②学内ネットワーク・情報処理演習室利用の注意事項, ③Microsoft365メール転送《対面講義: 演習室》
第2回	①学生ポータルについて, ②情報処理演習室でのファイルの保存と管理について, ③IPA動画(スマホやSNSの注意)《対面講義: PC持参》
第3回	①Office365の使い方, ②情報倫理・セキュリティに関する注意事項, ③SNSの心得, ワンクリック請求(DVD視聴), ④タイピング練習《対面講義: PC持参》
第4回	①ビジネス文書の検索・作成, ②情報検索《対面講義: PC持参》
第5回	表計算ソフト(Excel)の使い方・活用《対面講義: PC持参》

直前講義における検索したファイルを保存する項目を復習しておくこと

第6回	①数値データの検索②数値データから図表の作成③データ収集《対面講義：PC持参》	Word文書の作成の仕方の項目を復習すること
第7回	PowerPointの基本的な使い方（ビジュアル表現）《対面講義：PC持参》	あいさつ文の作成、他人に伝わる文書の検索を行ってくる
第8回	PowerPointの図表の挿入（ビジュアル表現）《リアルタイムオンライン講義》	図表の貼り付け方を学習すること
第9回	文献検索（邦文・英語論文）《リアルタイムオンライン講義》	身近な題材（生活習慣病等）を用いた案内文書の作成を行うため、情報検索を復習すること
第10回	文献検索（邦文・英語論文）《対面講義：PC持参》	身近な題材（生活習慣病等）を用いた案内文書の作成を行うため、文書保存を復習すること
第11回	プレゼンテーション準備《対面講義：PC持参》	身近な題材（生活習慣病等）を用いた案内文書を完成させるため、筋道をつけてくること
第12回	プレゼンテーション準備《対面講義：PC持参》	ポートフォリオの作成、資料を完成させてくる
第13回	プレゼンテーション準備《対面講義：PC持参》	人に伝えるビジュアルを学んでくること
第14回	プレゼンテーション I 《対面講義：PC持参》	事前配布資料の強調する個所を考えてくること
第15回	プレゼンテーション II 《対面講義：PC持参》	発表スライドを完成させてくること
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク 1		
URLリンク 2		
URLリンク 3		

授業科目名	ICTリテラシー I (理学) Q1		
担当教員氏名	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。 		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とするが、Microsoft Teamsを使用するハイブリッド型授業形式も計画している。詳細については初回の授業に提示する。 ・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。 ・毎回の授業毎にレポート課題を課す。 ・受講者は、授業への参加、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。 		
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	理学療法学コース・作業療法学コース・コミュニケーション障害学コース1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は全学共通教育科目中の学びスキル・リテラシーに区分される。 ・受講者は情報を適切に活用できる基礎知識やスキルを習得することを旨とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 ・具体には、適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力を身に付けることを目標とする。 ・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力を身に付けることを目標とする。 ・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力を身に付けることを目標とする。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材等を活用し、授業を行う。 ・インターネット等を使った情報検索について学習する。 ・情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。 ・文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。 ・プレゼンテーションを効果に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。 ・情報科学に関する基礎知識について学び、演習により理解を深める。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・4回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。 ・レポート課題は各授業の終了時に提出する課題の内容により評価する。 ・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。 ・期末試験では主に講義で教示した内容から問題を作成し試問する。 ・期末試験は指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート、参考書、PC、電卓などの持ち込み不可で実施する。 ・成績評価は、授業参加(出席状況と授業への取り組み態度)および期末試験30%、レポート課題70%の割合で判定する。 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト(教科書)は特に指定しない。 ・別途資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルにアップロードまたは他の方法によって提示する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の他、授業の進行に応じて適宜紹介する。 ・noa出版(本田直也監修)『考える伝える分かちあう情報活用力[第4版]』ワークアカデミー、2017年<9784908434259> 		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやネットワーク技術を有効に利用するための基礎知識を習得する上で、情報リテラシーは重要な科目です。 ・予習・復習も非常に大切ですが、授業中に疑問を生じた場合はそのまませず、積極的に質問を行うなど、なるべくその場で解決するようにしてください。 ・また、演習は通常の受け身の講義とは異なり、能動的に手足と頭脳を働かせ、積極的に授業に参加する態度が必要です。 		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	「情報処理演習室ガイダンス・教学システム操作説明会」において配布される【アカウント情	

		報通知票】を必ず持参すること。
第2回	①Windowsの基本操作（マウス・キーボードの操作、ファイル作成、フォルダ作成、属性確認・変更等） ②ファイルの保存と管理について（外部記憶装置と記憶媒体等）	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第3回	【電子メールの利用 その1】 電子メールの仕組み、電子メールの要素	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第4回	【電子メールの利用 その2】 Microsoft 365の使い方（送信、受信、返信、転送、メール削除、添付ファイル、アドレス帳等）	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第5回	【ワード文章作成 その1（基本と応用）】 Word起動、基本画面、文字入力（モード変更）、文字挿入・上書き・削除、文字の配置・コピー・移動、操作の戻し・やり直し・繰り返し、Wordファイル保存、フォントのサイズと色、段落の配置、タブ・均等割り、箇条書き・段落番号、行間変更、ヘッダーとフッター、ページ設定など	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第6回	【ワード文章作成 その2（発展）】 ワードアートの挿入・配置、グリッパアートの挿入・配置、図（画像やファイル）の挿入・配置、表作成など	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第7回	【情報科学の基礎知識 その1】 インターネットについて講義を行う。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第8回	【情報科学の基礎知識 その2】 情報セキュリティ（その1）について講義を行う。	・ 該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。 ・ 授業中に小テストを実施するので、前回の授業内容についてよく復習しておく。
第9回	【情報科学の基礎知識 その3】 情報セキュリティ（その2）について講義を行う。	・ 該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。 ・ 授業中に小テストを実施するので、前回の授業内容についてよく復習しておく。
第10回	【PowerPointによるプレゼン演習 その1】 基本画面、表示モード、文字入力、図形挿入、クリップアート挿入など	・ 該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。 ・ 授業中に小テストを実施するので、前回の授業内容についてよく復習しておく。
第11回	【PowerPointによるプレゼン演習 その2】 図形作成、表・グラフ挿入など	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第12回	【PowerPointによるプレゼン演習 その3】 スライド追加、スライド一覧モード、スライド実行、文字と図形のアニメーション設定など	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第13回	【表計算ソフトの利用 その1（データ入力の基本）】 表計算ソフトの一つであるExcelで行う基本的なデータの入力と修正、そして作成したブックの保存方法について説明する。またExcelが扱うデータの種類や、その操作方法について、各自演習を行い、内容を理解する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第14回	【表計算ソフトの利用 その2（関数 その1）】 関数の種類や書き方などについて解説する。合計・平均値・最大値・最小値を求める関数や標準偏差・個数・条件付個数を求める関数などの利用方法について、各自演習を行い、内容を理解する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。
第15回	【表計算ソフトの利用 その3（関数 その2）】 関数の種類や書き方などについて解説する。IF関数や整	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について

	数部・剰余を求める関数などの利用方法について、各自演習を行い、内容を理解する。	て事前に準備学習をしておくこと。
第16回	期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に通知した試験範囲について、十分に試験勉強を行っておくこと。 ・原則として、「補充試験」等は実施しない。
授業計画		
シラバス備考	授業で使用する講義資料（スライド【PDF形式】や課題等）をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシーⅡ e (Q3)		
担当教員氏名	佐々木宣介		
研究室の場所	広島キャンパス 1545研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー	質問等には随時対応する。事前にメール等で在室時間を確認すること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 学生が週2時間の授業外学修を行うことを想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科 1年次対象		
免許等指定科目	中・高・栄養教諭一種 必修		
キーワード	情報活用力, 数値分析, 情報運用, データ・AI（人工知能）利活用技術		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正し 安全に運用する力 ・データ・AI（人工知能）利活用技術の概要および、社会における活用例について理解すること		
授業の内容	テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・コンピュータを利用した数値分析の基礎 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法 ・社会におけるデータ・AI利活用の現状 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等		
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。		
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。		
授業計画	準備学習		
第1回	(1)授業の進め方の説明, (2)情報活用力テキスト Section2 情報運用, (3)組織における情報漏えい (DVD視聴)		Webブラウザの基本操作について復習しておくこと
第2回	(1)データ・AI利活用技術の概要, (2)データ・AI利活用技術の社会における活用例, (3)データ・AI利活用における注意点		社会においてデータ・AI利活用の事例について調べてみる
第3回	(1)情報活用力テキスト Section7 インターネットコミュニケーションⅠ (インターネットを利用したコミュニケーション, ルールやマナーの原則), (2)ホームページ作成演習第1回		教科書の該当部分を予習しておくこと
第4回	(1)情報活用力テキスト Section7 インターネットコミュニケーションⅠ (メールコミュニケーション), (2)ホームページ作成演習第2回		教科書の該当部分を予習しておくこと
第5回	(1)情報活用力テキスト Section8 インターネットコミュニケーションⅡ (情報の発信のルール, インターネットを通じた情報発信ツール), (2)ホームページ作成演習第3回		教科書の該当部分を予習しておくこと
第6回	(1)情報活用力テキスト Section8 インターネットコミュニケーションⅡ (ソーシャルメディア), (2)		教科書の該当部分を予習しておくこと

	課題1：オリジナルホームページの作成	
第7回	(1)情報活用カテキスト Section3 数値分析Ⅰ（数値分析とは），(2)表計算演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第8回	(1)情報活用カテキスト Section3 数値分析Ⅰ（データを加工する），(2)表計算演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第9回	(1)グラフの基本，(2)グラフ作成演習	Excelの基本操作について復習しておくこと
第10回	(1)様々な関数の利用，(2)関数活用演習	Excelの基本操作について復習しておくこと
第11回	(1)情報活用カテキスト Section4 数値分析Ⅱ（データを分析する），(2)データ分析演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第12回	(1)情報活用カテキスト Section4 数値分析Ⅱ（データ分析実習），(2)データ分析演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第13回	(1)情報活用カテキスト Section5 データベース（データベースを使ってみる），(2)データベース作成演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第14回	(1)情報活用カテキスト Section5 データベース（データベースからデータを取り出す），(2)データベース作成演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第15回	(1)情報活用カテキスト Section5 データベース（データベース作成実習），(2)課題2：Excelによる表計算データベース作成	Excelの基本操作について復習しておくこと
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシーⅡ F (Q3) (2019以前情報リテ演習読替)			
担当教員氏名	小川 仁士			
研究室の場所	広島キャンパス 1548研究室			
連絡先電話番号	学生便覧参照			
オフィスアワー	質問等には随時対応する。 研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。			
E-mail/HP	学生便覧参照			
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 週2時間の授業外学修を想定した授業を行う。 学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時まで提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。			
単位数(時間数)	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	生命環境学科 1年次対象			
免許等指定科目	中・高一種免(全教科)必修			
キーワード	情報活用力, 数値分析, 情報運用, データ・AI(人工知能)利活用技術			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに区分される科目である。情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力 ・データ・AI(人工知能)利活用技術の概要および、社会における活用例について理解すること			
授業の内容	テキストとデジタル教材を併用し、以下にあげる内容の授業を行う。 ・コンピュータを利用した数値分析の基礎 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法 ・社会におけるデータ・AI利活用の現状 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等			
成績評価の方法	3回以上の欠席は評価の対象外とする。 A以上の評定値は、課題への取組状況が良好な者に対して与える。			
テキスト	noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー 第4版 ISBN978-4-908434-25-9			
参考文献	講義の中で紹介する。			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。			
授業計画	準備学習			
第1回	(1)授業の進め方の説明, (2)情報活用力テキスト Section2 情報運用, (3)組織における情報漏えい(動画視聴)		Webブラウザの基本操作について復習しておくこと	
第2回	(1)データ・AI利活用技術の概要, (2)データ・AI利活用技術の社会における活用例, (3)データ・AI利活用における注意点		社会においてデータ・AI利活用の事例について調べてみる	
第3回	(1)情報活用力テキスト Section7 インターネットコミュニケーションⅠ (インターネットを利用したコミュニケーション, ルールやマナーの原則), (2)ホームページ作成演習第1回		教科書の該当部分を予習しておくこと	
第4回	(1)情報活用力テキスト Section7 インターネットコミュニケーションⅠ (メールコミュニケーション)		教科書の該当部分を予習しておくこと	

	ン) , (2)ホームページ作成演習第2回	
第5回	(1)情報活用力テキスト Section8 インターネットコミュニケーションⅡ (情報の発信のルール, インターネットを通じた情報発信ツール) , (2)ホームページ作成演習第3回	教科書の該当部分を予習しておくこと
第6回	(1)情報活用力テキスト Section8 インターネットコミュニケーションⅡ (ソーシャルメディア) , (2)課題1 : オリジナルホームページの作成	教科書の該当部分を予習しておくこと
第7回	(1)情報活用力テキスト Section3 数値分析Ⅰ (数値分析とは) , (2)表計算演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第8回	(1)情報活用力テキスト Section3 数値分析Ⅰ (データを加工する) , (2)表計算演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第9回	(1)グラフの基本, (2)グラフ作成演習	Excelの基本操作について復習しておくこと
第10回	(1)様々な関数の利用, (2)関数活用演習	Excelの基本操作について復習しておくこと
第11回	(1)情報活用力テキスト Section4 数値分析Ⅱ (データを分析する) , (2)データ分析演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第12回	(1)情報活用力テキスト Section4 数値分析Ⅱ (データ分析実習) , (2)データ分析演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第13回	(1)情報活用力テキスト Section5 データベース (データベースを使ってみる) , (2)データベース作成演習第1回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第14回	(1)情報活用力テキスト Section5 データベース (データベースからデータを取り出す) , (2)データベース作成演習第2回	Excelの基本操作について復習しておくこと
第15回	(1)情報活用力テキスト Section5 データベース (データベース作成実習) , (2)課題2 : Excelによる表計算データベース作成	Excelの基本操作について復習しておくこと
第16回		
授業計画		
シラバス備考	授業の形式・方式についてはコロナウイルス感染症をめぐる社会情勢次第で変更する可能性がある。変更する場合は、ポータル配信（掲示登録）などで事前に通知する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシーⅡ（看A）Q3		
担当教員氏名	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義（対面講義を前提とする。なお、状況によってハイフレックスも行う）授業日程に従って、配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。 学習単元毎に宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学コース1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力, 時系列データ分析, データ・AIの利活用, 個人情報		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。 社会で起きているデータ・AIの基礎知識およびその利活用を学び、データサイエンスの基礎を身に付ける。そして、時系列データを扱い、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。 具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。 ・社会におけるデータ・AI利活用を学び、社会変化を捉え、課題を見出す力 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力 ・個人情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力		
授業の内容	配布資料とデジタル教材を併用し、授業を行う。 データ・AIの基礎知識を身に付け、コンピュータを利用した時系列の数値分析の基礎について学習する。 データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。 演習課題（宿題および授業時間内の課題も含む）を70%、課題発表を30%、合計100%で評価する。 演習課題（宿題）は毎回の授業の最後に提示する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト	なし		
参考文献	講義の中で紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。 前期のICTリテラシー1を習得していること。		

授業計画	準備学習
第1回 ガイダンス、講義の進め方 社会におけるデータ・AI利活用：社会で起きている変化 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	前期のICTリテラシーを復習
第2回 社会におけるデータ・AI利活用：社会で活用されているデータ 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	AIを使っている医療データが使われている事例
第3回 社会におけるデータ・AI利活用：データ・AIの活用領域・現場 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	医療現場におけるAI活用事例
第4回 社会におけるデータ・AI利活用：データ・AIの活用のメリットデメリット 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	医療現場におけるAI活用事例

第5回	社会におけるデータ・AI活用：データ・AI利用のための技術 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	メリット・デメリットのレポート提出 画像を利用したAI演習を行うため、動画を準備
第6回	社会におけるデータ・AI活用：データ・AI利用の最新動向 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	文献検索
第7回	社会におけるデータ・AI活用：データ・AIを扱う上での留意事項 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	個人情報保護法を調べてくる
第8回	社会におけるデータ・AI活用：データを守る上での留意事項 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	データの提供について（同意、同意拒否）
第9回	時系列データを用いた課題解決 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	e-Statとは？
第10回	諸課題の検索、問題点抽出（医療、介護、社会保障の3分野） 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	e-Statを用いた時系列データの検索
第11回	PowerPointによる課題解決のための施策提案資料作成 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	事前資料の復習をすること
第12回	PowerPointによる課題解決のための施策提案資料作成 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	事前資料の復習をすること
第13回	PowerPointによる施策提案についてIoTやデータの活用提案 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	事前資料の復習をすること
第14回	時系列データを用いた課題解決施策の提案（IoTの活用策を含める） 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	発表準備
第15回	時系列データを用いた課題解決施策の提案（IoTの活用策を含める） 対面講義（感染拡大の状況によりオンライン講義に変更する場合があります）	発表準備
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	ICTリテラシーⅡ（理学）Q3		
担当教員氏名	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室（4号館4階）		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。 		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とするが、Microsoft Teamsを使用するハイブリッド型授業形式も計画している。詳細については初回の授業に提示する。 ・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。 ・毎回の授業毎にレポート課題を課す。 ・受講者は、授業への参加とレポート課題の提出が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。 		
単位数（時間数）	1.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	理学療法学科コース・作業療法学科コース・コミュニケーション障害学コース1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	情報活用力、数値分析、データ・AIの利活用、著作権、個人情報、インターネットのセキュリティ技術		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は全学共通教育科目中の学びスキル・リテラシーに区分される。 ・受講者は情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表に関する活用力を身に付ける。 ・具体的には、社会におけるデータ・AIの利活用について学び、社会変化を捉え、課題を見出す力を身に付けることを目標とする。 ・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力を身に付けることを目標とする。 ・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力を身に付けることを目標とする。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材等を活用し、授業を行う。 ・データ・AIの基礎知識を身に付け、コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。 ・データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。 ・インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・4回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。 ・レポート課題は各授業の終了時に提出する課題の内容により評価する。 ・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。 ・期末試験では主に講義で教示した内容から問題を作成し試問する。 ・期末試験は指定された試験の日時に、指定された教室（試験室）内で、ノート、参考書、PC、電卓などの持ち込み不可で実施する。 ・成績評価は、授業参加（出席状況と授業への取り組み態度）および期末試験30%、レポート課題70%の割合で判定する。 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト（教科書）は特に指定しない。 ・別途資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示する。 		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の他、授業の進行に応じて適宜紹介する。 ・noa出版（本田直也監修）『考える伝える分かちあう情報活用力【第4版】』ワークアカデミー、2017年<9784908434259> 		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のコンピュータやネットワークを中心とするICT技術の進歩には目を見張るものがありますが、その基礎と応用を知る上で、情報リテラシー演習は重要な科目です。 ・本科目ではこれらの知識を理解する上で必要となる基礎的技術だけではなく、その応用分野を中心に 代社会とコンピュータの関わりや必要性について講義するとともに、適宜の演習により各自の理解の程度を確認します。 		
授業計画	準備学習		
第1回	<p>《講義》</p> <p>【コンピュータとネットワーク】</p> <p>①コンピュータやネットワークに関連する言葉、②コンピュータとは、③電卓との違い、④コンピュータの特性とは、⑤ 在のコンピュータがもっていない機</p>		<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので、内容について事前に準備学習をしておくこと。</p>

	能・特性, ⑥コンピュータの種類, ⑦1970年頃までのコンピュータのイメージ, ⑧マイコンの登場, ⑨パソコンの登場, ⑩コンピュータの両極化と融合, ⑪情報ネットワークとは, ⑫情報ネットワーク(インターネット)の利用, などの項目について講義を行う。	
第2回	<p>《講義》</p> <p>【社会で活用されるデータ・AIとその最新動向】</p> <p>①人工知能(AI)とは, ②身近に存在するAI, ③AIの歴史, ④機械学習とは, ⑤ディープラーニングとは, ⑥社会におけるデータ・AIの利活用, などの項目について講義を行う。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第3回	<p>《講義》</p> <p>【2進数の世界 その1】</p> <p>①10進数と2進数, ②10進数と2進数の対応, ③10進数の2進数変換, ④2進数の10進数変換, ⑤2進数の加算・乗算・減算・除算, ⑥1より小さい数の2進数表現, などの項目について講義する。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第4回	<p>《講義》</p> <p>【2進数の世界 その2】</p> <p>①桁のシフト, ②補数, ③(基数-1)の補数, ④基数の補数, ⑤2進数の補数の簡単な求め方と補数による減算, ⑥8進数と16進数, ⑦10進数, 2進数, 8進数, 16進数の対応, ⑧2進数⇒8進数, 16進数, ⑨10進数⇒8進数, 16進数, ⑩8進数, 16進数⇒10進数, などの項目について講義する。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第5回	<p>《講義》</p> <p>【コンピュータ内部での情報の表し方】</p> <p>①情報の単位, ②コンピュータ内部での情報の表し方, ③さまざまなコード体系, ④内部での数値の表現, などの項目について講義する。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第6回	<p>《講義》</p> <p>【コンピュータシステム】</p> <p>①ハードウェアとソフトウェア, ②ハードウェアについて(入力装置, 出力装置, 記憶装置, 補助記憶装置, 演算・制御装置, CPU他), ③ソフトウェアについて(基本ソフトウェア, OSの機能・種類, アプリケーション・ソフトウェア他), などの項目について講義する。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第7回	<p>《講義》</p> <p>【インターネットで利用される暗号と認証の基礎】</p> <p>①通信に対する攻撃と暗号, 認証, ②暗号の用語, ③古典的な暗号(シーザー暗号), ④解読(総当たり攻撃と頻度分析攻撃), ⑤現代暗号, ⑥共通鍵暗号, ⑦代表的な共通鍵暗号方式, ⑧暗号の標準化と危殆化, などの項目について講義を行う。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第8回	<p>《講義》</p> <p>【公開鍵暗号方式と電子署名】</p> <p>①共通鍵暗号方式における鍵交換, ②シーザー暗号を利用した鍵交換, ③公開鍵暗号方式, ④電子署名, ⑤中間者攻撃, ⑥PKI(公開鍵認証基盤), ⑦SSL/TLSとHTTPS, などの項目について講義を行う。</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第9回	<p>《講義》</p> <p>【著作権と知的所有権】</p> <p>①著作権の考え方, ②現在の著作権法における取り扱い, ③著作人格権, ④著作権を持つ人が権利を行使できない場合, ⑤学校での著作物の利用, ⑥著作権が及ばない場合, ⑦著作権法の変化, ⑧知的所有権, などの項目について</p>	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。

第10回	<p>《講義》</p> <p>【個人情報とプライバシー，関連法令】</p> <p>①「個人情報」の定義，②個人情報を用いた個人の特 定，③データベース技術と個人情報，④プライバシ ー，⑤肖像権・パブリシティ権，⑥いくつかの法律， などの項目について講義する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第11回	<p>《講義+演習》</p> <p>【表計算ソフトの利用 その1】</p> <p>表計算ソフトの一つであるExcelのデータベース機 能，マクロ機能（簡単なプログラミング）やグラフ機 能について解説する。また，その利用方法について， 各自演習を行い，内容を理解する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第12回	<p>《講義+演習》</p> <p>【表計算ソフトの利用 その2】</p> <p>データのばらつきを表やグラフで要約することについ て解説 する。また，その利用方法について，各自演習を行 い，内容を理解する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第13回	<p>《講義+演習》</p> <p>【表計算ソフトの利用 その3】</p> <p>代表値による要約（平均値と中央値，最頻値），デー タを4つに分ける点（四分位数），ばらつきの大さを はかる指標（範囲と四分位範囲），分布の5数要約 と箱ひげ図について解説する。また，その利用方法に ついて，各自演習を行い，内容を理解する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第14回	<p>《講義+演習》</p> <p>【表計算ソフトの利用 その4】</p> <p>ばらつきの大さの指標，分散と標準偏差について解 説する。また，その利用方法について，各自演習を行 い，内容を理解する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第15回	<p>《講義+演習》</p> <p>【表計算ソフトの利用 その5】</p> <p>シグマの法則，標準（化）得点と偏差値について解説 する。また，その利用方法について，各自演習を行 い，内容を理解する。</p>	<p>該当回の授業における資料をTeamsの授業日に 対応するチャンネルに提示するので，内容につい て事前に準備学習をしておくこと。</p>
第16回	<p>期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に通知した試験範囲について，十分に試 験勉強を行っておくこと。 ・原則として，「補充試験」等は実施しない。
授業計画		
シラバス備考	<p>授業で使用する講義資料（スライド【PDF形式】や課題等）をTeamsの授業日に対応するチャンネルに 提示する。</p>	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	統計入門 (Q4)		
担当教員氏名	富田 哲治		
研究室の場所	広島キャンパス1680号室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィリアワー	研究室に在室時は随時可, 事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面 前半: 講義, 後半: PC演習形式		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	地域創生学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	統計的思考、記述統計、推測統計、回帰分析		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	ビッグデータの普及により、社会におけるデータ分析の人材が必要とされており、文系・理系問わず統計的思考は必要不可欠となっています。この講義では、統計的思考のベースとして、データの整理と要約法としての記述統計学、データから全体を予想する推測統計学の2つを学修する。		
授業の内容	高校までの文系数学程度の知識がある人を対象に、統計学の入門的な内容を扱う。		
成績評価の方法	講義中の演習課題(10%)、中間試験(30%)、期末試験(60%)		
テキスト	毎回、講義資料を配布する。		
参考文献	随時、講義中に紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業計画	準備学習	
第1回	ガイダンス	シラバスとコースカタログに目を通しておく。
第2回	データの要約と可視	ガイダンスで示した講義予定に基づき、第2回の学習内容について予習する。
第3回	偶然を測る(事象と確率)	第2回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第3回の学習内容について予習する。
第4回	確率変数	第3回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第4回の学習内容について予習する。
第5回	基本的な確率分布	第4回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第5回の学習内容について予習する。
第6回	母集団と標本の関係	第5回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第6回の学習内容について予習する。
第7回	中間試験	第6回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第7回の学習内容について予習する。
第8回	まとめと振り返り	第7回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第8回の学習内容について予習する。
第9回	区間推定	第8回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第9回の学習内容について予習する。
第10回	正規母集団の仮説検定(1標本)	第9回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第10回の学習内容について予習する。
第11回	正規母集団の仮説検定(2標本)	第10回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第11回の学習内容

		について予習する。
第12回	二値母集団の仮説検定	第11回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第12回の学習内容について予習する。
第13回	独立性の仮説検定	第12回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第13回の学習内容について予習する。
第14回	回帰分析入門	第13回の学習内容の理解を深める。ガイダンスで示した講義予定に基づき、第14回の学習内容について予習する。
第15回	期末試験	これまでの内容を復習しておく。
第16回	まとめと振り返り	これまでの内容を復習しておく。
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	統計入門 Q4 (2019以前統計学読替)		
担当教員氏名	岩田 貴樹		
研究室の場所	庄原キャンパス 2410研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	(授業時にお伝えします)		
E-mail/HP	tiwata@pu-hiroshima.ac.jp		
授業の形式・方式	オンライン		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	確率 確率分布 多変量 推定 最尤法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この数年、「統計学」「データ解析」と付いた本・雑誌が目につくことが示すように、統計学によるデータ解析が注目されている時代を迎えている。この授業では統計的解析を行う上で重要な「推定」に関する、基礎的な数理的取り扱いについて学ぶ。 本科目は、全学共通教育科目・学際知の1つである。		
授業の内容	確率および確率分布の概念とこれらに関する計算、様々な確率分布、1変数の確率分布から多変数のそれへの拡張、推定の概念および不偏性、最尤推定		
成績評価の方法	自筆のメモ書きのみ持ち込み可(詳しくは授業内にて説明する)とする期末試験(100%)による。試験は教室での試験実施を予定している(但し、新型コロナ ウイルスの感染状況などにより変更もあり得る)。		
テキスト	資料を配付する		
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	- 毎回の復習を欠かさないようにする。 - 「数学I」で扱った微分積分学を多用するので、(この授業内でもその復習は行うが回数に限りがあるので)理解が不十分と感じる者は、「数学I」で用いた教科書など適当な本(演習書)を参照にして十分な計算力を身につけておくこと。		

授業計画	準備学習
第1回 確率と離散型確率分布 オンライン(オンデマンド)	コースカタログ、シラバスを読んでおくこと
第2回 Bernoulli分布、Poisson分布 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第3回 1変数の微分・積分、連続型確率分布 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第4回 一様分布・指数分布 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第5回 第1~4回の復習 オンライン(リアルタイム)	前回の内容を復習しておく。
第6回 条件付き確率・確率変数の独立 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第7回 多変数(2変数)の微分・積分 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第8回 多変数確率分布 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第9回 多変数確率分布の平均・分散、周辺分布 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。
第10回 第6~9回の復習 オンライン(リアルタイム)	前回の内容を復習しておく。
第11回 確率変数の線形和の平均・分散 オンライン(オンデマンド)	前回の内容を復習しておく。

第12回	推定の基本概念と不偏性 オンライン（オンデマンド）	前回の内容を復習しておく。
第13回	最尤法・最尤推定 オンライン（オンデマンド）	前回の内容を復習しておく。
第14回	第11～13回の復習 オンライン（リアルタイム）	前回の内容を復習しておく。
第15回	最小二乗法と最尤法 オンライン（オンデマンド）	前回の内容を復習しておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	統計入門（看A）Q4		
担当教員氏名	飯田 忠行		
研究室の場所	三原キャンパス 2520研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡してください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面講義（対面講義を前提とするが、状況によってオンライン・ハイブリッドへの切り替えも検討する） 授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。毎週宿題（演習課題）を課し、次週の授業開始時に提出させる。 学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数（時間数）	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 看護学コース必修
履修要件	看護学コース1年次生		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格にかかる必修科目、養護教諭一種免許状取得のための必修科目		
キーワード	統計学、統計処理、表計算、数値計算、データ処理		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は、看護学科1年次生を対象にし、医療統計を学ぶ上での基本的な統計処理の技術を習得することを目標としている。具体的には、表計算ソフトであるExcelを使用して平均値や標準偏差の考え方といった基本的な事柄から始めて、相関分析と回帰分析、率分布と率密度関数、推定と検定までを網羅する。統計学に関連のあるExcel関数の基本を用いて、統計とは何かを学ぶ。		
授業の内容	まず、Excelの関数の基本操作について学び、基本統計とはなにか、代表値、散布図、度数分布、統計量要約グラフ、個々のデータの位置を知るなどの基本統計量を処理する方法を、続いて相関分析と回帰分析によってデータを解析する方法を学習する。率変数と率分布、2項分布、ポアソン分布、正規分布などの推測統計学に必要な率分布と率密度関数について学ぶ。さらに、母集団と標本、統計的推定、統計的検定(1標本:1集団)、統計的検定(2標本:2集団)などの本授業の目標である推定と検定を実際の例題を通して学習する。また、グループワークによって簡単な研究デザインを考え、統計解析を行う。		
成績評価の方法	5回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題（宿題および授業時間内の課題も含む）を70%、定期試験を30%の合計100%=100点により評価する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。		
テキスト			
参考文献	神田 善伸著: 初心者でもすぐにはできるフリー統計ソフトEZR(Easy R)で誰でも簡単統計解析		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	本授業科目は、EXCELを使った実技でもあるので、出来るだけ休まないようにしていただきたい。授業時間以外にもコンピュータに触れ、知識・技術の習得に努めてください		
授業計画	準備学習		
第1回	本講義のガイダンスとExcelを使った数値データの取り扱い、関数の基本操作などを説明する。	Office365にログインし、Excelを起動させる方法を学んでくる	
第2回	記述統計学の一変量解析のうち、代表値と散布度に関する講義とExcelを使った演習を2回に分けてを行う。	Excelを用いた簡単な計算式の入力を身に付けてくること	
第3回	前回到続いて、記述統計学の一変量解析のうち、代表値と散布度に関する講義とExcelを使った演習を行う。	事前学習の代表値の算出の仕方をしっかり復習すること	
第4回	記述統計学の一変量解析のうち、分布の形状と量的変数のグラフ化に関する講義とExcelを使った演習を行う。	分散と標準偏差の関係をしっかり身に付けておくこと	
第5回	記述統計学の一変量解析のうち、データの基準化と質的変数のグラフ化に関する講義とExcelを使った演習を行う。	直前の講義で行った平均値と標準偏差をきちんと理解するように復習してくること	
第6回	記述統計学の二変量解析のうち、量的変数×量的変数および量的変数×質的変数の関係に関する講義とExcelを使った演習を行う。	ノンパラメトリックなのかパラメトリックなのかを理解してくること	

第7回	記述統計学の二変量解析のうち、質的変数×質的変数の関係および単回帰分析に関する講義とExcelを使った演習を行う。	量的・質的データの集計をしっかりと復習してこと
第8回	確率変数と確率分布に関する講義とExcelを使った演習を行う。	確率とは何か？をサイコロを例に学んでくること
第9回	母集団と標本および標本平均の分布に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母集団とは？標本とは？この区別を事前に学習してこること
第10回	標本分散と標本比率の分布に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母平均・母分散・母比率と標本平均・標本分散・標本比率の区別を復習してこること
第11回	カイ2乗分布とF分布に関する講義とExcelを使った演習を行う。	質的アンケートを実施するため、事前にアンケートを用意してこること
第12回	推測統計の方法と母平均の検定と推定に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母平均と標本平均の区別をつけてこること
第13回	母分散と母比率の検定と推定に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母集団と標本の区別をつけてこること。分散と比率の求め方を復習すること
第14回	母平均の差と母分散の差の検定に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母集団と標本の区別をつけてこること。平均と分散の求め方を復習すること
第15回	母比率の差の検定と推定に関する講義とExcelを使った演習を行う。	母集団と標本の区別をつけてこること。比率の求め方を復習すること
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	統計入門 (Q4) (理学)		
担当教員氏名	川原田 淳		
研究室の場所	三原キャンパス 4424研究室 (4号館4階)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・特に時間帯を定めない。 ・可能な限りいつでも対応するので、予め、メールかMicrosoft Teamsのチャットで連絡してください。 		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業を基本とする。 ・Microsoft 365やTeams等を利用して授業を進めるので、必ず、PCを持参し、フル充電した状態で授業に臨むこと。 ・授業時間が3時間程度に及ぶので、その間にPCの電池切れなどが生じないように注意すること。電池切れの心配がある場合は、予備のバッテリーや充電器を用意しておくこと。 ・授業日程に従って、講義・演習併用形式で実施する。 ・毎回の授業毎にレポート課題を課す。 ・受講者は、授業への参加、課題の提出が義務付けられる。※成績評価の方法も参照してください。 		
単位数 (時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 コミュ必修, ほか選択
履修要件	理学療法学コース・作業療法学コース・コミュニケーション障害学コース・人間福祉学コース2年次対象, 理学療学科・作業療学科・コミュニケーション障害学科・人間福祉学科3・4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	標本, 母集団, 仮説, 検定, 推定		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【授業の目標】</p> <p>(知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な統計用語を説明できる。 ・検定, 推定の仕組みを説明できる。 <p>(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ながら, 統計ソフトを使って平均, 分散, 比率の検定ができる。 <p>(態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなデータを見て, どのような処理をすれば良いかについて自分で考えることができる。 <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は, 全学共通教育科目の教養・自然系 (2019年度以前入学者) あるいは学際知 (2020年度以降入学者) の一つとして位置付けられており, 卒業研究で必要とされる複雑な検定について, その結果を理解・解釈するための準備を行う。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の考え方と基礎的なデータ分析の方法を学ぶ。 ・データのばらつきの記述について, 統計データの特徴と分布の意味, 質的データと量的データに対する度数分布表とそのグラフの作り方と読み方を理解し, ばらつきのあるデータのまとめ方とデータの分布という視点を学ぶ。 ・データのばらつきの記述である基本統計量について, 分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し, 代表値である平均値, 中央値, 最頻値などの特徴を学ぶ。 ・ばらつきの大きさの尺度である分散と標準偏差を理解する。 ・確率の定義と身近な確率の使われ方, 理論分布として二項分布や正規分布を理解する。 ・母集団と標本, 全数調査と標本調査, 標本調査におけるランダムサンプリングの考え方について理解する。 ・統計的仮説検定のロジックと方法を学ぶ。 ・二つの項目に関するデータにおける項目間の関係を探る分析方法について学ぶ。 ・時間に依存して取られる時系列データの分析方法について学ぶ。 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・6回以上の欠席をした場合は成績評価の対象外とする。 ・レポート課題は各授業の終了時に提出する課題の内容により評価する。 ・課題の提出方法等については授業時間内に指示する。 ・成績評価は, レポート課題の評点 (100%) により行う。 ・レポート課題の評点には, 授業参加 (出席状況と授業への取り組み態度) の程度が含まれる。 ・レポート点が一定の基準に達していない者に対しては, 補充テスト (ペーパーテスト) を実施する。 ・補充テストは指定された試験の日時に, 指定された教室 (試験室) 内で, ノート, 参考書, PC, 電卓などの持ち込み不可で実施する。 		

テキスト	・石崎克也, 渡辺美智子『身近な統計』放送大学教育振興会, 2018年<9784595318986> ・別途資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示する。
参考文献	参考文献については授業の進行に応じて適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	・最近の統計学は統計ソフトウェアを用いることで, 以前のように高度な数学の知識がなくても, さまざまな統計手法を用いることが可能となってきました。その点で統計ソフトを使いこなせることが重要です。 ・しかし, 統計ソフトを利用して単に結果を計算することが重要ではありません。データに対する見方や目的に応じて適切な統計手法を選択できること, そしてその結果を見て, 意味や内容を解釈できることが必要です。 ・本科目ではこのような能力を育み, 容易に統計手法を活用するための方法について, しっかりとマスターしてください。

授業計画		準備学習
第1回	ガイダンス	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第2回	データのばらつきを表やグラフで要約する(質的データの場合) ～度数分布表とパレート図～ 統計データの特徴と分布の意味, 質的データに対する度数分布表とそのグラフ(パレート図)の作り方と読み方を解説する。とくに, ばらつきのあるデータをまとめることと, 分布という視点を持てるようになることを目指す。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第3回	データのばらつきを表やグラフで要約する(量的データの場合) ～度数分布表とヒストグラム～ 量的データに対してそのデータのばらつきの様子(分布)を記述する方法とそこからの情報の読み取り方を解説する。具体的には, 量的データに対する度数分布表とヒストグラムの作成方法, ヒストグラムの形状の特徴などを説明する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第4回	データのばらつきを数字でまとめる ～平均値・中央値と箱ひげ図～ 分布の特徴を数値で表すことの意味を理解し, 代表値としての平均値, 中央値, 最頻値の特徴を説明する。この回では, それらを目的やデータの状況に応じて, 使い分けができるようになることを目指す。また, 簡単に分布の様子がわかる箱ひげ図を紹介する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第5回	ばらつきを測る ～シグマ(標準偏差)の活用～ ばらつきを測る尺度である分散と標準偏差を解説し, とくに, 標準偏差の活用として, 正規分布と1シグマ2シグマ3シグマの法則との関係, 標準得点(zスコア), 偏差値を説明する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第6回	ばらつきを測る ～変動係数, 歪度, 尖度～ 分布の形状を測る基本統計量として, 歪度と尖度を説明する。また, ばらつきを測る尺度として, 変動係数を説明する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第7回	不確実な出来事を確率で考える ～2項分布～ 確率の定義と身近な確率の使い方, 確率変数の定義とその期待値の意味を解説する。次に理論分布としての2項分布を解説し, 具体的な確率計算と適用場面を紹介する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。
第8回	不確実な出来事を確率で考える ～正規分布～ 確率分布モデルとしての正規分布を解説し, 正規分布の確率計算の方法と活用の仕方を解説する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので, 内容について事前に準備学習をしておくこと。

第9回	統計を作る－部分から全体を知る ～標本調査～ 母集団と標本，全数調査と標本調査，標本調査におけるランダムサンプリングの考え方と具体的な方法を解説する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第10回	調査結果の誤差を知る ～推定値と標本誤差～ 標本調査における誤差の評価の仕組みを解説する。具体的に，標本分布と標準誤差の関係を説明し，比率の調査，平均の調査を区別して標本誤差の求め方を学習する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第11回	標本から仮説の真偽を判断する ～統計的仮説検定の考え方～ 母集団に関する仮説の真偽を判断するための統計的仮説検定のロジックを解説する。とくに，帰無仮説と対立仮説の違い，検定の方向性，検定統計量と棄却域，有意水準などの意味とランダムサンプリングとランダム割付の違いを学習する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第12回	データから関係を探る ～クロス集計表の読み方～ 2変数の間の関係をデータから記述する方法として，とくに質的変数に対して，クロス表の読み方，列効果と行効果，交互作用効果の意味を解説し，独立性の検定としてカイ2乗検定の方法を説明する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第13回	関係の傾向を読む ～相関関係と傾向線～ 量的データ間の関係を見るためのグラフとして散布図の読み方を説明し，とくに相関関係と相関係数を解説する。また，傾向線としての単回帰直線を学習する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第14回	時系列データの分析 ～変化の記述と将来の予測～ 時間に依存して取られるデータの記述の方法として，時系列グラフの描き方と読み方，時系列データの構成要素を説明する。また，傾向や変化の大きさをつかむための加工系列として，指数，（成長率と寄与度削除），移動平均を学習し，移動平均を利用した季節調整の考え方を学ぶ。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第15回	知識創造社会を支える統計 ～全体のまとめ～ 高度に情報化とグローバル化が進む21世紀の知識創造型の社会の中で，既に私たちの身近な生活と深く関わっている統計の意義と活用の実態を講義のまとめを通して，再度，学習する。また，問題練習を通して全体の講義の要点を復習する。	該当回の授業における資料をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示するので，内容について事前に準備学習をしておくこと。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	授業で使用する講義資料（スライド【PDF形式】や課題等）をTeamsの授業日に対応するチャンネルに提示する。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期					単位数		授業時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前前	前後	後前	後後	必修	選択	自由				
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シ ー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1		30	14単位以上	学部教員		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1		30		学部教員		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1		30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安, 岡部		
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1	30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安		
	英語総合Ⅰ	1	○	○			1		30		天野,(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅱ	1			○	○	1		30		吉本,(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅲ	2	○	○				1	30		天野,(船津),(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅳ	2			○	○	1		30		天野,(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅰ	1	○	○			1		30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅱ	1			○	○	1		30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅲ	2	○	○			1		30		(ボールドウィン),(スティチェック)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅳ	2			○	○	1		30		(ボールドウィン),(スティチェック),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	中国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる	
	中国語Ⅱ	1・2			○	○	1		30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる	
	韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる	
	韓国語Ⅱ	1・2			○	○	1		30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる	
	ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		(小田)	クラスにより開講期異なる	
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○	1		30		(小田)	クラスにより開講期異なる	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○					1	30		中石	留学生対象	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2			○			1	30		中石	留学生対象	
スポーツ実技Ⅰ	1			○	○	1		30	辻,(村上妃),(黒坂)	クラスにより開講期異なる			
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1		30	辻				
保健体育理論	2				○	2		30	辻				
全 学 共 通 教 育 科 目	学 際 知	哲学	1・2・3・4	○				2	30	8単位以上	大草		
		文学	1・2・3・4		○			2	30		遠藤, 西本寮, 柳川		
		芸術	1・2・3・4			○		2	30		矢澤		
		心理学	1・2・3・4				○	2	30		向居		
		社会学	1・2・3・4	○				2	30		澤田		
		歴史学	1・2・3・4		○			2	30		小平		
		倫理学	1・2・3・4			○		2	30		大草		
		経済学	1・2・3・4	○				2	30		(西手)		
		科学史	1・2・3・4	○				2	30		村田, 馬本, 福永, 松崎, 八木, 長尾, 崎田, 吉野, 岩田, 小林, 菅		
		生命倫理	1・2・3・4		○			2	30		吉川, 古山		
		基礎数学	1・2・3・4			○		2	30		富田哲		
		統計入門	1・2・3・4				○	2	30		富田哲		
		家族社会学	1・2・3・4				○	2	30		澤田		
		文化人類学	1・2・3・4		○			2	30		上水流		
		日本国憲法	1・2・3・4		○			2	30		岡田高		
		法学	1・2・3・4			○		2	30		岡田高		
		食と健康	1・2・3・4				○	2	30		長尾		
		いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30		岡田玄, 北台		
		環境と科学	1・2・3・4		○			2	30		原田浩, 内藤		
		生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2	30		(山田)		
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川俊					
考 論 理 現 思	アカデミック・ライティング	1			○	1		30	2単位以上				
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30					
	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30					
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	4単位以上	鈴木康, 和田, 大知			
	国際社会の理解	2・3・4			○		2	30		上水流			
	地域情報発信論	2・3・4		○			2	30		広谷, 藤井宣, 吉田倫, 伊藤	夏季集中		
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30					
	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2	30					
キ ャ リ ア 開 発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4			○		2	30	4単位以上	原田淳			
	ライフデザイン	2・3・4		○			2	30		岡田高, 日高, 村上			
	ボランティア	2・3・4	○				2	30		手島	集中		
	インターンシップ	2・3・4	○	○			2	30		原田淳			
	リーダー論	3・4	○				2	30	原田淳, 魚谷	夏季集中			
ダ イ バ ー シ ン テ イ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	4単位以上	澤田			
	人間関係論	2・3・4			○		2	30		(中谷)			
	人権論	2・3・4				○	2	30		岡田高			
	世界の宗教	2・3・4				○	2	30		上水流			
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30		河村			
	海外研修	2・3・4	○	○	○	○	2	30	吉本, 岡本弘				
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○			1	30	自由科目:卒業要件としない	(笠本)			
	数学入門演習	1	○	○			1	30		岩田			
	国語入門演習	1	○	○			1	30		五條			
	社会入門演習	1	○	○			1	30		伊藤			
	生物入門演習	1	○	○			1	30		伊原			
	物理入門演習	1	○	○			1	30		米村			
化学入門演習	1	○	○			1	30	三苫					
合 計										36単位以上			

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前前	前後	後前	後後	必修	選択	自由				
学部学科共通科目	多文化共生入門I	1				○		2		30	10単位以上修得	地域文化コース教員	多文化共生入門・IIまたは文化継承入門・IIのうちから選択必修(4単位)
	多文化共生入門II	2	○					2		30		地域文化コース教員	
	文化継承入門I	1				○		2		30		地域文化コース教員	
	文化継承入門II	2	○					2		30		地域文化コース教員	
	政治学	1	○					2		30		(原理)	
	国際経済論	1		○				2		30		(新宅)	
	地誌学	1			○			2		30		(酒川)	
	人文地理学	1				○		2		30		(酒川)	
	自然地理学	1	○					2		30		(澤田結)	
	国際法	2		○				2		30		(柳生)	
	国際政治論	2	○					2		30		(原理)	
	経営学概論	1	○					2		30		小原	
	会計学概論	1		○				2		30		加納	
	マーケティング概論	1			○			2		30		栗島	
	簿記原理	1			○			2		30		加納	
	ファイナンス概論	1				○		2		30		村上	
	ミクロ経済学	1				○		2		30		(西手)	
	経営管理論	2	○					2		30		平野	
	中級簿記	2	○					2		30		加納	
	工業簿記	2		○				2		30		足立	
	経営戦略論	2		○				2		30		朴	
	入門統計学	1	○					2		30		富田哲	
	IoT・情報システム基礎学	1		○				2		30		小川仁	
	経営情報論	1			○			2		30		広谷	
	基礎プログラミング入門	1				○		2		30		重丸	
	基礎情報学入門	1				○		2		30		小川仁	
	基礎情報活用演習	2	○					2		30		重丸	
	人工知能概論	2	○					2		30		市村	
	データサイエンス入門・同演習	2		○				2		30		富田哲	
	生命科学	1	○					2		30		藤井保	
	基礎化学	1	○					2		30		(藤田)	
	微生物学	3		○				2		30		(多山)	
	予防医学	1			○			1		15		安武	
保健政策論	1				○		1		15	安武			
公衆衛生学	3			○			1		15	(秋田), (杉山文)			
環境衛生学	3			○			1		15	(秋田), (杉山文)			
健康科学情報処理演習	2	○					2		30	鍛島			
多文化共生コア・ユニットI	共生社会論	2				○		2		30	富田和		
	多文化共生教育論	2			○			2		30	植村		
	人口社会論	2				○		2		30	(中島)	集中講義	
	共生認知心理論	2			○			2		30	向居		
	英国社会文化論	2			○			2		30	吉本	選択必修科目	
	米国社会文化論	2			○	2		30		栗原			
	英語文学論	2				○	2		30	(高橋渡)			
	英米文化史論	2			○			2		30	天野	選択必修科目	
	英語学	2			○		2		30	草薙			
	英語表現論	2				○		2		30	ローゼン	選択必修科目	
	英語音声学	2			○			2		30	(船津)	選択必修科目	
	英語コミュニケーション	2				○	2		30	草薙			
	メディア・イングリッシュ	2			○			2		30	(児玉)	選択必修科目	
	英国史論	2				○		2		30	(井内)	選択必修科目	
	米国史論	2			○			2		30	小平	選択必修科目	
	日本語教育学	2			○			2		30	中石		
	日本語・日本事情	2				○		2		30	中石		
	中国社会文化論	2			○			2		30	上水流		
	中国語文化論	2				○		2		30	工藤		
	韓国語文化論	2				○		2		30	鄭遇		
東アジア比較文化論	2			○			2		30	鄭銀			
国際関係史論	2				○		2		30	岡本			

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前前	前後	後前	後後	必修	選択	自由				
多文化共生 コア・ユニット	多文化共生マネジメント	3	○				2		30	第一コアユニット・IIから28単 位以上, 第二 コアユニット・II から12単位以 上	植村		
	共生社会論研究	3	○					2	30		富田和		
	多文化共生教育論研究	3		○				2	30		植村		
	多文化共生社会と法	3			○			2	30		岡田高	選択必修科目	
	人口社会論研究	3	○					2	30		(中島)	集中講義	
	共生認知心理論研究	3		○				2	30		向居		
	多文化接触と言語	3		○				2	30		馬本	選択必修科目	
	英国社会文化論研究	3	○					2	30		吉本	選択必修科目	
	米国社会文化論研究	3		○				2	30		栗原	選択必修科目	
	英語文学論研究	3			○			2	30		(高橋渡)	選択必修科目	
	英語学研究	3	○					2	30		草薙	選択必修科目	
	英語表現論研究	3		○				2	30		ローゼン	選択必修科目	
	英文法	3	○					2	30		草薙	選択必修科目	
	検定英語演習	3		○				1	30		(児玉)	選択必修科目	
	ディベート・プレゼンテーション	3			○			2	30		栗原, 鄭遇, 工藤	選択必修科目	
	米国史論研究	3	○					2	30		小平	選択必修科目	
	日本語教授法	3	○					2	30		中石		
	日本語教育実習	3		○				2	30		中石		
	中国社会文化論研究	3		○				2	30		上水流		
	中国語文化論研究	3	○					2	30		工藤		
韓国語文化論研究	3		○				2	30	鄭遇				
東アジア比較文化論研究	3	○					2	30	鄭銀				
観光まちづくり論	2				○		2	30	和田				
宮島学	2				○		2	30	鈴木, 大知, 工藤, 鄭銀, 西本寮, 目黒, 柳川, 宇野	選択必修科目			
日本地域論	2				○		2	30	(酒川)				
日本地域史論	2				○		2	30	(秋山)	選択必修科目			
日本文化史論	2				○		2	30	鈴木康	選択必修科目			
日本文化論	2				○		2	30	目黒	選択必修科目			
日本文学論(国文学)	2				○	2		30	西本寮				
日本語表象論	2				○	2		30	遠藤				
日本語文化論(日本語学)	2				○	2		30	小川俊				
日本語音声学	2				○		2	30	(高永)	選択必修科目			
中日対照言語学	2				○		2	30	(徐)	選択必修科目			
東アジア地域史論	2				○		2	30	岡本				
東アジア交流史論	2				○		2	30	(船田)				
東アジア文学論(中国文学)	2				○	2		30	柳川				
日中比較文学論	2				○	2		30	柳川	選択必修科目			
書誌学	2				○	2		30	目黒				
書道・書写	2				○		2	30	(森)	選択必修科目			
博物館概論	2				○		2	30	鈴木康				
生涯学習概論	2				○		2	30	(天野か)				
文化継承マネジメント	3	○				2		30	鈴木康				
観光まちづくり論研究	3	○				2		30	和田				
宮島観光学(英語)	3				○		2	30	(ウェバー), 西本寮				
宮島フィールドワーク	3	認定	認定	認定	認定	1			西本寮, 鈴木	選択必修科目			
日本地域論研究	3		○				2	30	(酒川)				
日本地域史論研究	3	○					2	30	(秋山)	選択必修科目			
日本文化史論研究	3		○				2	30	鈴木康	選択必修科目			
日本文化論研究	3	○					2	30	目黒	選択必修科目			
日本文学論研究	3		○				2	30	西本寮	選択必修科目			
日本語表象論研究	3	○					2	30	遠藤	選択必修科目			
日本語文化論研究	3	○					2	30	小川俊	選択必修科目			
東アジア地域史論研究	3		○				2	30	岡本弘				
東アジア文学論研究	3	○					2	30	柳川	選択必修科目			
地域協働演習	3		○				2	30	学部教員				
卒業論文(専門演習Ⅰ)	3		○				4	60	「卒業論文Ⅰ」 または「地域課 題解決研究Ⅰ」 から8単位	コース教員			
卒業論文(専門演習Ⅱ)	4		○				4	60		コース教員			
地域課題解決研究Ⅰ	3		○				4	60		学部教員			
地域課題解決研究Ⅱ	4		○				4	60		学部教員			

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前前	前後	後前	後後	必修	選択	自由				
コア・ユニット 専門教育科目	上級英語総合(Critical Reading I)	1	○					1	30	副専攻プログラム(多文化コミュニケーションプログラム)から選択履修	吉本		
	上級英語総合(Critical Reading II)	1			○			1	30		草薨		
	上級英語総合(Cross-Cultural Studies)	2	○					1	30		栗原		
	上級英語総合(Seminar)	2			○			1	30		栗原		
	上級英語表現(Global Communication I)	1			○			1	30		ローゼン		
	上級英語表現(Global Communication II)	1				○		1	30		(船津)		
	上級英語表現(Presentation I)	2			○			1	30		ローゼン		
	上級英語表現(Presentation II)	2				○		1	30		ローゼン		
	中級中国語総合	1				○		1	30		柳川		
	上級中国語総合	2			○			1	30		植村		
	中級中国語表現	2	○					1	30		工藤		
	上級中国語表現	2			○			1	30		工藤		
	中級韓国語総合	1				○		1	30		鄭遇		
	上級韓国語総合	2			○			1	30		鄭遇		
	中級韓国語表現	2	○					1	30		鄭銀		
	上級韓国語表現	2			○			1	30		鄭銀		
	外国語検定(英語)I(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(英語)II(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(英語)III(認定)	1	認定	認定	認定	認定		2	30				
	外国語検定(中国語)I(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(中国語)II(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(中国語)III(認定)	1	認定	認定	認定	認定		2	30				
	外国語検定(韓国語)I(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(韓国語)II(認定)	1	認定	認定	認定	認定		1	30				
	外国語検定(韓国語)III(認定)	1	認定	認定	認定	認定		2	30				
	博物館経営論	2				○		2	30		副専攻プログラム(学芸員)から選択履修	鈴木康	
	博物館資料論	2			○		2	30	(秋山)				
	博物館資料保存論	3	○				2	30	大知				
博物館展示論	3			○		2	30	大知					
博物館教育論	3			○		2	30	(秋山)					
博物館情報・メディア論	3				○	2	30	小川仁					
博物館実習	4	○				3	30	鈴木康, 大知					
合計													
卒業要件総合計							124		124単位以上				
その他科目(卒業要件外)	教育学概論	1				○		2	30		藤井宣		
	教職入門	1			○			2	30		(中村)		
	教育社会学	2	○					2	30		藤井宣		
	教育心理学	2		○				2	30		向居		
	特別支援教育	3		○				1	30		(平田)		
	教育課程論	2	○					2	30		(大橋)		
	道徳教育論	3	○					2	30		(宮里)		
	総合的な学習の時間の指導法	3		○				2	30		(大橋)		
	特別活動論	3		○				2	30		(山田浩)		
	教育方法学	3			○			2	30		(深澤)		
	情報通信技術の活用	3				○		1	15		未定		
	生徒・進路指導論	2				○		2	30		坪田・(中條)		
	教育相談	3	○					2	30		(森田)		
	教育実習指導	4	○					1	15		向居		
	教育実習I	4	○					2	60		向居		
	教育実習II	4	○					2	60		向居		
	教職実践演習(中・高)	4				○		2	30		門戸		
	介護等体験	3			○			2	50		向居		
	国語科教育法I	2				○		2	30		(谷口)		
	国語科教育法II	3	○					2	30		(谷口)		
	国語科教育法III	3		○				2	30		門戸		
国語科教育法IV	3			○			2	30		門戸			
英語科教育法I	2				○		2	30		馬本			
英語科教育法II	3	○					2	30		馬本			
英語科教育法III	3		○				2	30		(山岡)			
英語科教育法IV	3			○			2	30		(山岡)			

配当年次: 学生に履修を推奨する年次(履修可能な年次ではない)。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒ 配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3~4」のように記載している。⇒ 配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期: ○印が複数に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修: 当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択: 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)

自由: 単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

学部学科コース名: 地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース

科目区分 コア・ユニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前前	前後	後前	後後	必修	選択	自由				
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1			30	14単位以上	学部教員	
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1			30		学部教員	
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1			30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安, 岡部	
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1		30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安	
	英語総合Ⅰ	1	○	○			1			30		天野.(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる
	英語総合Ⅱ	1			○	○	1			30		吉本.(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる
	英語総合Ⅲ	2	○	○				1		30		天野.(船津),(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる
	英語総合Ⅳ	2			○	○		1		30		天野.(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる
	英語表現Ⅰ	1	○	○			1			30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる
	英語表現Ⅱ	1			○	○	1			30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる
	英語表現Ⅲ	2	○	○			1			30		(ポールドウィン),(ステイチェック)	クラスにより開講期異なる
	英語表現Ⅳ	2			○	○	1			30		(ポールドウィン),(ステイチェック),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる
	中国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる
	中国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる
	韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる
	韓国語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる
	ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1		30		(小田)	クラスにより開講期異なる
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○		1		30		(小田)	クラスにより開講期異なる
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○					1		30		中石	留学生対象
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2			○			1		30		中石	留学生対象
スポーツ実技Ⅰ	1			○	○	1			30	辻,(村上妃),(黒坂)	クラスにより開講期異なる		
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1			30	辻			
保健体育理論	2				○	2			30	辻			
学際知	哲学	1・2・3・4	○				2			30	8単位以上	大草	
	文学	1・2・3・4		○			2			30		遠藤, 西本寮, 柳川	
	芸術	1・2・3・4			○		2			30		矢澤	
	心理学	1・2・3・4				○	2			30		向居	
	社会学	1・2・3・4	○				2			30		澤田	
	歴史学	1・2・3・4		○			2			30		小平	
	倫理学	1・2・3・4			○		2			30		大草	
	経済学	1・2・3・4	○				2			30		(西手)	
	科学史	1・2・3・4	○				2			30		村田, 馬本, 福永松崎, 八木, 長尾, 崎田, 吉野, 岩田, 小林, 菅	
	生命倫理	1・2・3・4		○			2			30		吉川, 古山	
	基礎数学	1・2・3・4			○		2			30		富田哲	
	統計入門	1・2・3・4				○	2			30		富田哲	
	家族社会学	1・2・3・4				○	2			30		澤田	
	文化人類学	1・2・3・4		○			2			30		上水流	
	日本国憲法	1・2・3・4		○			2			30		岡田高	
	法学	1・2・3・4			○		2			30		岡田高	
食と健康	1・2・3・4				○	2			30	長尾			
いのちと科学	1・2・3・4	○				2			30	岡田玄, 北台			
環境と科学	1・2・3・4		○			2			30	原田浩, 内藤			
生活に役立つ科学	1・2・3・4			○		2			30	(山田)			
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2			30	小川俊			
考 論 表 現 現 思	アカデミック・ライティング	1			○	1			30	2単位以上			
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1		30				
地 域 課 題	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1		30	4単位以上			
	ひろしま理解	2・3・4		○			2		30		鈴木康, 和田, 大知		
	国際社会の理解	2・3・4			○		2		30		上水流		
	地域情報発信論	2・3・4		○			2		30		広谷, 藤井宣, 吉田倫, 伊藤	夏季集中	
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2		30				
キ ャ リ ア 開 発	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2		30				
	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4				○	2		30	原田淳			
	ライフデザイン	2・3・4		○			2		30	岡田高, 日高, 村上			
	ボランティア	2・3・4		○			2		30	手島	集中		
ダ イ バ ー シ テ イ	インターンシップ	2・3・4	○	○			2		30	原田淳			
	リーダー論	3・4	○				2		30	原田淳, 魚谷	夏季集中		
	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2		30	澤田			
	人間関係論	2・3・4			○		2		30	(中谷)			
	人権論	2・3・4				○	2		30	岡田高			
入 門 演 習	世界の宗教	2・3・4				○	2		30	上水流			
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2		30	河村			
	海外研修	2・3・4	○	○	○	○	2		30	吉本, 岡本弘			
	英語入門演習	1	○	○			1		30	(笠本)			
	数学入門演習	1	○	○			1		30	岩田			
	国語入門演習	1	○	○			1		30	五條			
	社会入門演習	1	○	○			1		30	伊藤			
生物入門演習	1	○	○			1		30	伊原				
物理入門演習	1	○	○			1		30	米村				
化学入門演習	1	○	○			1		30	三吉				
合 計									36単位以上				

学部学科コース名: 地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース

科目区分 コア・ユ ニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間 数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
学部 学科 共通 科目	多文化共生入門I	1				○	2		30	10単位以上修得 但し、 (1)経営コアユ ニット選択予定 者は「経営学概 論」「会計学概 論」「マーケティング概論」「簿 記原理」「ファイ ナンス概論」「ミ クロ経済学」「経 営管理論」「中 級簿記」「工業 簿記」「経営戦 略論」の10科 目から8単位を 含む10単位以 上修得。 (2)情報コアユ ニット選択予定 者は「入門統計 学」「IoT・情報シ ステム基礎学」 「基礎プログラミ ング入門」「基 礎情報学入門」 の4科目8単位 を含む10単位 以上修得。	地域文化コース教員		
	多文化共生入門II	2	○				2		30		地域文化コース教員		
	文化継承入門I	1				○	2		30		地域文化コース教員		
	文化継承入門II	2	○				2		30		地域文化コース教員		
	政治学	1	○				2		30		(原理)		
	国際経済論	1		○			2		30		(西手)		
	地誌学	1			○		2		30		(酒川)		
	人文地理学	1				○	2		30		(酒川)		
	自然地理学	1		○			2		30		(澤田結)		
	国際法	2		○			2		30		(柳生)		
	国際政治論	2	○				2		30		(原理)		
	経営学概論	1	○				2		30		小原		
	会計学概論	1		○			2		30		加納		
	マーケティング概論	1			○		2		30		栗島		
	簿記原理	1			○		2		30		加納		
	ファイナンス概論	1				○	2		30		村上		
	ミクロ経済学	1				○	2		30		(西手)		
	経営管理論	2	○				2		30		平野		
	中級簿記	2	○				2		30		加納		
	工業簿記	2		○			2		30		足立		
	経営戦略論	2		○			2		30		朴		
	入門統計学	1	○				2		30		富田哲		
	IoT・情報システム基礎学	1		○			2		30		小川仁		
	経営情報論	1			○		2		30		広谷		
	基礎プログラミング入門	1				○	2		30		重丸		
	基礎情報学入門	1				○	2		30		小川仁		
	基礎情報活用演習	2	○				2		30		重丸		
	人工知能概論	2	○				2		30		市村		
データサイエンス入門・同演習	2		○			2		30	富田哲				
生命科学	1	○				2		30	藤井保				
基礎化学	1	○				2		30	(藤田)				
微生物学	3		○			2		30	(多山)				
予防医学	1			○		1		15	安武				
保健政策論	1				○	1		15	安武				
公衆衛生学	3			○		1		15	(秋田), (杉山文)				
環境衛生学	3			○		1		15	(秋田), (杉山文)				
健康科学情報処理演習	2	○				2		30	鍛島				
経営 CU1	経営史	2	○				2		30	(森)			
	経営組織論	2			○		2		30	小原			
	流通システム論	2			○		2		30	栗島			
	公共経営論	2			○		2		30	和田			
	原価計算論	2			○		2		30	足立			
	金融論	2			○		2		30	塚原			
	マクロ経済学	2			○		2		30	(新宅)			
	ベンチャービジネス論	2				○	2		30	矢澤			
	社会調査論	2				○	2		30	(吉原)			
	人的資源管理論	2				○	2		30	平野			
	NPO論	2				○	2		30	(名波)	集中		
	パーソナルファイナンス論	2				○	2		30	村上			
	地域金融論	2				○	2		30	塚原			
	地域産業特別講義	2・3・4				○	2		30	栗島, 平野, 小原, 朴			
	地域金融特別講義	2・3・4				○	2		30	村上, 矢澤, 塚原			
情報 CU1	サプライチェーンマネジメント	2				○	2		30	広谷			
	マネジメント工学	2			○		2		30	広谷			
	応用情報研究序論	2			○		2		30				
	プログラミング	2			○		2		30	宇野			
	線形代数	2			○		2		30	陳春			
	情報数学I	2			○		2		30	折本			
	情報数学II	2				○	2		30	市村			
	プログラミング演習	2				○	1		30	宇野			
	オペレーティングシステム	2				○	2		30	重安			
	データベース	2				○	2		30	岡部			
	システム開発論	2			○		2		30	折本			
	機械学習	2			○		2		30	岡部			
知能情報学	2				○	2		30	韓				
経営 CU2	組織文化論	3	○				2		30	小原			
	商品・ブランド開発論	3	○				2		30	栗島	集中		
	財務会計論	3	○				2		30	(山崎)			
	金融システム論	3	○				2		30	塚原			
	税務会計論	3	○				2		30	足立			
	イノベーション論	3		○			2		30	朴			
コンテンツ産業論	3		○			2		30	矢澤				

学部学科コース名:地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース

科目区分 コア・ユニ ット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間 数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	備考
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
経営 CU2	経営法務	3		○				2		30	30単位以上 但し、 (1)経営コアユ ニット選択者は 経営CU2の科 目から、26単位 以上 (2)情報コアユ ニット選択者 は、情報CU2の 科目から、必修 科目を含め、26 単位以上 (3)情報CU2の 必修科目は、情 報コアユニット 選択者のみに 適用	(松原正)	
	管理会計論	3		○				2		30		足立	
	コーポレートファイナンス論	3		○				2		30		村上	
	ビジネスモデル論	3			○			2		30		矢澤	
	組織行動論	3			○			2		30		平野	
	マーケティングリサーチ	3			○			2		30		(川原)	
	技術マネジメント論	3			○			2		30		魚谷	
	NPO会計論	3			○			2		30		(山崎)	
	証券論	3			○			2		30		(鈴木喜)	
	リスクマネジメント論	3				○		2		30		朴	
	知的財産権関連講座	3				○		2		30		未定	
	監査論	3				○		2		30		(武田)	
パブリックファイナンス論	3				○		2		30	(新宅)			
専門 教育科目 情報 CU2	数値解析	3	○				2			30	重丸		
	データ構造とアルゴリズム	3	○				2			30	陳金		
	情報ネットワーク	3	○				2			30	陳春		
	プログラム言語処理	3	○				2			30	重安		
	音声情報処理	3	○				2			30	折本		
	ビッグデータ解析演習	3	○			1				30	岡部		
	応用情報システム特別講義	3	○				2			30	(竹田)		
	IoT・AI応用技術	3		○			2			30	梶, 市村, 小川仁, 韓, 宇野, 折本, 佐々木, 重丸, 重安, 富田由, 広谷, 岡部, 陳金		
	確率統計	3	○				2			30	富田哲		
	情報システム論	3		○			2			30	宇野		
	情報セキュリティ	3		○			2			30	佐々木		
	画像情報処理	3		○			2			30	肖		
	最適化理論	3		○			2			30	肖		
	情報ネットワーク実験	3		○			1			30	陳春		
	応用プログラミング	3			○		2			30	佐々木		
	データマイニング	3			○		2			30	陳金		
	技術英語講読I	3		○			1			30	韓, 広谷		
	グラフィカルプログラミング	3			○		2			30	宇野		
	多変量解析	3			○		2			30	韓		
	情報セキュリティ実験	3				○	1			30	佐々木		
Webインテリジェンス	3			○		2			30	岡部			
コンピュータシミュレーション	3			○		2			30	重丸			
モバイルネットワークシステム	3		○			2			30	重安			
技術英語講読II	3				○	1			30	肖, 折本			
地域協働演習	3		○			2			30	学部教員			
卒業 論文・ 研究	地域課題解決研究 I	3		○			4			60	学部教員		
	地域課題解決研究 II	4		○			4			60	学部教員		
	経営学専門演習 I	3		○			4			60	栗島, 小原, 朴, 平野, 村上, 矢澤, 足立, 塚原		
	経営学専門演習 II	4		○			4			60	栗島, 小原, 朴, 平野, 村上, 矢澤, 足立, 塚原		
	応用情報システム専門演習I	3			○		4			60	韓, 市村, 小川仁, 肖, 韓, 宇野, 折本, 佐々木, 重丸, 重安, 富田由, 広谷, 岡部, 陳金		
応用情報システム専門演習II	4			○		4			60	韓, 市村, 小川仁, 肖, 韓, 宇野, 折本, 佐々木, 重丸, 重安, 富田由, 広谷, 岡部, 陳金			
合計							88			88単位以上			
卒業要件総合計							124			124単位以上			
自由 選択 科目	IoTシステム開発プロジェクト演習	3			○			2		60	梶, 市村, 小川仁, 韓, 宇野, 折本, 佐々木, 重丸, 重安, 富田由, 広谷, 岡部, 陳金		
	AIシステム開発プロジェクト演習	3			○			2		60	梶, 市村, 小川仁, 韓, 宇野, 折本, 佐々木, 重丸, 重安, 富田由, 広谷, 岡部, 陳金		
	知能情報演習	3			○			1		30	韓		
	ニューラルネットワーク	3			○			2		30	肖		
	深層学習	3			○			2		30	市村		
	IoT・AI特別講義	3				○		2		30	地域産業コース教員		
	ITバースト試験対策演習	1・2・3・4			○			1		30	小川仁		
	基本情報技術者試験対策演習	2・3・4			○			1		30	小川仁		
企業法	3	○					2		30	(松原正)			

配当年次:学生に履修を推奨する年次(履修可能な年次ではない)。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒ 配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3~4」のように記載している。⇒ 配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期:○印が複数期に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修:当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択:学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)

自由:単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

科目区分 コア・ユ ニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間 数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	
			前 前	後 後	前 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
学び スキル ・リテラ シー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1		30	14単位以上	学部教員		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1		30		学部教員		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1		30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安, 岡部		
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1	30		船津誠, 佐々木, 陳春, 陳金, 重安		
	英語総合Ⅰ	1	○	○			1		30		天野,(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅱ	1			○	○	1		30		吉本,(笠本),(山中)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅲ	2	○	○				1	30		天野,(船津),(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる	
	英語総合Ⅳ	2			○	○		1	30		天野,(西原),(ホーソン寿栄)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅰ	1	○	○				1	30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅱ	1			○	○	1		30		(チャップマン),(リー),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅲ	2	○	○				1	30		(ポールドウィン),(ステイチェック)	クラスにより開講期異なる	
	英語表現Ⅳ	2			○	○		1	30		(ポールドウィン),(ステイチェック),(カゼミ)	クラスにより開講期異なる	
	中国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる	
	中国語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		上水流,(袁),(徐)	クラスにより開講期異なる	
	韓国語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる	
	韓国語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		鄭遇, 鄭銀,(金)	クラスにより開講期異なる	
	ドイツ語Ⅰ	1・2	○	○				1	30		(小田)	クラスにより開講期異なる	
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○	○		1	30		(小田)	クラスにより開講期異なる	
	全学共 通教育 科目	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○				1	30		中石	留学生対象	
		アカデミック日本語Ⅱ	1・2			○		1	30		中石	留学生対象	
スポーツ実技Ⅰ		1			○	○	1	30	辻,(村上妃),(黒坂)	クラスにより開講期異なる			
スポーツ実技Ⅱ		2			○		1	30	辻				
保健体育理論		2			○		2	30	辻				
哲学		1・2・3・4	○				2	30	大草				
文学		1・2・3・4		○			2	30	遠藤, 西本寮, 柳川				
芸術		1・2・3・4			○		2	30	矢澤				
心理学		1・2・3・4				○	2	30	向居				
社会学		1・2・3・4	○				2	30	澤田				
歴史学		1・2・3・4		○			2	30	小平				
倫理学		1・2・3・4			○		2	30	大草				
経済学		1・2・3・4	○				2	30	(西手)				
科学史		1・2・3・4	○				2	30	村田,馬本,福永,松崎,八木,長尾,崎田,吉野,岩田,小林,菅				
生命倫理		1・2・3・4		○			2	30	吉川, 古山				
基礎数学		1・2・3・4			○		2	30	富田哲				
統計入門		1・2・3・4				○	2	30	富田哲				
家族社会学		1・2・3・4				○	2	30	澤田				
文化人類学		1・2・3・4	○				2	30	上水流				
日本国憲法		1・2・3・4	○				2	30	岡田高				
法学	1・2・3・4			○		2	30	岡田高					
食と健康	1・2・3・4				○	2	30	長尾					
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	岡田玄, 北台					
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田浩, 内藤					
生活に役立つ科学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)					
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川俊					
考 表 理 思	アカデミック・ライティング	1			○		1	30					
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30					
プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30						
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	鈴木康, 和田, 大知				
	国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流				
	地域情報発信論	2・3・4			○		2	30	広谷, 藤井宣, 吉田倫, 伊藤	夏季集中			
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30					
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2	30						
キ ャ リ ア 開 発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4			○		2	30	原田淳				
	ライフデザイン	2・3・4			○		2	30	岡田高, 日高, 村上				
	ボランティア	2・3・4			○		2	30	手島	集中			
	インターンシップ	2・3・4	○	○			2	30	原田淳				
リーダー論	3・4	○				2	30	原田淳, 魚谷	夏季集中				
ダ イ バ ー シ テ イ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田				
	人間関係論	2・3・4			○		2	30	(中谷)				
	人権論	2・3・4				○	2	30	岡田高				
	世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流				
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村				
	海外研修	2・3・4	○	○	○	○	2	30	吉本, 岡本弘				
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)				
	数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田				
	国語入門演習	1	○	○			1	30	五條				
	社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤				
	生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原				
	物理入門演習	1	○	○			1	30	米村				
化学入門演習	1	○	○			1	30	三苫					
合計									36単位以上				

科目区分 コア・ユ ニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間 数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	
			前 前	後 後	前 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
学部学科共通科目	多文化共生入門	1				○		2		30	10単位以上修得	地域文化コース教員	
	多文化共生入門II	2	○					2		30		地域文化コース教員	
	文化継承入門	1				○		2		30		地域文化コース教員	
	文化継承入門II	2	○					2		30		地域文化コース教員	
	政治学	1	○					2		30		(原理)	
	国際経済論	1		○				2		30		(新宅)	
	地誌学	1			○			2		30		(酒川)	
	人文地理学	1				○		2		30		(酒川)	
	自然地理学	1	○					2		30		(澤田結)	
	国際法	2		○				2		30		(柳生)	
	国際政治論	2	○					2		30		(原理)	
	経営学概論	1	○					2		30		小原	
	会計学概論	1		○				2		30		加納	
	マーケティング概論	1			○			2		30		粟島	
	簿記原理	1			○			2		30		加納	
	ファイナンス概論	1				○		2		30		村上	
	ミクロ経済学	1				○		2		30		(西手)	
	経営管理論	2			○			2		30		平野	
	中級簿記	2	○					2		30		加納	
	工業簿記	2		○				2		30		足立	
	経営戦略論	2		○				2		30		朴	
	入門統計学	1	○					2		30		富田哲	
	IoT・情報システム基礎学	1		○				2		30		小川仁	
	経営情報論	1			○			2		30		広谷	
	基礎プログラミング入門	1				○		2		30		重丸	
	基礎情報学入門	1				○		2		30		小川仁	
	基礎情報活用演習	2	○					2		30		重丸	
	人工知能概論	2	○					2		30		市村	
	データサイエンス入門・同演習	2		○				2		30		富田哲	
	生命科学	1	○					2		30		藤井保	
	基礎化学	1	○				2			30		(藤田)	
	微生物学	3		○				2		30		(多山)	
	予防医学	1			○		1			15		安武	
保健政策論	1				○	1			15	安武			
公衆衛生学	3			○		1			15	(秋田),(杉山文)			
環境衛生学	3			○		1			15	(秋田),(杉山文)			
健康科学情報処理演習	2	○				2			30	鍛島			
専門教育科目	基礎生化学	1		○			2		30	20単位以上	松本		
	生化学	1			○		2		30		松本		
	生化学実験	1				○	1		30		松本		
	生体防御学	3	○				2		30		藤井保		
	免疫学実験	3		○			1		30		藤井保		
	解剖学・病理学Ⅰ	1			○		2		30		北台		
	解剖学・病理学Ⅱ	1				○	2		30		北台		
	解剖学・病理学実習	2		○			1		30		北台		
	生理学	1				○	2		30		辻		
	生理学実験	2		○			1		30		辻		
	健康スポーツ科学	1		○			2		30		鍛島		
	運動生理学	2		○			2		30		鍛島		
	運動生理学実験	2			○		1		30		鍛島		
	体力科学	2			○		2		30		三浦		
	トレーニング科学	3	○				2		30		三浦		
	体力評価実習	2				○	1		30		三浦		
	スポーツ科学実習	1	○				1		30		三浦		
	スポーツ医学	3	○				2		30		鍛島		
スポーツ環境科学	2		○			2		30	辻				
食	分析化学	1		○			2		30	24単位以上	松本		
	分析化学実験	1			○		1		30		松本		
	食品学	1		○			2		30		谷本		
	食品化学	3			○		2		30		谷本		
	食品学実験	1				○	1		30		谷本		
	食品加工学	1			○		2		30		谷本		
	食品加工学実験	2		○			1		30		杉山寿		
	食品衛生学	2				○	2		30		馬淵		
	食品衛生学実験	3		○			1		30		谷本		
	調理学	2	○				2		30		杉山寿		
	調理科学実験	2			○		1		30		杉山寿,(森久)		
	基礎栄養学	1				○	2		30		山岡		
	基礎栄養学実験	2	○				1		30		山岡		
	応用栄養学	2	○				2		30		栢下		
	ライフステージ栄養学	2			○		2		30		山岡		
スポーツ栄養学	2		○			2		30	山岡				
応用栄養学実習	2				○	1		30	山岡				

科目区分 コア・ユ ニット	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業 時間 数	卒業要件	担当教員 (非常勤)	
			前 前	前 後	後 前	後 後	必 修	選 択	自 由				
健康 専門 教育 科目	栄養教育概論	1		○			2		30	26単位以上	栢下		
	世代別栄養教育論	2	○			2		30	森脇				
	臨床栄養教育論	2					2		30		栢下, (眞次)		
	栄養教育論実習 I	2		○		1		30	栢下				
	栄養教育論実習 II	2				○	1	30	栢下				
	臨床医学	2		○			2		30		北台		
	臨床栄養学 I	2				○	2		30		神原		
	臨床栄養学 II	2				○	2		30		神原		
	臨床栄養アセスメント	3	○				2		30		神原		
	病態別栄養マネジメント	3		○			2		30		神原, (天野純), (伊藤)		
	臨床栄養学実習 I	3		○		1		30	神原				
	臨床栄養学実習 II	3				○	1	30	神原				
	臨床栄養臨地実習 I	3				○	1	30	栢下				
	臨床栄養臨地実習 II	3				○	1	30	神原				
	臨床栄養臨地実習 III	3				○	1	30	神原				
	公衆栄養学	3	○				2		30		森脇		
	地域栄養論	3		○			2		30		森脇		
	公衆栄養学実習	3				○	1		30		森脇		
	地域保健臨地実習	3				○	1		30		森脇		
	給食栄養・安全管理論	2				○	2		30		杉山寿		
	給食経営管理論	3	○				2		30		杉山寿		
	給食経営管理実習	3	○				1		30		杉山寿, (森久)		
	給食経営管理臨地実習 I	3				○	1		30		杉山寿		
給食経営管理臨地実習 II	4	○				1		30	杉山寿				
総合演習	3				○	1		15	栢下, 杉山寿, 森脇, 神原, (熊谷)				
健康科学総合演習	3				○	1		15	神原, 栢下, 杉山寿, 森脇				
地域協働演習	3		○			2		30	学部教員				
卒業論文 I	3				○	4		60	「卒業論文」・「 または「地域課 題解決研究」 」から8単位	三浦, 松本, 北台, 辻, 谷本, 杉山寿, 山岡, 栢下, 神原, 森脇, 殿島			
卒業論文 II	4				○	4		60	三浦, 松本, 北台, 辻, 谷本, 杉山寿, 山岡, 栢下, 神原, 森脇, 殿島				
地域課題解決研究 I	3				○	4		60	学部教員				
地域課題解決研究 II	4				○	4		60	学部教員				
合計									88単位以上				
卒業要件総合計									124単位以上				
その他科目 (卒業要件外)	学校栄養教育論 I	3	○				2	30	鈴木麻, (熊谷)				
	学校栄養教育論 II	3				○	2	30	鈴木麻, (熊谷)				
	教育学概論	1				○	2	30	藤井宣				
	教職入門	1				○	2	30	(中村)				
	教育社会学	2	○				2	30	藤井宣				
	教育心理学	2				○	2	30	向居				
	特別支援教育	3				○	1	30	(平田)				
	教育課程論	2	○				2	30	(大橋)				
	道徳教育論	3	○				2	30	(宮里)				
	総合的な学習の時間の指導法	3				○	2	30	(大橋)				
	特別活動論	3				○	2	30	(山田浩)				
	教育方法学	3				○	2	30	(深澤)				
	生徒指導論	2				○	○	2	30	坪田			
	教育相談	3	○				2	30	(森田)				
	教育実習指導(栄養教諭)	4	○				1	15	山岡, 森脇, 栢下, 鈴木麻, (熊谷)				
	教育実習(栄養教諭)	4	○				1	30	山岡, 鈴木麻, (熊谷)				
教職実践演習(栄養教諭)	4				○	2	30	山岡, 鈴木麻, (熊谷)					

配当年次: 学生に履修を推奨する年次(履修可能な年次ではない)。

各年次に配当する場合は例えば「1・2・3・4」のように記載している。⇒ 配当された年次のいずれかで履修すれば良い。

年次をまたがって配当する場合は例えば「3~4」のように記載している。⇒ 配当された年次全てで履修しなければならない。

開講期: ○印が複数期に付されている場合は、いずれか可能な時期に履修すれば良い。ただし、クラス分けなどにより履修する時期が指定される場合がある。

単位数

必修: 当該学科等の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要としている科目

選択: 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する科目(選択必修科目を含む)

自由: 単位認定できるが卒業要件に算入しない科目

※ 卒業論文 I, 地域課題解決研究 I の履修について: 卒業論文 I, 地域課題解決研究 I を履修するためには、「原則、全学共通科目と専門教育科目を合わせて70単位以上を修得していること(自由科目を除く)」とする。

※ 卒業論文 II, 地域課題解決研究 II の履修について: 卒業論文 II, 地域課題解決研究 II を履修するためには、「原則、全学共通科目26単位、専門教育科目80単位以上を修得していること(自由科目を除く)」とする。

□ 生物資源科学部地域資源開発学科 (R4年度入学者用)

科目区分	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 高校一種教免(農業)	担当教員 ()は学外講師	備考		
			前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由						
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1			30		荻田他	14単位以上修得		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1			30		福永他			
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1			30	必	小川(仁), 肖			
	ICTリテラシーⅡ	1			○			1		30	必	小川(仁), 肖			
	英語総合Ⅰ	1	○				1			30	必	馬本, 河村, (笠本)			
	英語総合Ⅱ	1		○			1			30	必	馬本, 河村, (笠本)			
	英語総合Ⅲ	2			○			1		30		馬本, 河村, (笠本)			
	英語総合Ⅳ	2				○		1		30		馬本, 河村, (笠本)			
	英語表現Ⅰ	1				○		1		30		クリングウォール, (ホーム)			
	英語表現Ⅱ	1					○	1		30		クリングウォール, (ホーム)			
	英語表現Ⅲ	2	○					1		30		クリングウォール, (ホーム)			
	英語表現Ⅳ	2		○				1		30		クリングウォール, (ホーム)			
	中国語Ⅰ	1・2			○			1		30		(張)			
	中国語Ⅱ	1・2				○		1		30		(張)			
	韓国語Ⅰ	1・2			○			1		30		(金根五)			
	韓国語Ⅱ	1・2				○		1		30		(金根五)			
	ドイツ語Ⅰ	1・2			○			1		30		大草			
	ドイツ語Ⅱ	1・2				○		1		30		大草			
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2			○			1		30		中石			
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2				○		1		30		中石			
	スポーツ実技Ⅰ	1	○					1		30	必	楠堀			
	スポーツ実技Ⅱ	2				○		1		30		楠堀			
	保健体育理論	2					○	2		30	必	楠堀			
	学際知	哲学	1・2・3・4	○				2			30			大草	8単位以上修得
		文学	1・2・3・4		○			2			30			遠藤, 西本(寮), 柳川	
芸術		1・2・3・4				○		2		30		矢澤			
心理学		1・2・3・4				○	2			30		坪田			
社会学		1・2・3・4	○				2			30		澤田(千)			
歴史学		1・2・3・4		○			2			30		岡本			
倫理学		1・2・3・4				○	2			30		大草			
経済学		1・2・3・4	○				2			30		(西手)			
科学史		1・2・3・4	○				2			30		村田, 馬本, 菅, 福永, 八木, 米村, 岩田, 小林, 長尾, 吉野, 松崎			
生命倫理		1・2・3・4			○		2			30		吉川(ひ), 古山			
基礎数学		1・2・3・4				○	2			30		崎田			
統計入門		1・2・3・4					○	2		30		岩田			
家族社会学		1・2・3・4				○	2			30		澤田(千)			
文化人類学		1・2・3・4		○			2			30		上水流			
日本国憲法		1・2・3・4			○		2			30	必	岡田(高)			
法学		1・2・3・4				○	2			30		岡田(高)			
食と健康		1・2・3・4				○	2			30		長尾			
いのちと科学		1・2・3・4	○				2			30		五味, 長尾			
環境と科学		1・2・3・4		○			2			30		原田(浩), 内藤			
生活に役立つ力学		1・2・3・4				○	2			30		(山田)			
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2			30		小川(俊)				
論理思考表現	アカデミック・ライティング	1				○	1			30		稲垣他	2単位以上修得		
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1			30		八木他			
	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1			30		西村他			
地域課題	ひろしま理解	2・3・4		○			2			30		鈴木, 和田, 大知	4単位以上修得		
	国際社会の理解	2・3・4			○		2			30		上水流			
	地域情報発信論	2・3・4		○			2			30		広谷, 藤井(宣), 吉田(倫), 伊藤			
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2			30					
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○		2		30						
キャリア開発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2			30		原田(淳), 魚谷	4単位以上修得		
	ライフデザイン	2・3・4		○			2			30		岡田(高), 日高, 村上			
	ボランティア	2・3・4			○		2			30		手島			
	インターンシップ	2・3・4	○				2			30		吉野, 原田(淳)他			
	リーダー論	3・4		○			2			30		原田(淳), 魚谷			
ダイバーシティ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2			30		澤田(千)	4単位以上修得		
	人間関係論	2・3・4			○		2			30		(中谷)			
	人権論	2・3・4				○	2			30	選	岡田(高)			
	世界の宗教	2・3・4				○	2			30		上水流			
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2			30		河村			
	海外研修	2・3・4	○	○	○	○	2			30		河村			
入門演習	英語入門演習	1	○	○				1		30		(笠本)	自由選択科目 (卒業要件外)		
	数学入門演習	1	○	○				1		30		岩田			
	国語入門演習	1	○	○				1		30		五條			
	社会入門演習	1	○	○				1		30		伊藤			
	生物入門演習	1	○	○				1		30		伊原			
	物理入門演習	1	○	○				1		30		米村			
	化学入門演習	1	○	○				1		30		三苦			

□ 生物資源科学部地域資源開発学科 (R 4年度入学者用)

科目区分	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 高校一種教免(農業)	担当教員 ()は学外講師	備考		
			前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由						
学部共通科目	数学Ⅰ	1	○				2			30		岩田	16単位以上修得		
	数学Ⅱ	1		○				2		30		岩田			
	統計学	1			○			2		30		岩田			
	化学Ⅰ	1	○				2			30		原田(浩)			
	化学Ⅱ	1		○				2		30		三苦			
	基礎分析化学	1			○		2			30		増田			
	生物学Ⅰ	1	○				2			30		谷垣			
	生物学Ⅱ	1		○				2		30		齋藤, 長尾			
	無機化学	2				○	2			30		原田(浩)			
	有機化学	2	○				2			30		山本			
	微生物学	2		○			2			30		馬淵			
	生態学	2		○				2		30		荻田			
	植物生理学	2	○				2			30		荻田			
	遺伝学	2			○			2		30		福永, 未定			
	栄養化学	2				○	2			30		吉野			
	食品資源フィールド科学演習	2・3		○				1		30		学部教員			
	専門教育科目	農業生産開発系	作物学	2				○	2		30			(荒木)	38単位以上修得 (農産系, 食品系, マネジメント系の科目からそれぞれ4単位以上, かつ, その他科目から26単位以上)
資源植物学			2				○	2		30	選	甲村, 未定			
基礎園芸学			2	○				2			30	必	未定, 甲村		
植物発生制御学			3		○				2		30	選	荻田		
食品分析開発系		食品衛生学	2				○	2			30		馬淵		
		食品分析学Ⅰ	2			○		2			30	必	吉野, 山本		
		基礎食品学	2		○			2			30		山本		
		食品流通学	2	○				2			30		村田		
農食マネジメント系		農業経営学Ⅰ	2		○			2			30		朴		
		農業マーケティング論	2			○			2		30	選	吉川(成)		
		地域商品開発論	2		○				2		30		村田, 吉野		
		農業簿記	3				○		2		60		村田		
学科専門基礎科目		畜産学	畜産学概論	2			○		2		30	必	村田, 阿部, 山下		
			基礎物理学	1			○			2		30		原田(浩), 吉野	
			化学実験	1				○	1			30		山本, 原田(浩)	
			生物学実験	1			○		1			30		荻田, 谷垣	
		フィールド科学	1				○		2		30		荻田, 甲村, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣		
	フィールド科学実習Ⅰ	1				○		6		180		甲村, 荻田, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣, 奥, 西村, 山下, 柳下			
	フィールド科学実習Ⅱ	2				○		3		90		荻田, 甲村, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣			
	基礎地域資源科学実験	2				○		3		90		荻田, 甲村, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣			
	国際異文化農業体験研修	1~2				○		6		180		荻田, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣			
	科学英語	3				○		2		30		荻田, 甲村, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣			

□ 生物資源科学部地域資源開発学科 (R 4 年度入学者用)

科目区分	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 高校一種教免(農業)	担当教員 ()は学外講師	備考	
			前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由					
専門教育科目 学科専門基幹科目	農業生産開発系	農業環境制御学	3	○				2		30	必	増田	26単位以上修得 (選択系から10単位以上、かつ、他系科目からそれぞれ8単位以上)	
		総合防除管理学	3	○				2		30	選	甲村, 五味, 奥		
		植物組織培養学	3	○				2		30	選	荻田		
		植物病理学	3	○				2		30	選	奥		
		野菜園芸学	3		○			2		30	必	甲村		
		果樹園芸学	3		○			2		30	必	未定		
		次世代農業学	3		○			2		30		谷垣		
		資源科学実験	3		○			2		60		荻田, 甲村, 増田, 谷垣		
	食品分析開発系	食品化学	3	○				2		30	選	山本		
		食品分析学Ⅱ	3	○				2		30		吉野, 山本		
		発酵工学	3			○		2		30	選	原田(浩)		
		食品リサイクル学	3				○	2		30	選	原田(浩)		
		食品加工学	3		○			2		30	必	山本, 吉野, 馬淵		
		食品保存学	3			○		2		30		馬淵		
		機能性食品工学	3				○	2		30	選	吉野		
		食品科学実験	3		○			2		60		吉野, 馬淵, 山本, 原田(浩)		
	農食マネジメント系	農業経営学Ⅱ	3	○				2		30		朴		
		フードシステムマネジメント	3		○			2		30	必	吉川(成)		
		国際食料生産論	3			○		2		30		村田		
		アグリツーリズム論	3		○			2		30	選	上水流		
		農業経営戦略論	3			○		2		30		朴		
		6次産業政策法律論	3	○				2		30		朴		
		流通システムとイノベーション	3				○	2		30		朴		
		地域ブランド(商品開発)実習	3		○			2		60		朴, 村田		
	卒業論文・卒業研究	卒業論文Ⅰ	3			○		4				荻田, 甲村, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣		8単位修得 「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」又は「地域課題解決研究Ⅰ・Ⅱ」から8単位
		卒業論文Ⅱ	4			○		4						
		地域課題解決研究Ⅰ	3			○		4				学部教員		
		地域課題解決研究Ⅱ	4			○		4						
	生命環境学科開講科目	(生命環境科学(導入))	生理学	2		○			2		30			山下
			分子生物学	2		○			2		30			八木, 松崎
生命環境リスク学			2			○		2		30		西村, 橋本		
生物反応速度論			2				○	2		30		青柳		
(生命科学(導入))		免疫学	2			○		2		30		稲垣		
		細胞生物学	2				○	2		30		稲垣		
		生体機構学	2				○	2		30		阿部		
(環境科学(導入))		環境社会科学	2				○	2		30		小林		
		環境衛生学	2			○		2		30		西村		
		環境・無機分析化学	2				○	2		30		西村, 西本(潤)		
		機器分析化学	2			○		2		30		青柳, 大竹		

□ 生物資源科学部地域資源開発学科 (R4年度入学者用)

科目区分	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 高校一種教免(農業)	担当教員 ()は学外講師	備考
			前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由				
その他科目(卒業要件外)	職業指導	2			○			2	30	必	(速見)		
	農業科教育法 I	3	○					2	30	必	(速見)		
	農業科教育法 II	3			○			2	30	必	(速見)		
	教育学概論	1				○		2	30	必	藤井(宣)		
	教職入門	1			○			2	30	必	藤井(宣)		
	教育社会学	2	○					2	30	必	藤井(宣)		
	教育心理学	2		○				2	30	必	坪田		
	特別支援教育	3	○					1	30	必	(平田)		
	教育課程論	2	○					2	30	必	(吉田)		
	道德教育論	3	○					2	30	選	(宮里)		
	総合的な学習の時間の指導法	3	○					2	30	必	(林原)		
	特別活動論	3				○		2	30	必	(山田)		
	教育方法学	3				○		2	30	必	(深澤)		
	情報通信技術の活用	3					○	1	15	必	未定		
	生徒・進路指導論	2				○		2	30	必	坪田, (中條)		
	教育相談	3	○					2	30	必	坪田		
	教育実習指導	4			○			1	15	必	坪田, 藤井(宣)		
	教育実習 I	4			○			2	60	必	坪田, 藤井(宣)		
	教職実践演習(中・高)	4				○		2	30	必	坪田		
	介護等体験	3				○		2	50	選	坪田		

◎ 単位互換制度に基づき実施されるフィールド演習等は, 専門教育科目/学科専門基礎科目/その他 に区分される。

◎ 卒業論文着手条件

本学部では進級の関門を特に設けていないが, 次の卒論着手条件を定めている。

この条件をすべて満足しないと卒業論文に着手できず, 事実上留年となるので注意すること。

全学共通教育科目 2.4 単位以上, 専門教育科目 4.2 単位以上 計 6.6 単位とする。

専門教育科目については,

学部共通科目 1.8 単位以上, 学科基礎科目のうち, 志望する系統の科目を 4 単位以上とする。

また, 学科基礎科目(その他)の必修科目を修得済みであること。

化学実験, 生物学実験, フィールド科学, フィールド科学実習 I, フィールド科学実習 II, 基礎地域資源科学実験, 国際異文化農業体験研修

◎ 卒業論文に着手していない者は, 3 年配当実験・演習及び科学英語の履修を認めない。

□ 生物資源科学部生命環境学科 (R4年度入学用)

科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 中/高一種教免(理科)	担当教員 ()は学外講師	備考
		前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由				
学びスキル・リテラシー	大学基礎セミナーⅠ	1	○			1			30		荻田他	14単位以上修得
	大学基礎セミナーⅡ	1		○		1			30		福永他	
	ICTリテラシーⅠ	1	○			1			30	必	小川(仁), 肖	
	ICTリテラシーⅡ	1			○		1		30	必	小川(仁), 肖	
	英語総合Ⅰ	1	○			1			30	必	馬本, 河村, (笠本)	
	英語総合Ⅱ	1		○		1			30	必	馬本, 河村, (笠本)	
	英語総合Ⅲ	2			○		1		30		馬本, 河村, (笠本)	
	英語総合Ⅳ	2				○	1		30		馬本, 河村, (笠本)	
	英語表現Ⅰ	1			○		1		30		クリングウォール, (ホーム)	
	英語表現Ⅱ	1				○	1		30		クリングウォール, (ホーム)	
	英語表現Ⅲ	2	○				1		30		クリングウォール, (ホーム)	
	英語表現Ⅳ	2		○			1		30		クリングウォール, (ホーム)	
	中国語Ⅰ	1・2		○			1		30		(張)	
	中国語Ⅱ	1・2			○		1		30		(張)	
	韓国語Ⅰ	1・2		○			1		30		(金根五)	
	韓国語Ⅱ	1・2			○		1		30		(金根五)	
	ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1		30		大草	
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1		30		大草	
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2		○			1		30		中石	
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2			○		1		30		中石	
スポーツ実技Ⅰ	1	○				1		30	必	楠堀		
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1		30		楠堀		
保健体育理論	2				○	2		30	必	楠堀		
学際知	哲学	1・2・3・4	○			2			30		大草	8単位以上修得
	文学	1・2・3・4		○		2			30		遠藤, 西本(寮), 柳川	
	芸術	1・2・3・4			○		2		30		矢澤	
	心理学	1・2・3・4				○	2		30		坪田	
	社会学	1・2・3・4	○				2		30		澤田(千)	
	歴史学	1・2・3・4		○			2		30		岡本	
	倫理学	1・2・3・4			○		2		30		大草	
	経済学	1・2・3・4	○				2		30		(西手)	
	科学史	1・2・3・4	○				2		30		村田, 馬本, 菅, 福永, 八木, 米村, 岩田, 小林, 長尾, 吉野, 松崎	
	生命倫理	1・2・3・4		○			2		30		吉川(ひ), 古山	
	基礎数学	1・2・3・4			○		2		30		崎田	
	統計入門	1・2・3・4				○	2		30		岩田	
	家族社会学	1・2・3・4				○	2		30		澤田(千)	
	文化人類学	1・2・3・4		○			2		30		上水流	
	日本国憲法	1・2・3・4		○			2		30	必	岡田(高)	
	法学	1・2・3・4			○		2		30		岡田(高)	
	食と健康	1・2・3・4			○		2		30		長尾	
	いのちと科学	1・2・3・4	○				2		30		五味, 長尾	
	環境と科学	1・2・3・4		○			2		30		原田(浩), 内藤	
	生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2		30		(山田)	
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2		30		小川(俊)		
論理思考表現	アカデミック・ライティング	1			○	1			30		稲垣他	2単位以上修得
	クリティカル・シンキング	1・2			○	1			30		八木他	
地域課題	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○	1			30		西村他	4単位以上修得
	ひろしま理解	2・3・4		○		2			30		鈴木, 和田, 大知	
	国際社会の理解	2・3・4			○		2		30		上水流	
	地域情報発信論	2・3・4		○			2		30		広谷, 藤井(宣), 吉田(倫), 伊藤	
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2		30			
キャリア開発	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○			30			
	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2		30		原田(淳), 魚谷	4単位以上修得
	ライフデザイン	2・3・4		○			2		30		岡田(高), 日高, 村上	
	ボランティア	2・3・4		○			2		30		手島	
	インターンシップ	2・3・4		○			2		30		吉野, 原田(淳)他	
リーダー論	3・4	○				2		30		原田(淳), 魚谷		
ダイバーシティ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2		30		澤田(千)	4単位以上修得
	人間関係論	2・3・4			○		2		30		(中谷)	
	人権論	2・3・4				○		2	30	選	岡田(高)	
	世界の宗教	2・3・4				○		2	30		上水流	
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○		2	30		河村	
海外研修	2・3・4	○	○	○	○		2	30		河村		
入門演習	英語入門演習	1	○	○			1		30		(笠本)	自由選択科目 (卒業要件外)
	数学入門演習	1	○	○			1		30		岩田	
	国語入門演習	1	○	○			1		30		五條	
	社会入門演習	1	○	○			1		30		伊藤	
	生物入門演習	1	○	○			1		30		伊原	
	物理入門演習	1	○	○			1		30		米村	
化学入門演習	1	○	○			1		30		三苫		

□ 生物資源科学部生命環境学科 (R4年度入学者用)

科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 中/高一種教免(理科)	担当教員 ()は学外講師	備考
		前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由				
学部共通	数学Ⅰ	1	○			2			30		岩田	24単位以上修得
	数学Ⅱ	1		○			2		30		岩田	
	統計学	1			○	2			30		岩田	
	化学Ⅰ	1	○			2			30	必	大竹	
	化学Ⅱ	1		○		2			30	必	三苫	
	基礎分析化学	1			○	2			30	選	三苫	
	生物学Ⅰ	1	○			2			30	必	齋藤	
	生物学Ⅱ	1		○		2			30	必	齋藤,長尾	
	無機化学	1				○	2		30	選	西本(潤),大竹	
	有機化学	2	○				2		30	選	伊原	
	微生物学	1				○	2		30		阪口,有馬	
	生態学	1		○			2		30	必	五味	
	植物生理学	2	○				2		30	選	福永	
	遺伝学	1			○		2		30	選	福永,未定	
	栄養化学	1				○	2		30		齋藤,吉野	
	食品資源フィールド科学演習	2・3		○			1		30		学部教員	
地域課題解決入門	生命環境科学基礎セミナー	1			○	1			30		稲垣,伊原,奥,齋藤,菅,福永,八木,阿部,長尾,山下,松崎,大竹,五味,西村,橋本,三苫,米村,青柳,小林,内藤,西本(潤),有馬,柳下	4単位以上修得 ※ 生命科学セミナー,環境科学セミナーは,各コースの選択必修。
	生命科学セミナー(生命科学コース)	2			○	1			30		稲垣,伊原,奥,齋藤,菅,福永,八木,阿部,長尾,山下,松崎	
	環境科学セミナー(環境科学コース)	2			○	1			30		大竹,五味,西村,橋本,三苫,米村,青柳,小林,内藤,西本(潤),有馬,柳下	
	地域商品開発論	2		○			2		30		村田,吉野	
	フィールド科学	1			○		2		30		甲村,荻田,原田(浩),朴,増田,吉野,山本,村田,馬淵,谷垣	
学科共通	化学演習	1			○	1			30		青柳,柳下	16単位以上修得
	化学実験(生命環境)	1			○	2			60	必	大竹,五味,西村,橋本,三苫,青柳,小林,内藤,西本(潤),有馬,柳下	
	生物学演習	2			○	1			30		松崎,有馬	
	生物学実験(生命環境)	1			○	2			60	必	稲垣,奥,齋藤,菅,福永,八木,阿部,長尾,山下,松崎	
	物理学Ⅰ	1	○			2			30	必	小林,米村	
	物理学Ⅱ	1		○			2		30	必	八木,米村	
	物理学演習	1			○	1			30		小林,柳下	
	物理学実験	2		○			1		30	必/選(中学必)	米村	
	地学	2	○				2		30	必	(山崎)	
	地学実験	2			○		1		30	必/選(中学必)	(林),(吉富)	
	生命環境統計学	2	○				2		30		橋本,菅,岩田	
	生命環境統計学演習	2		○			1		30		五味,小林	
	生物化学	2		○			2		30		伊原	
	物理化学	2		○			2		30		内藤	
遺伝子工学	2			○		2		30		奥		
専門英語セミナー	3		○			1		30		稲垣,伊原,奥,齋藤,菅,福永,八木,阿部,長尾,山下,松崎,大竹,五味,西村,橋本,三苫,米村,青柳,小林,内藤,西本(潤),有馬,柳下		

□ 生物資源科学部生命環境学科 (R4年度入学者用)

	科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 中/高一種教免(理科)	担当教員 ()は学外講師	備考
			前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由				
専門導入	生命環境科学	生理学	2	○				2		30	選	山下	生命科学コース： 生命環境科学(導入)，生命科学(導入)，自由選択科目Ⅰの中から計12単位以上修得。 ただし，自由選択科目Ⅰは6単位を上限とする。 環境科学コース： 生命環境科学(導入)，環境科学(導入)，自由選択科目Ⅰの中から計12単位以上修得。 ただし，自由選択科目Ⅰは6単位を上限とする。 コース必修実験を加え，トータル18単位以上修得(両コース共通)。
		分子生物学	2		○			2		30		八木，松崎	
		生命環境リスク学	2			○		2		30		西村，橋本	
		生物反応速度論	2				○	2		30		青柳	
	生命科学	免疫学	2			○		2		30	選	稲垣	
		分子進化発生学	2		○			2		30	選	菅	
		細胞生物学	2				○	2		30		稲垣	
	環境科学	生体機構学	2				○	2		30		阿部	
		環境社会科学	2				○	2		30		小林	
		環境衛生学	2			○		2		30		西村	
		環境・無機分析化学	2				○	2		30	選	西村，西本(潤)	
	基礎実験	機器分析化学	2			○		2		30		青柳，大竹	
基礎生命科学実験 (生命科学コース)		2				○	6		180		稲垣，伊原，奥，齋藤，菅，福永，八木，阿部，長尾，山下，松崎		
	基礎環境科学実験 (環境科学コース)	2				○	6		180		(1)橋本，有馬(2)内藤，柳下 (3)青柳，大竹		
専門教育科目 展開・深化	環境生物化学	生物資源有機化学	3	○				2		30		伊原	生命科学コース： 環境生物化学，生命機能科学，自由選択科目Ⅱから計16単位以上修得。 ただし，自由選択科目Ⅱは8単位を上限とする。 環境科学コース： 環境生物化学と環境システム科学，自由選択科目Ⅱから計14単位以上修得。 ただし，自由選択科目Ⅱは4単位を上限とする。 コース必修実験を加え，トータル18単位以上修得(両コース共通)。
		衛生微生物学	3		○			2		30		橋本	
		環境保全生物学	3			○		2		30		五味	
		生物地球化学	3			○		2		30		内藤	
	生命機能科学	環境応用生物学	3				○	2		30		未定，有馬	
		タンパク質工学	3	○				2		30		松崎	
		発生・生殖科学	3	○				2		30	選	山下，阿部	
		植物病理学	3	○				2		30		奥	
		植物遺伝育種学	3		○			2		30		福永	
		生体分子構造学	3			○		2		30		八木	
	環境システム科学	細胞・生体機能学	3			○		2		30		齋藤，長尾	
		高分子化学	3	○				2		30		青柳	
		環境管理学	3		○			2		30		西村，小林	
		水循環管理学	3	○				2		30		西村	
		環境有機化学	3				○	2		30		三苫	
		機能材料化学	3		○			2		30		大竹	
		環境無機化学	3			○		2		30		西本(潤)	
	応用実験	大気環境科学	3			○		2		30		米村	
		応用生命科学実験 (生命科学コース)	3	○				2		60		稲垣，伊原，奥，齋藤，菅，福永，八木，阿部，長尾，山下，松崎	
		応用環境科学実験 (環境科学コース)	3		○			4		120		(1)三苫，西本(潤)(2)米村，小林 (3)五味，西村	
卒業論文・卒業研究	卒業論文Ⅰ	3			○		4				稲垣，伊原，奥，齋藤，菅，福永，八木，阿部，長尾，山下，松崎，大竹，五味，西村，橋本，三苫，米村，青柳，小林，内藤，西本(潤)，有馬，柳下	8単位修得 ※「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」又は「地域課題解決研究Ⅰ・Ⅱ」から8単位	
	卒業論文Ⅱ	4			○		4						
	地域課題解決研究Ⅰ	3			○		4				学部教員		
	地域課題解決研究Ⅱ	4			○		4						

□ 生物資源科学部生命環境学科 (R4年度入学者用)

科目名	配当年次	開講期				単位数			授業時間数	副専攻プログラム 中/高一種教免(理科)	担当教員 ()は学外講師	備考
		前・前	前・後	後・前	後・後	必修	選択	自由				
フィールド科学実習Ⅰ (生命環境科学科開講)	2		○				3		90		甲村, 荻田, 原田(浩), 朴, 増田, 馬淵, 村田, 山本, 吉野, 谷垣, 奥, 西村, 山下, 柳下	
作物学	2						2		30		(荒木)	
資源植物学	2						2		30		甲村, 未定	
食品衛生学	2						2		30		馬淵	
食品分析学Ⅰ	2						2		30		吉野, 山本	
基礎食品学	2		○				2		30		山本	
畜産学概論	2						2		30		村田, 阿部, 山下	
農業環境制御学	3	○					2		30		増田	
植物組織培養学	3	○					2		30		荻田	
野菜園芸学	3		○				2		30		甲村	
果樹園芸学	3		○				2		30		未定	
食品化学	3	○					2		30		山本	
食品分析学Ⅱ	3	○					2		30		吉野, 山本	
食品保存学	3						2		30		馬淵	
発酵工学	3						2		30		原田(浩)	
食品流通学	2	○					2		30		村田	
農業経営学Ⅰ	2		○				2		30		朴	
農業マーケティング論	2						2		30		吉川(成)	
総合防除管理学	3	○					2		30		甲村, 五味, 奥	
植物発生制御学	3		○				2		30		荻田	
食品リサイクル学	3						2		30		原田(浩)	
食品加工学	3		○				2		30		山本, 吉野, 馬淵	
機能的食品工学	3						2		30		吉野	
理科教育法Ⅰ	2						2		30	必	(清水)	
理科教育法Ⅱ	3		○				2		30	必	(磯崎)	
理科教育法Ⅲ	3						2		30	必	(磯崎)	
理科教育法Ⅳ	3						2		30	必	(鹿江)	
教育学概論	1						2		30	必	藤井(宣)	
教職入門	1						2		30	必	藤井(宣)	
教育社会学	2	○					2		30	必	藤井(宣)	
教育心理学	2		○				2		30	必	坪田	
特別支援教育	3		○				1		30	必	(平田)	
教育課程論	2		○				2		30	必	(吉田)	
道徳教育論	3		○				2		30	必/選(中学必)	(宮里)	
総合的な学習の時間の指導法	3		○				2		30	必	(林原)	
特別活動論	3						2		30	必	(山田)	
教育方法学	3						2		30	必	(深澤)	
情報通信技術の活用	3						1		15	必	未定	
生徒・進路指導論	2						2		30	必	坪田, (中條)	
教育相談	3		○				2		30	必	坪田	
教育実習指導	4						1		15	必	坪田, 藤井(宣)	
教育実習Ⅰ	4						2		60	必	坪田, 藤井(宣)	
教育実習Ⅱ	4						2		60	必/選(中学必)	坪田, 藤井(宣)	
教職実践演習(中・高)	4						2		30	必	坪田	
介護等体験	3						2		50	必/選(中学必)	坪田	

◎ 単位互換制度に基づき実施されるフィールド演習等は、専門教育科目「学科共通」に区分される。

◎ 卒業論文着手条件

本学部では進級の関門を特に設けていないが、次の卒業論文着手条件を定めている。
この条件をすべて満足しないと卒業論文に着手できず、事実上留年となるので注意すること。

全学共通教育科目20単位以上、専門教育科目48単位以上 計68単位とする。

専門教育科目については、次の科目の単位を取得済みであること。
生命環境科学基礎セミナー、所属コースのセミナー、生物学実験、化学実験、
基礎生命科学実験(生命科学コース)、基礎環境科学実験(環境科学コース)

◎ 生命科学コースにおいて、卒業論文に着手していない者は、3年配当実験及び専門英語セミナーの履修を認めない。

◎ 環境科学コースにおいて、卒業論文に着手していない者は、専門英語セミナーの履修を認めない。

□ 保健福祉学部保健福祉学科看護学コース（令和4年度入学生）

授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数 必修選択	授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
		①	②	③	④				
大学基礎セミナーⅠ	1	○				1	30	伊藤 ² , 加藤 ³ , 日高, 山田, 小野, 金井, 池内, 坂本, 津田, 小島, 江本, 湯川, 吉田 ^編	必修10単位 選択4単位以上
大学基礎セミナーⅡ	1		○			1	30	伊藤 ² , 中垣, 山中, 渡辺 ^編 , 飯田, 佐藤 ³ , 小池, 久野, 渡辺 ^編 , 中村, 江本, 湯川, 吉田 ^編	
ICTリテラシーⅠ	1	○				1	30	飯田	
ICTリテラシーⅡ	1			○		1	30	飯田	
英語総合Ⅰ	1	○				1	30	本岡	
英語総合Ⅱ	1		○			1	30	高島	
英語総合Ⅲ	2			○		1	30	高島	
英語総合Ⅳ	2				○	1	30	本岡	
英語表現Ⅰ	1			○		1	30	マコート	
英語表現Ⅱ	1				○	1	30	黒飛	
英語表現Ⅲ	2	○				1	30	黒飛・(マコート)	
英語表現Ⅳ	2		○			1	30	黒飛・(マコート)	
中国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(張)・(徐)	
中国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(張)・(徐)	
韓国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(金)	
韓国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(金)	
ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1	30	(小田)	
ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1	30	(小田)	
アカデミック日本語Ⅰ	1	○				1	30	中石	
アカデミック日本語Ⅱ	1		○			1	30	中石	
スポーツ実技Ⅰ	1	○				1	30	(弘中)・(村上)	
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1	30	(弘中)	
保健体育理論	2				○	2	30	(弘中)	
哲学	1・2・3・4	○				2	30	大草	必修4単位 選択4単位以上
文学	1・2・3・4		○			2	30	遠藤, 西本, 柳川	
芸術	1・2・3・4			○		2	30	矢澤	
心理学	1・2・3・4				○	2	30	古屋	
社会学	1・2・3・4	○				2	30	澤田	
歴史学	1・2・3・4			○		2	30	岡本	
倫理学	1・2・3・4				○	2	30	大草	
経済学	1・2・3・4	○				2	30	(西手)	
科学史	1・2・3・4	○				2	30	村田	
生命倫理	1・2・3・4		○			2	30	吉川・古山	
基礎数学	1・2・3・4		○			2	30	川原田	
統計入門	1・2・3・4				○	2	30	飯田	
家族社会学	1・2・3・4				○	2	30	澤田	
文化人類学	1・2・3・4	○				2	30	上水流	
日本国憲法	1・2・3・4		○			2	30	岡田 ^高	
法学	1・2・3・4			○		2	30	岡田 ^高	
食と健康	1・2・3・4				○	△2	30	長尾	
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	加藤 ³	
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田 ³ , 内藤	
生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)	
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川 ^俊	
アカデミック・ライティング	1			○		1	30	俵, 辻川, 日高, 安田, 岡村, 西上, 助川, 増田, 小澤, 伊集院, 勝見, 國定, 吉田 ^編	必修1単位 選択1単位以上
クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30	加藤 ³ , 鴨下, 俵, 土路生, 金指, 長谷川 ^正 , 川原田, 藤巻, 古屋, 細川, 越智, 志賀, 米倉	
プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30	中垣(1Q), 井上(3Q), 梅井, 田中 ³ , 渡辺 ^編 , 伊藤 ³ (1Q), 米倉(3Q)	
ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	鈴木, 和田, 大知	選択4単位以上
国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流・手島	
地域情報発信論	2・3・4		○			2	30	広谷・藤井 ^正 ・吉田 ^編 ・伊藤 ^俊	
地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員	
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2	30	担当教員	
キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2	30	原田 ³	選択4単位以上
ライフデザイン	2・3・4		○			2	30	岡田 ^高 , 日高, 村上	
ボランティア	2・3・4		○			2	30	手島	
インターンシップ	2・3・4				○	2	30	原田 ³	
リーダー論	3・4	○				2	30	原田 ³ , 魚谷	
多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田	選択4単位以上
人間関係論	2・3・4			○		2	30	(中谷)	
人権論	2・3・4				○	2	30	岡田 ^高	
世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流	
世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村	
海外研修	2・3・4	認定	認定	認定	認定	2	30	本岡・高島	
英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)	卒業要件外
数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田	
国語入門演習	1	○	○			1	30	(五條)	
社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤 ^俊	
生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原	
物理入門演習	1	○	○			1	30	米村	
化学入門演習	1	○	○			1	30	三苫	
小計(A)						36			36単位以上

アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可

□ 保健福祉学部保健福祉学科看護学コース（令和4年度入学生）

授業科目	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数 必修 選択	授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備 考
			①	②	③	④				
人間と社会 に関する生活の 理解	解剖学概論	1	○				1	15	津森	必修4単位
	生理学概論	1		○			1	15	森	
	微生物と人間	1			○		1	15	加藤 ^理	
	人間発達学	1				○	1	15	林 ^隆	
	発達心理学	1	○				1	15	古屋	
	生活環境科学	2		○			1	15	吉田 ^倫	
	福祉と社会問題	2		○			1	15	志賀, 田中 ^聡 , 金子, 松宮, 坊岡	
	小計(B)					4			4単位以上	
地域を 発展させる ケアシステム	保健福祉概論	1	○				1	15	黒田・島谷・田中 ^徳 ・坊岡・金子・林 ^隆 ・沖西	看護師課程5単位以上 保健師課程6単位以上 養護教諭課程5単位以上
	保健医療福祉行政論	3		○			1	15	安武, 俵	
	ケアマネジメント論	3	○				1	15	金子, 坊岡	
	地域包括ケアシステム論	2			○		1	15	金子, 俵, 積山	
	リーダーシップと協働	4				○	1	15	黒田・島谷・西田・坊岡・松宮	
	チーム医療福祉論	1		○			1	15	吉川・黒田・島谷・坊岡・永野	
	チーム医療福祉演習	4			○		1	30	古山ほか	
	小計(C)					5				
専門領域 理解の基礎と なる科目	臨床心理学	1				○	1	15	近藤	必修11単位 選択2単位以上
	カウンセリング論	2			○		1	15	勝見	
	生化学	1				○	1	15	森, 加藤 ^理	
	生体機能学	1		○			1	15	森	
	薬理学	2	○				1	15	(柳瀬)	
	病理学	1			○	○	1	15	(嶋本)	
	公衆衛生学	2	○				1	15	安武	
	臨床栄養学	1			○		1	15	沼下, 山縣	
	内科学	2	○				1	15	(奥崎)	
	神経内科学概論Ⅰ	2	○				1	15	原田 ^俊	
	神経内科学概論Ⅱ	2		○			1	15	原田 ^俊	
	精神医学	2		○			1	15	藤巻	
	小児科学	2			○		1	15	林 ^隆	
	医療安全学	2			○		1	15	安武, 田口, 住居, 原田 ^俊	
救急医療	2			○	○	1	15	(武田)		
エンドオブライフ・ケア	3	○				1	15	渡辺 ^暁 , 田中 ^聡		
保健医療福祉関係法規	1	○				1	15	岡田 ^由 , 安武, 細川, 越智, 西田		
	小計(D)					13			13単位以上	
	合計(A+B+C+D)					58			看護師課程・養護教諭課程: 58単位以上 保健師課程: 59単位以上	
看護学 基礎科目	保健統計学	2				○	1	15	安武	看護師課程3単位以上 保健師課程5単位以上 養護教諭課程4単位以上
	疫学	2			○	○	2	30	安武, 岡田 ^由	
	解剖学(看護特論)	1			○		1	30	津森	
	病態生理学	2	○				1	15	安武	
	免疫と感染	2	○				1	15	加藤 ^理 , 岡田 ^由	
	計(履修方法・卒業要件)					3			3単位以上	
看護学 必修科目	看護学概論	1		○			1	15	吉田 ^和 , 青井	必修67単位
	日常生活援助方法論Ⅰ(共通基本技術)	1			○	○	2	60	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	日常生活援助方法論Ⅱ(生活援助技術)	2	○	○			2	60	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	診療に伴う看護方法論	2	○	○			1	30	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	看護理論と実践	2			○	○	2	30	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	フィジカルアセスメント	2			○		1	30	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	看護研究の基礎	3		○			1	15	黒田, 山中	
	基礎看護実習Ⅰ	2			○		1	45	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	基礎看護実習Ⅱ	2			○	○	2	90	吉田 ^和 , 三宅, 青井, 池田	
	地域看護学概論	1			○		1	15	俵, 岡田 ^由	
	地域看護対象論Ⅰ(個人・家族)	1				○	1	30	俵, 沖西, 安田, 岡田 ^由 , 辻川, 加利川	
	地域看護対象論Ⅱ(集団・組織)	2				○	1	30	俵, 沖西, 安田, 岡田 ^由 , 辻川, 加利川	
	地域包括ケア実習	3			○		1	45	井上, 伊藤, 土路生, 安田, 加利川, 辻川, 加藤	
	在宅看護論	2	○				1	15	安田, 加利川	
	在宅看護展開論	2				○	1	15	安田, 加利川	
	在宅看護実践論	3	○				1	15	安田, 加利川	
	在宅看護実習(訪問)	4	○	○			2	90	安田, 加利川	
	成人の健康と看護	1				○	1	15	黒田, 岡田 ^由	
	急性期看護論	2	○				2	30	中垣, 岡田 ^由	
	急性期看護実践論	3		○			1	30	中垣, 岡田 ^由	
	急性期看護実習	3			○	○	3	135	中垣, 岡田 ^由	
	慢性病看護論	2		○			2	30	黒田, 山田 ^隆	
	慢性病看護実践論	3	○				1	30	黒田, 山田 ^隆	
慢性病看護実習	3			○	○	3	135	黒田, 山田 ^隆		
高齢者の健康と看護	2	○				1	15	渡辺 ^暁 , 山中		
高齢者看護方法論	2		○			1	15	渡辺 ^暁 , 山中		
高齢者看護展開論	3	○				1	15	渡辺 ^暁 , 山中		
高齢者看護実践論	3		○			1	30	渡辺 ^暁 , 山中		
高齢者看護実習	3			○	○	3	135	渡辺 ^暁 , 山中		

□ 保健福祉学部保健福祉学科看護学コース（令和4年度入学生）

授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数 必修選択	授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備 考
		①	②	③	④				
小児の健康と看護	2			○		1	15	松森, 土路生, 鴨下	
小児看護方法論	3	○				1	15	松森, 土路生, 鴨下	
小児看護展開論	3		○			1	15	松森, 土路生, 鴨下	
小児看護実践論	3				○	1	30	松森, 土路生, 鴨下	
小児看護実習	4	○	○			2	90	松森, 土路生, 鴨下	
リプロダクティブヘルズ看護論	2		○			1	15	伊藤 ^良 , 日高	
周産期看護方法論	3	○				1	15	伊藤 ^良 , 日高	
周産期看護展開論	3		○			1	30	伊藤 ^良 , 日高	
周産期看護実践論	3				○	1	15	伊藤 ^良 , 日高	
周産期看護実習	3				○	2	90	伊藤 ^良 , 日高	
メンタルヘルズ看護論	2	○				1	15	井上, 近藤	
精神看護方法論	2			○		1	15	井上, 近藤	
精神看護展開論	3	○				1	15	井上, 近藤	
精神看護実践論	3		○			1	30	井上, 近藤	
精神看護実習	3				○	2	90	井上, 近藤	
統合実習 I	3			○		1	45	吉田 ^昭 ・伊藤 ^良 ・三宅・土路生・中垣・安田・加利川・近藤・山田・鴨下・辻川	
統合実習 II	4		○			1	30	渡辺 ^暁 ・黒田・松森・井上・吉田和・青井・岡田 ^洋 ・日高・山中	
看護統合演習	4		○			1	30	黒田・松森・井上・吉田和・伊藤 ^良 ・三宅・渡辺 ^暁 ・土路生・中垣・安田・青井・岡田 ^洋 ・日高・山中・加利川・鴨下	
看護管理論	3		○			1	15	吉田 ^和	
災害看護論	3	○				1	15	安田, 日高, 山中	
看護倫理	2		○			1	15	松森	
がん看護論	2				○	1	15	黒田, 松森, 中垣	
計（履修方法・卒業要件）						67			必修67単位
看護学選択科目									
認知症看護論	4	○				1	15	渡辺 ^暁 , 山中	
看護教育論	2				○	1	15	松森	
エンド・オブ・ライフケア看護論	3		○			1	15	黒田	
家族看護論	3	○				□1	15	松森	看護師課程4単位以上 保健師課程2単位以上 養護教諭課程2単位以上
家族保健指導論	3		○			□1	15	沖西	
計（履修方法・卒業要件）						4			
公衆衛生看護学									
公衆衛生看護活動論 I（保健所・市町）	3	○	○			■2	60	俵, 岡田 ^洋 , 辻川	
公衆衛生看護活動論 II（産業・学校）	3	○	○			■A2	30	俵, 沖西, 岡田 ^洋 , 辻川	
公衆衛生看護展開論	3				○	■1	15	俵, 沖西, 安田, 岡田 ^洋 , 辻川, 加利川	保健師課程11単位 養護教諭課程2単位
公衆衛生看護実践論	4	○				■1	30	俵, 岡田 ^洋 , 辻川	
公衆衛生看護実習 I（保健所・市町）	4	○	○			■3	135	俵, 沖西, 安田, 岡田 ^洋 , 辻川, 加利川	
公衆衛生看護実習 II（産業・学校）	4	○	○			■2	90	俵, 沖西, 岡田 ^洋 , 辻川	
計（履修方法・卒業要件）						11			
卒業研究	4		○			2	60	黒田 ほか	選択2単位
地域課題解決研究	4		○			2	60	黒田 ほか	
計（履修方法・卒業要件）						2			選択2単位
小 計						76			
総合計						134			看護師課程134単位以上 保健師課程146単位以上 養護教諭課程135単位以上
養護に関する科目									
養護概説	1			○	○	△2	30	沖西	
学校健康相談	2			○	○	▲2	30	沖西	
養護実習指導	4	○				▲1	30	沖西	養護教諭課程11単位
養護実習 I（特別支援学校）	4		○			▲1	45	沖西	
養護実習 II（学校）	4			○		▲3	135	沖西	
教職実践演習（養護教諭）	4			○	○	▲2	30	沖西	
教育學概論	1			○		△2	30	(田中 ^崇)	
教職入門	1				○	△2	30	(中村 ^優)	
教育社会学	2	○				▲2	30	藤井 ^直	
教育心理学	2		○			▲2	30	(中谷), 古屋	
教育課程論	2	○	○			▲2	30	(竹田)	
生徒指導論	2			○		▲2	30	坪田	
特別支援教育	2			○		▲1	15	林 ^優 , 古山	養護教諭課程23単位
道徳教育論	3	○				▲2	30	(宮里)	
総合的な学習の時間の指導法	3	○	○			▲2	30	(林原)	
特別活動論	3	○	○			▲2	30	(山田 ^暁)	
教育方法学	3			○	○	▲2	30	(深澤)	
教育相談	3	○				▲2	30	勝見	
計									養護教諭課程34単位

(注) 1 ■は保健師課程の必修科目であり、保健師課程以外の学生の履修は認めない。
 2 □は保健師課程の必修科目で、保健師課程以外の学生も履修できる。
 保健師課程選抜試験受験希望者は2年次開講科目の単位を修得しておかなければならない。
 3 ▲は養護教諭課程の必修科目であり、養護教諭課程以外の学生の履修を認めない。
 4 △は養護教諭課程の必修科目で、養護教諭課程以外の学生も履修できる。
 養護教諭課程希望者は1年次開講科目の単位を修得しておかなければならない。

□ 保健福祉学部 保健福祉学科学療法学コース (令和4年度入学生)

	授業科目の名称	配当 年次	開講期				単位数		授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備 考
			①	②	③	④	必修	選択			
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シ ー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1	30	伊藤 ^員 、加藤 ^員 、日高、山田、小野、金井、池内、坂本、津田、小島、江本、湯川、吉田 ^員	必修8単位 選択6単位以上	
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1	30	伊藤 ^員 、中垣、山中、渡辺 ^員 、飯田、佐藤 ^員 、小池、久野、渡辺 ^員 、中村、江本、湯川、吉田 ^員		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1	30	川原田		
	ICTリテラシーⅡ	1		○			1	30	川原田		
	英語総合Ⅰ	1	○				1	30	高島		
	英語総合Ⅱ	1		○			1	30	本岡		
	英語総合Ⅲ	2			○		1	30	本岡		
	英語総合Ⅳ	2				○	1	30	高島		
	英語表現Ⅰ	1			○		1	30	黒飛		
	英語表現Ⅱ	1				○	1	30	(マコート)		
	英語表現Ⅲ	2	○				1	30	黒飛・(マコート)		
	英語表現Ⅳ	2		○			1	30	黒飛・(マコート)		
	中国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(張)・(徐)		
	中国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(張)・(徐)		
	韓国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(金)		
	韓国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(金)		
	ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1	30	(小田)		
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1	30	(小田)		
	アカデミック日本語Ⅰ	1・2	○				1	30	中石		
	アカデミック日本語Ⅱ	1・2			○		1	30	中石		
	スポーツ実技Ⅰ	1	○				1	30	(弘中)		
	スポーツ実技Ⅱ	2			○		1	30	(弘中)		
	保健体育理論	2				○	2	30	(弘中)		
	哲学	1・2・3・4	○				2	30	大草		
	文学	1・2・3・4		○			2	30	遠藤、西本、柳川		
	芸術	1・2・3・4			○		2	30	矢澤		
	心理学	1・2・3・4				○	2	30	古屋		
	社会学	1・2・3・4	○				2	30	澤田		
	歴史学	1・2・3・4			○		2	30	岡本		
	倫理学	1・2・3・4				○	2	30	大草		
	経済学	1・2・3・4	○				2	30	(西手)		
	科学史	1・2・3・4	○				2	30	村田		
	生命倫理	1・2・3・4		○			2	30	吉川・古山		
	基礎数学	1・2・3・4		○			2	30	川原田		
	統計入門	1・2・3・4				○	2	30	川原田		
家族社会学	1・2・3・4				○	2	30	澤田			
文化人類学	1・2・3・4	○				2	30	上水流			
日本国憲法	1・2・3・4		○			2	30	岡田 ^高			
法学	1・2・3・4			○		2	30	岡田 ^高			
食と健康	1・2・3・4				○	2	30	長尾			
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	加藤 ^員			
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田 ^高 、内藤			
生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)			
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川 ^俊			
論 理 思 考 表 現	アカデミック・ライティング	1			○	1	30	俵、辻川、日高、安田、岡村、西上、助川、増田、小澤、伊集院、勝見、國定、吉田 ^員	必修1単位 選択1単位以上		
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30		加藤 ^員 、鴨下、俵、土路生、金指、長谷川 ^正 、川原田、藤巻、古屋、細川、越智、志賀、米倉	
	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30		中垣(1Q)、井上(3Q)、梅井、田中 ^睦 、渡辺 ^員 、伊藤 ^泰 (1Q)、米倉(3Q)	
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	鈴木、和田、大知	選択4単位以上	
	国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流・手島		
	地域情報発信論	2・3・4		○			2	30	広谷・藤井 ^正 ・吉田 ^員 ・伊藤 ^俊		
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員		
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○		2	30	担当教員		
キ ャ リ ア 開 発	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2	30	原田 ^淳	選択4単位以上	
	ライフデザイン	2・3・4		○			2	30	岡田 ^高 、日高、村上		
	ボランティア	2・3・4		○			2	30	手島		
	インターンシップ	2・3・4				○	2	30	原田 ^淳		
リーダー論	3・4	○				2	30	原田 ^高 、魚谷			
ダ イ バ ー シ ン テ イ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田	必修2単位 選択2単位以上	
	人間関係論	2・3・4			○		2	30	(中谷)		
	人権論	2・3・4				○	2	30	岡田 ^高		
	世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流		
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村		
海外研修	2・3・4	認定	認定	認定	認定	2	30	本岡・高島			
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)	卒業要件外	
	数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田		
	国語入門演習	1	○	○			1	30	五條		
	社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤 ^俊		
	生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原		
	物理入門演習	1	○	○			1	30	米村		
	化学入門演習	1	○	○			1	30	三苫		
小計(A)						36			36単位以上		

アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可

□ 保健福祉学部 保健福祉学科理学療法学科コース (令和4年度入学生)

	授業科目の名称	配当 年次	開講期				単位数 必修 選択	授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備 考	
			①	②	③	④					
人間と社会生活の理解に関する科目	科学と医学	1		○			1	15	住居, 林, 藤巻, 安武, 原田, 森, 田口	必修4単位	
	解剖学概論	1	○				1	15	津森		
	生理学概論	1		○			1	15	森		
	微生物と人間	1			○		1	15	加藤洋		
	人間発達学	1				○	1	15	林隆		
	発達心理学	1	○				1	15	古屋		
	生活環境科学	2		○			1	15	吉田倫		
	福祉と社会問題	2		○			1	15	志賀, 田中聡子, 金子, 松宮, 坊岡		
	小計 (B)						4			4単位以上	
	地域包括ケアシステムを発展させる科目	保健福祉概論	1	○				1	15	黒田・島谷・田中聡・坊岡・金子・林・沖西	5単位以上
		保健医療福祉行政論	3		○			1	15	安武, 俵	
		ケアマネジメント論	3	○				1	15	金子, 坊岡	
		地域包括ケアシステム論	2				○	1	15	金子, 俵, 積山	
		リーダーシップと協働	4				○	1	15	黒田・島谷・西田・坊岡・松宮	
		チーム医療福祉論	1		○			1	15	吉川・黒田・島谷・坊岡・永野	
		チーム医療福祉演習	4			○		1	30	古山ほか	
	小計 (C)						5			5単位以上	
	専門領域理解の基礎となる科目	福祉支援工学	2			○		1	15	川原田	必修18単位 選択2単位以上
臨床心理学		1				○	1	15	勝見		
医療行動科学		2	○				1	15	細羽		
生化学		1				○	1	15	森, 加藤洋		
生体機能学		1		○			1	15	森		
神経生理学		1			○		1	15	森		
生理学実習		2	○	○			1	45	森・加藤・岡村・佐藤 _勇 ・金指・高宮・池内		
薬理学		2	○				1	15	(柳瀬)		
病理学		1			○	○	1	15	(嶋本)		
臨床栄養学		1			○		1	15	栢下, 山縣		
一般臨床医学		2		○			1	15	住居, 原田 _俊		
内科学		2	○				1	15	(奥崎)		
神経内科学概論Ⅰ		2	○				1	15	原田 _俊		
神経内科学概論Ⅱ		2		○			1	15	原田 _俊		
精神医学		2		○			1	15	藤巻		
小児科学		2			○		1	15	林隆		
整形外科Ⅰ		2	○				1	15	(河野)		
整形外科Ⅱ		2			○		1	15	(河野)		
リハビリテーション医学		2				○	1	15	(木村 _浩)		
医療安全学		2			○		1	15	安武, 田口, 住居, 原田 _俊		
救急医療	2			○	○	1	15	(武田)			
エンドオブライフ・ケア	3	○				1	15	渡辺 _雄 , 田中 _聡			
福祉住環境論	2				○	1	15	吉田倫			
保健医療福祉関係法規	1	○				1	15	岡田 _敏 , 安武, 細川, 越智, 西田			
小計 (D)						18			20単位以上		
合計 (A+B+C+D)						65			65単位以上		
専門領域特有の科目	基礎科目	解剖学(運動特論)	1			○		1	15	津森, 加藤 _洋	必修9単位
		解剖学実習	2	○	○			2	90	津森・加藤 _洋 ・岡村・佐藤 _勇 ・金指・高宮	
		中枢神経機能学	3	○				1	15	津森, 森, 藤巻	
		神経内科学クリニカルスタディ	2			○	○	1	30	原田 _俊	
		基礎運動学	1			○		1	15	長谷川 _正 , 岡村, 金井	
		運動学	2	○				1	15	島谷, 長谷川 _正	
		運動学演習	2	○	○			1	30	島谷, 長谷川 _正	
		運動学実習	2			○	○	1	45	島谷, 金井, 岡村, 金指, 高宮, 佐藤 _勇	
	計 (履修方法・卒業要件)						9				
	基礎・研究系理学療法学科	理学療法概論Ⅰ	1		○			1	15	島谷, 梅井, 佐藤 _勇 , 岡村, 高宮, 金指	必修8単位
		理学療法概論Ⅱ	1			○		1	15	島谷, 小野, 岡村	
		理学療法学研究法	2				○	1	15	長谷川 _正 , 梅井, 島谷, 西上, 積山, 佐藤 _勇 , 岡村, 金井, 小野, 田中 _聡 , 高宮, 金指, 飯田, 高島	
		理学療法学研究法演習	3	○	○			1	30	長谷川 _正 , 梅井, 島谷, 西上, 積山, 佐藤 _勇 , 岡村, 金井, 小野, 田中 _聡 , 高宮, 金指, 飯田, 高島	
		臨床理学療法学	4	○				1	15	長谷川 _正 , 小野, 岡村, 金指, 高宮, 佐藤 _勇	
臨床運動学		2			○		1	15	長谷川 _正 , 佐藤 _勇		
理学療法管理学Ⅰ	3		○			1	15	積山, 田中 _聡			
理学療法管理学Ⅱ	3			○		1	15	積山, 田中 _聡			
計 (履修方法・卒業要件)						8					

□ 保健福祉学部 保健福祉学科理学療法学科コース (令和4年度入学生)

授業科目	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
			①	②	③	④	必修	選択			
理学療法学 評価・診断系	理学療法評価学概論	1		○			1	15	西上, 梅井	必修6単位	
	理学療法評価学演習 I	2	○	○			1	30	西上, 梅井		
	理学療法評価学演習 II	2	○	○			1	30	西上, 小野, 佐藤 ^勇		
	理学療法評価学演習 III	2			○	○	1	30	西上, 金井, 金指		
	理学療法評価学演習 IV	2			○	○	1	30	島谷, 長谷川 ^正 , 高宮		
	理学療法画像評価学	3			○		1	15	飯田, 岡村, 佐藤 ^勇 , 金指, 高宮		
	計 (履修方法・卒業要件)						6				
	障害・治療系 理学療法学	基礎運動療法学	2				○	1	15	横山, 小野, 佐藤 ^勇	必修17単位
		骨関節障害理学療法学	3	○				1	15	西上, 横山, 金指	
		骨関節障害理学療法学演習	3		○	○		1	30	西上, 田中, 横山, 岡村, (西山)	
		神経障害理学療法学	3	○				1	15	島谷, 田中 ^聡	
		神経障害理学療法学演習	3		○	○		1	30	島谷, 高宮, 岡村	
		小児発達障害理学療法学	3	○				1	15	島谷, 梅井, 高宮	
		小児発達障害理学療法学演習	3		○	○		1	30	島谷, 梅井, 高宮	
		内部障害理学療法学	3	○				1	15	横山, (金井 ^正)	
内部障害理学療法学演習		3		○	○		1	30	横山, 田中 ^聡 , (片岡)		
物理療法学		2				○	1	15	西上, 田中 ^聡 , 梅井		
物理療法学演習		3	○	○			1	30	長谷川 ^正 , 田中 ^聡 , 岡村		
義肢装具学		3	○				1	15	長谷川 ^正 , 佐藤 ^勇		
義肢装具学演習		3		○	○		1	30	長谷川 ^正 , 岡村		
理学療法模擬患者		3			○		1	15	西上, 横山		
理学療法模擬患者演習		3			○		1	30	西上, 金井, 島谷, 飯田, 長谷川 ^正 , 横山, 佐藤 ^勇 , 岡村, 梅井, 小野, 田中 ^聡 , 高宮, 金指		
理学療法クリニカルリーズニング	4				○	1	15	西上, 梅井, 島谷, 長谷川 ^正 , 横山, 佐藤 ^勇 , 岡村, 金井, 小野, 田中 ^聡 , 高宮, 金指			
理学療法クリニカルリーズニング演習	4				○	○	1	30	西上, 梅井, 島谷, 長谷川 ^正 , 横山, 佐藤 ^勇 , 岡村, 金井, 小野, 田中 ^聡 , 高宮, 金指, 飯田		
計 (履修方法・卒業要件)						17					
地域・生活系 理学療法学	地域日常生活活動学	3	○				1	15	島谷, 横山	必修3単位	
	地域日常生活活動学演習	3		○	○		1	30	島谷, 金指		
	地域理学療法学	3	○				1	15	横山, 田中 ^聡 , 金井, 岡村		
	計 (履修方法・卒業要件)					3					
応用・実践系 理学療法学	実践理学療法学特論 I	3			○		1	15	長谷川 ^正 , 小野, 佐藤 ^勇 , (宮崎)	選択3単位以上	
	実践理学療法学特論 II	3			○		1	15	西上, 長谷川 ^正		
	実践理学療法学特論 III	3			○		1	15	長谷川 ^正 , 金井, 岡村		
	応用理学療法学特論 I	3			○		1	15	横山, 金井, 岡村, 金指, 佐藤 ^勇 , 高宮		
	応用理学療法学特論 II	3			○		1	15	島谷, 田中 ^聡		
	応用理学療法学特論 III	4			○		1	15	西上, 梅井		
計 (履修方法・卒業要件)						3					
臨床実習	基礎臨床実習 I	2		○			1	45	西上・飯田・梅井・島谷・長谷川 ^正 ・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指	必修20単位	
	基礎臨床実習 II	3				○	4	180	西上・飯田・梅井・島谷・長谷川 ^正 ・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指		
	地域臨床実習	3				○	1	45	西上・飯田・梅井・島谷・長谷川 ^正 ・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指		
	総合臨床実習 I	4	○				7	315	西上・飯田・梅井・島谷・長谷川 ^正 ・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指		
	総合臨床実習 II	4		○	○		7	315	西上・飯田・梅井・島谷・長谷川 ^正 ・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指		
計 (履修方法・卒業要件)						20					
卒業論文	地域課題解決研究	4			○		2	60		選択2単位	
	卒業研究	4				○	2	60	長谷川 ^正 ・梅井・島谷・西上・飯田・横山・佐藤 ^勇 ・岡村・小野・金井・田中 ^聡 ・高宮・金指		
	計 (履修方法・卒業要件)						2				
	小計 (履修方法・卒業要件)						68			68単位	
	総合計 (卒業要件)						133			133単位以上	

履修制限について

保健福祉学部履修要領により、専門教育特有の科目(必修科目に限る)の履修は、次の要件を満たしていることを履修の条件とする。

- 臨床理学療法学, 理学療法クリニカルリーズニング, 理学療法クリニカルリーズニング演習, 応用理学療法学特論III, 総合臨床実習 I, 総合臨床実習 II, 卒業研究
- 1年次から3年次までの科目から教育課程表の必要単位数の欄に掲げる単位数を修得し、かつ、1年次から3年次までの必修科目の単位を修得していること。

□ 保健福祉学部 保健福祉学科作業療法学コース (令和4年度入学生)

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数 必修 選択	授業 時間数	担当教員 ()は学外講師	備 考		
			①	②	③	④						
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ ン ス	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1	30	伊藤良, 加藤洋, 日高, 山田, 小野, 金井, 池内, 坂本, 津田, 小島, 江本, 湯川, 吉田	必修8単位 選択6単位以上		
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1	30	伊藤良, 中垣, 山中, 渡辺, 飯田, 佐藤, 小池, 久野, 渡辺, 中村, 江本, 湯川, 吉田			
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1	30	川原田			
	ICTリテラシーⅡ	1		○			1	30	川原田			
	英語総合Ⅰ	1	○				1	30	高島			
	英語総合Ⅱ	1		○			1	30	本岡			
	英語総合Ⅲ	2			○		1	30	本岡			
	英語総合Ⅳ	2				○	1	30	高島			
	英語表現Ⅰ	1			○		1	30	黒飛			
	英語表現Ⅱ	1				○	1	30	(マコート)			
	英語表現Ⅲ	2	○				1	30	黒飛・(マコート)			
	英語表現Ⅳ	2		○			1	30	黒飛・(マコート)			
	中国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(張)・(徐)			
	中国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(張)・(徐)			
	韓国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(金)			
	韓国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(金)			
	ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1	30	(小田)			
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1	30	(小田)			
	アカデミック日本語Ⅰ	1	○				1	30	中石			
	アカデミック日本語Ⅱ	1			○		1	30	中石			
	スポーツ実技Ⅰ	1	○				1	30	(弘中)			
	スポーツ実技Ⅱ	2			○		1	30	(弘中)			
	保健体育理論	2				○	2	30	(弘中)			
	全 業 学 科 共 通 目 教 育 の 概 要	哲学	1・2・3・4	○				2	30		大草	選択8単位以上
		文学	1・2・3・4		○			2	30		遠藤, 西本, 柳川	
		芸術	1・2・3・4			○		2	30		矢澤	
心理学		1・2・3・4				○	2	30	古屋			
社会学		1・2・3・4	○				2	30	澤田			
歴史学		1・2・3・4			○		2	30	岡本			
倫理学		1・2・3・4			○		2	30	大草			
経済学		1・2・3・4	○				2	30	(西手)			
科学史		1・2・3・4	○				2	30	村田			
生命倫理		1・2・3・4		○			2	30	吉川・古山			
基礎数学		1・2・3・4	○				2	30	川原田			
統計入門		1・2・3・4				○	2	30	川原田			
家族社会学		1・2・3・4				○	2	30	澤田			
文化人類学		1・2・3・4		○			2	30	上水流			
日本国憲法		1・2・3・4		○			2	30	岡田			
法学		1・2・3・4			○		2	30	岡田			
食と健康		1・2・3・4				○	2	30	長尾			
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	加藤				
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田, 内藤				
生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)				
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川				
論 理 思 考 表 現	アカデミック・ライティング	1			○	1	30	俵, 辻川, 日高, 安田, 岡村, 西上, 助川, 増田, 小澤, 伊集院, 勝見, 國定, 吉田	必修1単位 選択1単位以上			
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30		加藤, 鴨下, 俵, 土路生, 金指, 長谷川, 川原田, 藤巻, 古屋, 細川, 越智, 志賀, 米倉		
	プレゼンテーション演習	2・3・4	○			○	1	30		中垣(1Q), 井上(3Q), 梅井, 田中, 渡辺, 伊藤(1Q), 米倉(3Q)		
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4			○		2	30	鈴木, 和田, 大知	選択4単位以上		
	国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流・手島			
	地域情報発信論	2・3・4			○		2	30	広谷・藤井・吉田・伊藤			
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員			
	地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員			
キ ャ リ ア ビ ジ ョ ン (デ ベ ロ プ メ ン ト)	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2	30	原田	選択4単位以上		
	ライフデザイン	2・3・4		○			2	30	岡田, 日高, 村上			
	ボランティア	2・3・4		○			2	30	手島			
	インターンシップ	2・3・4				○	2	30	原田			
	リーダー論	3・4	○				2	30	原田, 魚谷			
ダ イ バ ー シ テ イ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田	必修2単位 4単位以上		
	人間関係論	2・3・4			○		2	30	(中谷)			
	人権論	2・3・4				○	2	30	岡田			
	世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流			
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村			
	海外研修	2・3・4	認定	認定	認定	認定	2	30	本岡・高島			
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)	卒業要件外		
	数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田			
	国語入門演習	1	○	○			1	30	五條			
	社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤			
	生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原			
	物理入門演習	1	○	○			1	30	米村			
	化学入門演習	1	○	○			1	30	三苦			
小計(A)						36			36単位以上			

アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可

□ 保健福祉学部 保健福祉学作業療法学コース (令和4年度入学生)

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
			①	②	③	④	必修	選択			
人間と社会生活の理解に関する科目	科学と医学	1		○			1	15	住居, 林, 藤巻, 安武, 原田, 森, 田口	必修4単位	
	解剖学概論	1	○				1	15	津森		
	生理学概論	1		○			1	15	森		
	微生物と人間	1			○		1	15	加藤 ^理		
	人間発達学	1				○	1	15	林 ^慶		
	発達心理学	1	○				1	15	古屋		
	生活環境科学	2		○			1	15	吉田 ^倫		
	福祉と社会問題	2		○			1	15	志賀, 田中 ^{聖子} , 金子, 松宮, 坊岡		
小計 (B)						4			4単位以上		
地域包括ケアシステムを発展させる科目	保健福祉概論	1	○				1	15	黒田・島谷・田中 ^浩 ・坊岡・金子・林・沖西	必修5単位	
	保健医療福祉行政論	3		○			1	15	安武, 俵		
	ケアマネジメント論	3	○				1	15	金子, 坊岡		
	地域包括ケアシステム論	2				○	1	15	金子, 俵, 積山		
	リーダーシップと協働	4				○	1	15	黒田・島谷・西田・坊岡・金子		
	チーム医療福祉論	1		○			1	15	吉川・黒田・島谷・坊岡・永野		
	チーム医療福祉演習	4			○		1	30	古山ほか		
小計 (C)						5			5単位以上		
専門領域理解の基礎となる科目	福祉支援工学	2			○		1	15	川原田	19単位以上	
	臨床心理学	1				○	1	15	勝見		
	医療行動科学	2	○				1	15	細羽		
	生化学	1				○	1	15	森, 加藤 ^理		
	生体機能学	1		○			1	15	森		
	神経生理学	1			○		1	15	森		
	生理学実習	2	○	○			1	45	森・加藤 ^理 ・岡村・金指・高宮・佐藤 ^浩 ・池内		
	薬理学	2	○				1	15	(柳瀬)		
	病理学	1			○	○	1	15	(嶋本)		
	公衆衛生学	2	○				1	15	安武		
	臨床栄養学	1			○		1	15	稻下, 山縣		
	一般臨床医学	2		○			1	15	住居・原田 ^慶		
	内科学	2	○				1	15	(奥崎)		
	神経内科学概論Ⅰ	2	○				1	15	原田 ^慶		
	神経内科学概論Ⅱ	2		○			1	15	原田 ^慶		
	精神医学Ⅰ	2			○		1	15	藤巻		
	精神医学Ⅱ	2			○		1	15	藤巻		
	小児科学	2			○		1	15	林 ^慶		
	整形外科Ⅰ	2	○				1	15	(河野)		
	整形外科Ⅱ	2			○		1	15	(河野)		
	リハビリテーション医学	2				○	1	15	(木村 ^浩)		
	医療安全学	2			○		1	15	安武, 田口, 住居, 原田 ^慶		
	救急医療	2			○	○	1	15	(武田)		
エンドオブライフ・ケア	3	○				1	15	渡辺 ^昌 , 田中 ^聖			
福祉住環境論	2				○	1	15	吉田 ^倫			
保健医療福祉関係法規	1	○				1	15	岡田 ^ゆ , 安武, 細川, 越智, 西田			
小計 (D)						19			19単位以上		
合計 (A+B+C+D)						64			64単位以上		
基礎科目	解剖学 (運動特論)	1			○		1	15	津森, 加藤	必修8単位	
	解剖学実習	2	○	○			2	90	津森・加藤・岡村・金指・高宮・佐藤 ^勇		
	中枢神経機能学	3	○				1	15	津森, 森, 藤巻		
	神経内科学クリニカルスタディ	2			○	○	1	30	原田 ^慶		
	運動学	2	○				1	15	久野・池内		
	運動学実習	2			○	○	1	45	久野・池内		
	医療画像学	3			○		1	15	飯田		
計 (履修方法・卒業要件)						8					
基礎作業療法学	作業療法学概論	1	○				1	15	吉川	必修6単位	
	作業療法学概論演習	1			○	○	1	30	高木		
	作業療法研究法	3	○				1	15	吉川・坂本		
	作業療法倫理学	2	○				1	15	吉川・坂本		
	作業療法管理学	3				○	1	15	助川・古山		
	作業療法総合演習	4			○	○	1	30	高木・増田・川原田・小池・古山・西田・林・久野・藤巻・森・吉川・助川・田中 ^聖 ・池内・坂本・織田		
計 (履修方法・卒業要件)						6					

□ 保健福祉学部 保健福祉学作業療法学コース（令和4年度入学生）

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
			①	②	③	④	必修	選択			
授業科目 の 概要	作業科学	1		○			1	15	吉川	必修3単位	
	作業科学実習Ⅰ	1			○	○	1	45	古山・織田		
	作業科学実習Ⅱ	2	○	○			1	45	高木・坂本		
	計（履修方法・卒業要件）						3				
	作業療法評価学Ⅰ	2			○		1	15	吉川・増田	必修5単位	
	作業療法評価学Ⅱ	2				○	1	15	古山・助川・増田		
	作業療法評価学Ⅲ	3	○				1	15	小池・織田		
	作業療法評価学演習	2			○	○	1	30	西田・池内		
	作業療法評価学実習	3			○	○	1	45	田中 ^睦 ・古山・森・坂本		
	計（履修方法・卒業要件）						5				
	身体障害治療学Ⅰ	3	○				1	15	西田・池内	必修3単位	
	身体障害治療学Ⅱ	3		○			1	15	久野・池内		
	身体障害治療学演習	3			○	○	1	30	西田・池内		
	計（履修方法・卒業要件）						3				
	精神障害治療学Ⅰ	2			○		1	15	小池・織田	必修4単位	
	精神障害治療学Ⅱ	3		○			1	15	小池・織田		
	精神障害治療学演習	3			○	○	1	30	小池・織田		
	精神障害治療学実習	3			○	○	1	45	小池・織田		
	計（履修方法・卒業要件）						4				
	認知障害治療学	3	○				1	15	久野・田中 ^睦	必修2単位	
	認知障害治療学演習	3			○	○	1	30	田中 ^睦 ・久野		
	計（履修方法・卒業要件）						2				
	発達障害治療学	3	○				1	15	助川・古山・増田	必修3単位	
	発達障害治療学実習	3			○	○	1	45	古山・助川・増田		
	老年期障害治療学	3	○				1	15	西田・坂本		
	計（履修方法・卒業要件）						3				
	地域作業療法学	3	○				1	15	高木・田中 ^睦	必修6単位	
	地域作業療法学実習	3		○	○	○	1	45	田中 ^睦 ・高木		
	日常生活援助論	3		○			1	15	古山・増田		
	職業生活援助論	3			○		1	15	助川・織田		
福祉機器論	3		○			1	15	西田			
福祉機器論演習	3			○	○	1	30	田中 ^睦 ・西田			
計（履修方法・卒業要件）						6					
作業療法理論	3				○	1	15	吉川・助川	選択5単位以上		
クリニカルリーディング	4	○				1	15	吉川・古山・高木			
作業療法特論	3			○		1	15	高木・田中 ^睦			
遂行分析学	2				○	1	15	古山			
作業適学	3		○			1	15	高木・坂本			
感覚統合療法特論	3	○				1	15	助川・古山・増田			
音楽療法概論	3		○			1	15	(木村 ^敦 ・上羽)			
計（履修方法・卒業要件）						5					
基礎臨床実習Ⅰ	1			○	○	1	45	助川・坂本・西田	必修22単位		
基礎臨床実習Ⅱ	2			○		2	90	高木・増田			
評価臨床実習	3			○		3	135	古山・池内			
総合臨床実習Ⅰ	4	○				8	405	小池・田中 ^睦 ・久野・織田・西田・古山・吉川・高木・助川・池内・坂本・増田			
総合臨床実習Ⅱ	4	○				8	405	久野・織田・小池・田中 ^睦 ・古山・西田・吉川・高木・助川・池内・坂本・増田			
計（履修方法・卒業要件）						22					
地域課題解決研究	4			○		2			選択2単位		
卒業研究	4				○	2	60	川原田・小池・古山・林・久野・藤巻・西田・森・吉川・高木・織田・坂本・池内・田中 ^睦 ・助川・増田			
計（履修方法・卒業要件）						2					
小計						69			69単位以上修得		
総合計						133			133単位以上修得		

履修制限について

保健福祉学部履修要領により、総合臨床実習Ⅰ及び総合臨床実習Ⅱの履修は、次の要件を満たしていることを履修の条件とする。

全学共通教育科目、人間と社会生活の理解に関する科目、地域包括ケアシステムを発展させる科目、専門領域理解の基礎となる科目及び専門領域特有の科目の1年次から3年次までの必修科目の単位をすべて修得していること。

□ 保健福祉学部 保健福祉学科コミュニケーション障害学コース (令和4年度入学生)

授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
		①	②	③	④	必修	選択			
大学基礎セミナーⅠ	1	○				1	30	伊藤 ^高 , 加藤 ^洋 , 日高, 山田, 小野, 金井, 池内, 坂本, 津田, 小島, 江本, 湯川, 吉田 ^高	必修8単位 選択6単位以上	
大学基礎セミナーⅡ	1		○			1	30	伊藤 ^高 , 中垣, 山中, 渡辺 ^高 , 飯田, 佐藤 ^秀 , 小池, 久野, 渡辺 ^高 , 中村, 江本, 湯川, 吉田 ^高		
ICTリテラシーⅠ	1	○				1	30	川原田		
ICTリテラシーⅡ	1			○		1	30	川原田		
英語総合Ⅰ	1	○				1	30	高島		
英語総合Ⅱ	1		○			1	30	本岡		
英語総合Ⅲ	2			○		1	30	本岡		
英語総合Ⅳ	2				○	1	30	高島		
英語表現Ⅰ	1			○		1	30	黒飛		
英語表現Ⅱ	1				○	1	30	黒飛		
英語表現Ⅲ	2	○				1	30	黒飛・(マコート)		
英語表現Ⅳ	2		○			1	30	黒飛・(マコート)		
中国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(張)・(徐)		
中国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(張)・(徐)		
韓国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(金)		
韓国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(金)		
ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1	30	(小田)		
ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1	30	(小田)		
アカデミック日本語Ⅰ	1	○				1	30	中石		
アカデミック日本語Ⅱ	1			○		1	30	中石		
スポーツ実技Ⅰ	1	○				1	30	(弘中)		
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1	30	(弘中)		
保健体育理論	2				○	2	30	(弘中)		
哲学	1・2・3・4	○				2	30	大草	必修2単位 選択6単位以上	
文学	1・2・3・4		○			2	30	遠藤, 西本, 柳川		
芸術	1・2・3・4			○		2	30	矢澤		
心理学	1・2・3・4				○	2	30	古屋		
社会学	1・2・3・4	○				2	30	澤田		
歴史学	1・2・3・4			○		2	30	岡本		
倫理学	1・2・3・4			○		2	30	大草		
経済学	1・2・3・4	○				2	30	(西手)		
科学史	1・2・3・4	○				2	30	村田		
生命倫理	1・2・3・4		○			2	30	吉川・古山		
基礎数学	1・2・3・4		○			2	30	川原田		
統計入門	1・2・3・4				○	2	30	川原田		
家族社会学	1・2・3・4				○	2	30	澤田		
文化人類学	1・2・3・4		○			2	30	上水流		
日本国憲法	1・2・3・4	○				2	30	岡田 ^高		
法学	1・2・3・4			○		2	30	岡田 ^高		
食と健康	1・2・3・4				○	2	30	長尾		
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	加藤 ^洋		
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田 ^高 , 内藤		
生活に役立つ力学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)		
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川 ^慶		
アカデミック・ライティング	1			○		1	30	俵, 辻川, 日高, 安田, 岡村, 西上, 助川, 増田, 小澤, 伊集院, 勝見, 國定, 吉田 ^高	必修1単位 選択1単位以上	
クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30	加藤 ^高 , 鴨下, 俵, 土路生, 金指, 長谷川 ^正 , 川原田, 藤巻, 古屋, 細川, 越智, 志賀, 米倉		
プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30	中垣(1Q), 井上(3Q), 梅井, 田中 ^高 , 渡辺 ^高 , 伊藤 ^高 (1Q), 米倉(3Q)		
ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	鈴木, 和田, 大知	選択4単位以上	
国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流・手島		
地域情報発信論	2・3・4		○			2	30	広谷・藤井 ^正 ・吉田 ^高 ・伊藤 ^慶		
地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員		
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2	30	担当教員		
キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2	30	原田 ^高	選択4単位以上	
ライフデザイン	2・3・4		○			2	30	岡田 ^高 , 日高, 村上		
ボランティア	2・3・4		○			2	30	手島		
インターンシップ	2・3・4				○	2	30	原田 ^高		
リーダー論	3・4	○				2	30	原田 ^高 , 魚谷		
多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田	選択4単位以上	
人間関係論	2・3・4			○		2	30	(中谷)		
人権論	2・3・4				○	2	30	岡田 ^高		
世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流		
世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村		
海外研修	2・3・4	認定	認定	認定	認定	2	30	本岡・高島		
英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)	卒業要件外	
数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田		
国語入門演習	1	○	○			1	30	五條		
社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤 ^慶		
生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原		
物理入門演習	1	○	○			1	30	米村		
化学入門演習	1	○	○			1	30	三苫		
小計(A)						36			36単位以上	

アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可

□ 保健福祉学部 保健福祉学科コミュニケーション障害学コース (令和4年度入学生)

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考	
			①	②	③	④	必修	選択				
保健福祉学部保健福祉学科コミュニケーション障害学コース												
授業科目の概要	人間と社会生活の理解に 関する科目 を地域包括ケアシステム を 発展させる 科目	科学と医学	1		○			1	15	住居, 林, 藤巻, 安武, 原田, 森, 田口	必修4単位以上	
		解剖学概論	1	○				1	15	津森		
		生理学概論	1		○			1	15	森		
		微生物と人間	1			○		1	15	加藤 ^准		
		人間発達学	1				○	1	15	林 ^准		
		発達心理学	1	○				1	15	古屋		
		生活環境科学	2		○			1	15	吉田 ^准		
		福祉と社会問題	2		○			1	15	志賀, 田中 ^准 , 金子, 松宮, 坊岡		
		小計(B)							4			4単位以上
		授業科目の概要	地域包括ケアシステム を 発展させる 科目	保健医療概論	1	○				1		15
保健医療福祉行政論	3				○			1	15	安武, 俵		
ケアマネジメント論	3			○				1	15	金子, 坊岡		
地域包括ケアシステム論	2					○		1	15	金子, 俵, 積山		
リーダーシップと協働	4						○	1	15	黒田・島谷・西田・坊岡・金子		
チーム医療福祉論	1				○			1	15	吉川・黒田・島谷・坊岡・永野		
チーム医療福祉演習	4					○		1	30	古山ほか		
小計(C)									5		5単位以上	
授業科目の概要	専門領域理解の基礎となる科目	臨床心理学	1			○	1	15	勝見	12単位以上		
		カウンセリング論	2			○	1	15	勝見			
		病理学	1			○	○	1	15		(嶋本)	
		生体機能学	1		○			1	15		森	
		神経生理学	1			○		1	15		森	
		臨床栄養学	1			○		1	15		栢下, 山縣	
		一般臨床医学	2		○			1	15		住居, 原田 ^准	
		内科学	2	○				1	15		(奥崎)	
		神経内科学概論 I	2	○				1	15		原田 ^准	
		神経内科学概論 II	2		○			1	15		原田 ^准	
		精神医学	2		○			1	15		藤巻	
		小児科学	2			○		1	15		林 ^准	
		リハビリテーション医学	2				○	1	15		(木村 ^准)	
		医療安全学	2			○		1	15		安武, 田口, 住居, 原田 ^准	
		救急医療	2			○	○	1	15		(武田)	
		エンドオブライフ・ケア	3	○				1	15		渡辺 ^准 , 田中 ^准	
		保健医療福祉関係法規	1	○				1	15		岡田 ^准 , 安武, 細川, 越智, 西田	
小計(D)							12		12単位以上			
合計(A+B+C+D)							57		57単位以上			

□ 保健福祉学部 保健福祉学科コミュニケーション障害学コース（令和4年度入学生）

授業科目の名称	配当年度	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
		①	②	③	④	必修	選択			
言語理論と言語心理	1			○	○	2	30	(林), (松見)	必修18単位	
音声学	1		○			1	15	津田		
音声学演習	1			○		1	30	津田		
音声・聴覚情報処理	1			○		1	15	伊集院		
音声・聴覚情報処理演習	1				○	1	30	伊集院		
言語発達	1			○		1	15	細川, 堀江, 小島		
心理測定法	2				○	1	30	古屋		
学習認知心理学	1		○			2	30	古屋		
生涯発達心理学	3		○			2	30	古屋		
解剖生理学演習	1			○	○	1	30	森, 津森, 小澤, 田口		
脳機能画像学	2				○	1	15	(大西)		
耳鼻咽喉科学	2	○	○			2	30	田口		
形成外科学	3		○			1	15	(永松)		
歯科口腔外科学	3		○			1	15	(林堂)		
計(履修方法・卒業要件)						18				
コミュニケーション障害学概論	1	○				1	15	城本, 小澤, 坊岡, 佐藤 ^記 , 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 矢守, 長谷川 ^記 , 津田, 小島, 細川	必修35単位	
コミュニケーション障害学演習	1			○		1	30	城本, 小澤, 坊岡, 佐藤 ^記 , 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 矢守, 長谷川 ^記 , 津田, 小島, 細川		
コミュニケーション障害学診断法	2			○	○	3	90	城本, 坊岡, 堀江, 中村 ^ス , 小島, 渡辺, 細川, 津田		
発達系障害学概論Ⅰ	2	○				1	15	細川, 堀江		
発達系障害学概論Ⅱ	2		○			1	15	堀江, 細川		
発達系障害学演習Ⅰ(診断)	2			○		1	30	堀江, 細川, 小島		
発達系障害学演習Ⅱ(評価)	3	○				1	30	細川, 堀江, 小島		
発達系障害学演習Ⅲ(支援)	3		○			1	30	堀江, 細川, 小島		
発達系障害学演習Ⅳ(総合・地域)	3				○	1	30	細川, 堀江, 小島		
認知系障害学概論Ⅰ	2	○				1	15	渡辺・坊岡・津田		
認知系障害学概論Ⅱ	2		○			1	15	津田・坊岡・渡辺		
認知系障害学演習Ⅰ(診断)	2			○		1	30	坊岡・津田・渡辺		
認知系障害学演習Ⅱ(評価)	3	○				1	30	坊岡・渡辺・津田		
認知系障害学演習Ⅲ(支援)	3		○			1	30	渡辺・坊岡・津田		
認知系障害学演習Ⅳ(総合・地域)	3				○	1	30	津田・坊岡・渡辺		
聴覚系障害学概論Ⅰ	2		○			1	15	長谷川 ^記		
聴覚系障害学概論Ⅱ	3	○				1	15	佐藤 ^記		
聴覚系障害学演習Ⅰ(基礎聴覚検査)	2		○			1	30	長谷川 ^記 ・津田・小島・古屋		
聴覚系障害学演習Ⅱ(補聴器)	2			○		1	30	長谷川 ^記		
聴覚系障害学演習Ⅲ(小児聴覚検査)	2				○	1	30	佐藤 ^記		
聴覚系障害学演習Ⅳ(人工内耳)	3	○				1	30	佐藤 ^記		
聴覚系障害学演習Ⅴ(小児難聴・地域連携)	3				○	1	30	佐藤 ^記		
発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ(音声障害・吃音)	2	○				2	30	城本, 田口, 中村		
発声発語・嚥下系障害学概論Ⅱ(構音障害)	2		○			2	30	小澤		
発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ(嚥下障害・頭頸部がんリハ)	3	○				2	30	矢守		
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅰ(音声障害・吃音評価支援法)	2			○		1	30	城本, 田口, 中村		
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅱ(構音障害評価支援法)	2				○	1	30	小澤, 小島		
発声発語・嚥下系障害学演習Ⅲ(嚥下・頭頸部がんリハ評価支援法)	3		○			1	30	矢守, 栢下, 中村		
コミュニケーション科学研究法	3				○	1	30	古屋, 伊集院, 細川, 矢守, 佐藤 ^記 , 田口		
コミュニケーション障害学総合演習	4			○		1	30	坊岡, 城本, 伊集院, 古屋, 矢守, 長谷川 ^記 , 佐藤 ^記 , 田口, 細川, 堀江, 渡辺 ^記 , 津田, 中村, 小島, 小澤		
計(履修方法・卒業要件)						35				
専門領域特論	4	○				1	15	坊岡	選択1単位以上	
心理測定法特論	3		○			1	15	古屋		
音楽療法概論	4		○			1	15	(木村 ^記), (上羽)		
計(履修方法・卒業要件)						1				
臨床実習Ⅰ	2		○			1	40	坊岡, 小澤, 佐藤 ^記 , 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 小島, 城本, 矢守, 長谷川 ^記 , 細川, 津田	必修15単位	
臨床実習Ⅱ	3			○		10	400	坊岡, 小澤, 佐藤 ^記 , 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 小島, 城本, 矢守, 長谷川 ^記 , 細川, 津田		
臨床実習Ⅲ	4			○		4	160	坊岡, 小澤, 佐藤 ^記 , 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 小島, 城本, 矢守, 長谷川 ^記 , 細川, 津田		
計(履修方法・卒業要件)						15				
地域課題解決研究	4		○			2	60		選択2単位	
卒業論文	4			○		2	60	坊岡, 伊集院, 古屋, 小澤, 佐藤 ^記 , 田口, 細川, 堀江, 渡辺 ^記 , 中村 ^ス , 小島, 城本, 矢守, 長谷川 ^記 , 津田		
計(履修方法・卒業要件)						2				
小計						71			71単位以上	
総合計						128			128単位以上	

履修制限について

保健福祉学部履修要領により、専門教育特有の科目(必修科目に限る)の履修は、次の要件を満たしていることを履修の条件とする。

- 臨床実習Ⅱ
専門領域特有の科目のうち、専門必修科目であるコミュニケーション障害学概論及び演習、コミュニケーション障害学診断法、発達系障害学概論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ、認知系障害学概論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ、聴覚系障害学概論Ⅰ、聴覚系障害学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、発声発語・嚥下系障害学概論Ⅰ・Ⅱ及び演習Ⅰ・Ⅱと臨床実習Ⅰの単位をすべて修得していること。
- 臨床実習Ⅲ
臨床実習Ⅱの単位を修得し、さらに専門必修科目である発達系障害学演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、認知系障害学演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、聴覚系障害学概論Ⅱ及び聴覚系障害学演習Ⅳ・Ⅴ、発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ及び演習Ⅲの単位をすべて修得していること。
- 卒業論文
臨床実習Ⅱとコミュニケーション科学研究法の単位を修得していること。
臨床実習Ⅲの単位を修得見込みであること。

□ 保健福祉学部 保健福祉学科人間福祉学コース（令和4年度入学生）

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
			①	②	③	④	必修	選択			
学 び ス キ ル ・ リ テ ラ シ ー	大学基礎セミナーⅠ	1	○				1	30	伊藤良, 加藤洋, 日高, 山田, 小野, 金井, 池内, 坂本, 津田, 小島, 江本, 湯川, 吉田倫	必修8単位 選択6単位以上	
	大学基礎セミナーⅡ	1		○			1	30	伊藤良, 中垣, 山中, 渡辺眞, 飯田, 佐藤勇, 小池, 久野, 渡辺眞, 中村, 江本, 湯川, 吉田倫		
	ICTリテラシーⅠ	1	○				1	30	(近藤眞)		
	ICTリテラシーⅡ	1			○		1	30	(近藤眞)		
	英語総合Ⅰ	1	○				1	30	本岡		
	英語総合Ⅱ	1		○			1	30	高島		
	英語総合Ⅲ	2			○		1	30	高島		
	英語総合Ⅳ	2				○	1	30	本岡		
	英語表現Ⅰ	1			○		1	30	(マコート)		
	英語表現Ⅱ	1				○	1	30	黒飛		
	英語表現Ⅲ	2	○				1	30	黒飛・(マコート)		
	英語表現Ⅳ	2		○			1	30	黒飛・(マコート)		
	中国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(張)・(徐)		
	中国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(張)・(徐)		
	韓国語Ⅰ	1・2		○			1	30	(金)		
	韓国語Ⅱ	1・2			○		1	30	(金)		
	ドイツ語Ⅰ	1・2		○			1	30	(小田)		
	ドイツ語Ⅱ	1・2			○		1	30	(小田)		
	アカデミック日本語Ⅰ	1	○				1	30	中石		
	アカデミック日本語Ⅱ	1			○		1	30	中石		
スポーツ実技Ⅰ	1	○				1	30	(弘中)			
スポーツ実技Ⅱ	2			○		1	30	(弘中)			
保健体育理論	2				○	2	30	(弘中)			
全 業 学 科 通 過 の 目 録	哲学	1・2・3・4	○				2	30	大草	必修4単位 選択4単位以上	
	文学	1・2・3・4		○			2	30	遠藤, 西本, 柳川		
	芸術	1・2・3・4			○		2	30	矢澤		
	心理学	1・2・3・4				○	2	30	古屋		
	社会学	1・2・3・4	○				2	30	澤田		
	歴史学	1・2・3・4			○		2	30	岡本		
	倫理学	1・2・3・4			○		2	30	大草		
	経済学	1・2・3・4	○				2	30	(西手)		
	科学史	1・2・3・4	○				2	30	村田		
	生命倫理	1・2・3・4		○			2	30	吉川・古山		
	基礎数学	1・2・3・4		○			2	30	川原田		
	統計入門	1・2・3・4				○	2	30	川原田		
	家族社会学	1・2・3・4			○		2	30	澤田		
	文化人類学	1・2・3・4		○			2	30	上水流		
	日本国憲法	1・2・3・4		○			2	30	岡田高		
	法学	1・2・3・4			○		2	30	岡田高		
食と健康	1・2・3・4				○	2	30	長尾			
いのちと科学	1・2・3・4	○				2	30	加藤洋			
環境と科学	1・2・3・4		○			2	30	原田高, 内藤			
生活に役立つ法学	1・2・3・4			○		2	30	(山田)			
地域社会と言語	1・2・3・4				○	2	30	小川隆			
論 理 思 考 表 現	アカデミック・ライティング	1			○		1	30	俵, 辻川, 日高, 安田, 岡村, 西上, 助川, 増田, 小澤, 伊集院, 勝負, 國定, 吉田倫	必修1単位 選択1単位以上	
	クリティカル・シンキング	1・2				○	1	30	加藤洋, 鴨下, 俵, 土路生, 金指, 長谷川正, 川原田, 藤巻, 古屋, 細川, 越智, 志賀, 米倉		
	プレゼンテーション演習	2・3・4	○		○		1	30	中垣(1Q), 井上(3Q), 梅井, 田中隆, 渡辺眞, 伊藤孝(1Q), 米倉(3Q)		
地 域 課 題	ひろしま理解	2・3・4		○			2	30	鈴木, 和田, 大知	選択4単位以上	
	国際社会の理解	2・3・4			○		2	30	上水流・手島		
	地域情報発信論	2・3・4		○			2	30	広谷・藤井正・吉田倫・伊藤隆		
	地域教養ゼミナールA(エリア型)	2・3・4	○		○		2	30	担当教員		
地域教養ゼミナールB(テーマ型)	2・3・4		○		○	2	30	担当教員			
キ ャ リ ア 開 発 リ ア	キャリアビジョン(デベロップメント)	2・3・4	○				2	30	原田洋	選択4単位以上	
	ライフデザイン	2・3・4		○			2	30	岡田高, 日高, 村上		
	ボランティア	2・3・4		○			2	30	手島		
	インターンシップ	2・3・4				○	2	30	原田洋		
リーダー論	3・4	○				2	30	原田高, 魚谷			
ダ イ バ ー シ テ イ	多様性理解(ジェンダー論)	2・3・4			○		2	30	澤田	必修2単位 選択2単位以上	
	人間関係論	2・3・4		○		2	30	(中谷)			
	人権論	2・3・4				○	2	30	岡田高		
	世界の宗教	2・3・4				○	2	30	上水流		
	世界の言語と文化	1・2・3・4				○	2	30	河村		
海外研修	2・3・4	認定	認定	認定	認定	2	30	本岡・高島			
入 門 演 習	英語入門演習	1	○	○			1	30	(笠本)	卒業要件外	
	数学入門演習	1	○	○			1	30	岩田		
	国語入門演習	1	○	○			1	30	五條		
	社会入門演習	1	○	○			1	30	伊藤隆		
	生物入門演習	1	○	○			1	30	伊原		
	物理入門演習	1	○	○			1	30	米村		
化学入門演習	1	○	○			1	30	三苦			
小計(A)							36			36単位以上	

アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱは留学生のみ履修可

□ 保健福祉学部 保健福祉学科人間福祉学コース（令和4年度入学生）

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考	
			①	②	③	④	必修	選択				
授 業 科 目 の 概 要	人 間 と 社 会 生 活 の 理 解 に 関 する 科 目	科学と医学	1		○			1	15	住居、林、藤巻、安武、原田、森、田口	必修2単位 選択2単位以上	
		解剖学概論	1	○				1	15	津森		
		生理学概論	1		○				1	15		森
		微生物と人間	1			○			1	15		加藤 ^准
		人間発達学	1				○		1	15		林 ^優
		発達心理学	1	○					1	15		古屋
		生活環境科学	2		○				1	15		吉田 ^編
		福祉と社会問題	2		○				1	15		志賀、田中 ^{聡子} 、金子、松宮、坊岡
	小計(B)							4			4単位以上	
	地 域 を 発 展 さ せ る 科 目	保健福祉概論	1	○				1	15	黒田・島谷・田中 ^健 ・坊岡・金子・林・沖西	必修5単位	
		保健医療福祉行政論	3		○			1	15	安武、俵		
		ケアマネジメント論	3	○					1	15		金子、坊岡
		地域包括ケアシステム論	2				○	1	15	金子、俵、横山		
		リーダーシップと協働	4				○	1	15	黒田・島谷・西田・坊岡・松宮		
		チーム医療福祉論	1		○				1	15		吉川・黒田・島谷・坊岡・永野
		チーム医療福祉演習	4			○			1	30		古山ほか
	小計(C)							5			5単位以上	
専 門 領 域 理 解 の 基 礎 と な る 科 目	福祉支援工学	2			○		1	15	川原田	必修1単位 選択5単位以上 精神保健福祉士養成課程は ◆印の科目必修		
	臨床心理学	1				○	1	15	勝見			
	カウンセリング論	2			○			1	15		勝見	
	医療行動科学	2	○				1	15	細羽			
	公衆衛生学	2	○				1	15	安武			
	精神医学Ⅰ	2		○			◆1	15	藤巻			
	精神医学Ⅱ	2			○		◆1	15	藤巻			
	小児科学	2			○			1	15		林 ^優	
	エンドオブライフ・ケア	3	○					1	15		渡辺 ^通 、田中 ^聡	
	福祉住環境論	2				○		1	15		吉田 ^編	
	保健医療福祉関係法規	1	○					1	15		岡田 ^浩 、安武、細川、越智、西田	
小計(D)							6			6単位以上		
合計(A+B+C+D)							51			51単位以上		
専 門 領 域 特 有 の 科 目	地 域 生 活 支 援 の 基 礎 と な る 科 目	社会福祉の原理と政策Ⅰ	1	○	○			2	30	手島	22単位	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1			○	○	2	30	手島		
		高齢者福祉	1			○	○	2	30	國定・住居		
		障害者福祉	2	○	○			2	30	米倉		
		児童・家庭福祉	1			○	○	2	30	志賀		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	○	○			2	30	田中 ^{聡子}		
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2			○	○	2	30	田中 ^{聡子}		
		保健医療と福祉	3	○	○			2	30	永野		
		社会保障Ⅰ	2	○	○			2	30	(角)		
		社会保障Ⅱ	2			○	○	2	30	(角)		
	貧困に対する支援	3	○	○			2	30	(角)			
	計(履修方法・卒業要件)							22				
	ソ シ ャ ル ワ ー ク を 理 解 す る 科 目	ソーシャルワークの基礎と専門職	2	○	○			2	30	伊藤 ^泰	12単位	
		ソーシャルワークの基礎と専門職(専門)	2			○	○	2	30	松宮		
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2	○	○			2	30	江本			
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2			○	○	2	30	大下			
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ		3	○	○			2	30	松宮			
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ		3			○	○	2	30	田中 ^{聡子}			
計(履修方法・卒業要件)								12				
ソ シ ャ ル ワ ー ク 実 践 を 修 得 す る 科 目		ソーシャルワーク演習	2			○		1	30	永野・松宮		16単位
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	2			○		1	30	永野・松宮		
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	3	○	○			1	30	國定・志賀		
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	3			○	○	1	30	國定・志賀			
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	4	○	○			1	30	手島・米倉			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1			○	○	1	30	米倉・伊藤・國定・志賀・住居・田中・手島・永野・松宮・高川・吉田			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2			○		1	30	高川・伊藤・國定・志賀・住居・田中・手島・永野・松宮・吉田・米倉			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3			○		1	30	國定・伊藤・吉賀・住居・田中・手島・永野・松宮・高川・吉田・米倉			
計(履修方法・卒業要件)							16					
包 括 的 支 援 を 展 開 す る 科 目	総合演習Ⅰ	3	○	○			1	30	松宮ほか	12単位		
	総合演習Ⅱ	3			○	○	1	30	松宮ほか			
	総合演習Ⅲ	4	○	○			1	30	松宮ほか			
	総合演習Ⅳ	4			○	○	1	30	松宮ほか			
	権利擁護を支える法制度	4	○	○			2	30	手島			
	社会福祉調査の基礎	3	○	○			2	30	田中 ^{聡子} ・細羽			
	刑事司法と福祉	4		○			2	30	澤田・金子			
	福祉サービスの組織と経営	4			○	○	2	30	伊藤 ^泰			
	計(履修方法・卒業要件)							12				

□ 保健福祉学部 保健福祉学科人間福祉学コース（令和4年度入学生）

	授業科目の名称	配当年次	開講期				単位数		授業時間数	担当教員 ()は学外講師	備考
			①	②	③	④	必修	選択			
授 業 科 目 の 概 要	保健福祉学部保健福祉学科人間福祉学コース										
	精神保健福祉を理解する科目	現代の精神保健の課題と支援Ⅰ	2	○	○			◆2	30	勝見	選択4単位以上 精神保健福祉士養成課程は ◆印の科目必修
		現代の精神保健の課題と支援Ⅱ	2			○	○	◆2	30	江本	
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2	○	○			◆2	30	越智	
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2			○	○	◆2	30	金子	
		精神保健福祉制度論	3	○	○			◆2	30	越智	
		精神障害リハビリテーション論	3			○	○	◆2	30	細羽	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）A	2	○	○			◆2	30	金子	
		ソーシャルワークの理論と方法（専門）B	4			○	○	◆2	30	大下	
		精神保健福祉演習Ⅰ	3			○		◆1	30	金子・細羽・江本・大下	
		精神保健福祉演習Ⅱ	4	○	○			◆1	30	金子・細羽・江本・大下	
		精神保健福祉演習Ⅲ	4			○	○	◆1	30	金子・細羽・江本・大下	
		精神保健福祉実習指導Ⅰ	2			○	○	◆1	30	澤田・金子・細羽・江本・大下・勝見・越智・吉田	
		精神保健福祉実習指導Ⅱ	3			○		◆1	30	越智・金子・細羽・江本・大下・勝見・澤田・吉田	
		精神保健福祉実習指導Ⅲ	4			○		◆1	30	越智・金子・細羽・江本・大下・勝見・澤田・吉田	
	精神保健福祉実習Ⅰ	3			○		◆3	90	越智・金子・細羽・江本・大下・勝見・澤田・吉田		
	精神保健福祉実習Ⅱ	4			○		◆2	60	越智・金子・細羽・江本・大下・勝見・澤田・吉田		
	計（履修方法・卒業要件）						4				
	応用・関連科目	医学概論	1			○	○	2	30	住居	必修2単位 選択6単位以上
		社会病理学	2		○			1	15	澤田	
適応の心理		1			○		1	15	細羽		
介護技術		2	○				1	15	國定		
居住政策論		3			○		1	15	吉田		
地域介護実習		4	○				1	30	國定		
医療ソーシャルワーク		2			○		1	15	永野		
家族支援論		3	○				1	15	大下		
心理アセスメント実習		4	○				1	30	勝見		
計（履修方法・卒業要件）							8				
研究	地域課題解決研究	4			○		2	60		選択2単位	
	卒業研究	4			○		2	60	松宮ほか		
	計（履修方法・卒業要件）					2					
	小計						76		76単位		
	総合計						127		127単位		

履修制限について

保健福祉学部履修要領により、専門領域特有の科目(必修に限る)の履修は、次の要件を満たしていることを履修の条件とする。

- ア ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を修得していること。
- イ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
ソーシャルワーク実習指導Ⅱとソーシャルワーク実習Ⅰの単位を修得していること。
- ウ ソーシャルワーク実習Ⅰ
ソーシャルワーク実習指導Ⅱにおいて実施される中間試験に合格すること。
- エ ソーシャルワーク実習Ⅱ
ソーシャルワーク実習指導Ⅲにおいて実施される中間試験に合格すること。

(趣旨)

第1条 この規程は、広島県公立大学法人組織規程(平成19年法人規程第12号。以下「組織規程」という。)第6条に規定する大学教育実践センター(以下「センター」という。)の管理及び運営について、必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育改革の企画及び総括に関すること。
- (2) 教育制度の充実に関すること。
- (3) 入学試験の企画及び実施に関すること(教学課の所掌に属するものを除く。)
- (4) 学生支援制度の企画に関すること。
- (5) 学生の就職及びキャリア形成の支援方策の企画に関すること。
- (6) 全学共通教育に関すること。
- (7) 前各号の業務に係る各キャンパス教学課との連絡調整に関すること。
- (8) その他大学教育実践センターの管理運営に関すること。

(職員)

第3条 センターに、センター長及び副センター長のほか、必要な職員を置く。

2 前項の職員は、広島県公立大学法人の教職員のうちから、理事長が任命する。

(職務)

第4条 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長を補佐するとともに、第2条に掲げる業務のうちセンター長が命ずる業務を整理する。

3 センターの職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(キャリアセンター)

第5条 センターに、第2条第5号に掲げる業務を実施するため、キャリアセンター、庄原キャリアセンター及び三原キャリアセンター(以下「キャリアセンター等」という。)を置く。

2 前2条の規定は、副センター長に関する規定を除き、キャリアセンター等に準用する。

3 キャリアセンター等の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(学生相談室)

第6条 センターに、学生相談に関する業務を実施するため、学生相談室、庄原学生相談室及び三原学生相談室(以下「学生相談室等」という。)を置く。

2 学生相談室等の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(部門)

第7条 センターに、前2条に規定するキャリアセンター等及び学生相談室等のほか、次の部門等(以下「部門等」という。)を置く。

- (1) 教育推進部門
- (2) 入試・高大接続委員会
- (3) 学生支援部門
- (4) 全学共通教育部門
- (5) 研修部門

2 部門等に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第8条 センターに、センターの管理及び運営に係る重要事項について審議するため、県立広島大学大学教育実践センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、県立広島大学本部事務部教学課において処理する。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年6月3日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(令和3年法人規程第47号)

(施行期日)

この規程は、令和2年5月20日から施行し、改正後の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則(令和3年法人規程第124号)

(施行期日)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

(趣旨)

第1条 この規程は、広島県公立大学法人組織規程(平成19年法人規程第12号。以下「組織規程」という。)第6条に規定する大学教育実践センター(以下「センター」という。)の管理及び運営について、必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育改革の企画及び総括に関すること。
- (2) 教育制度の充実に関すること。
- (3) 入学試験の企画及び実施に関すること(教学課の所掌に属するものを除く。)
- (4) 学生支援制度の企画に関すること。
- (5) 学生の就職及びキャリア形成の支援方策の企画に関すること。
- (6) 全学共通教育に関すること。
- (7) 前各号の業務に係る各キャンパス教学課との連絡調整に関すること。
- (8) その他大学教育実践センターの管理運営に関すること。

(職員)

第3条 センターに、センター長及び副センター長のほか、必要な職員を置く。

2 前項の職員は、広島県公立大学法人の教職員のうちから、理事長が任命する。

(職務)

第4条 センター長は、学長の命を受け、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長を補佐するとともに、第2条に掲げる業務のうちセンター長が命ずる業務を整理する。

3 センターの職員は、センター長の命を受け、センターの業務に従事する。

(キャリアセンター)

第5条 センターに、第2条第5号に掲げる業務を実施するため、キャリアセンター、庄原キャリアセンター及び三原キャリアセンター(以下「キャリアセンター等」という。)を置く。

2 前2条の規定は、副センター長に関する規定を除き、キャリアセンター等に準用する。

3 キャリアセンター等の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(学生相談室)

第6条 センターに、学生相談に関する業務を実施するため、学生相談室、庄原学生相談室及び三原学生相談室(以下「学生相談室等」という。)を置く。

2 学生相談室等の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(部門)

第7条 センターに、前2条に規定するキャリアセンター等及び学生相談室等のほか、次の部門等(以下「部門等」という。)を置く。

- (1) 教育推進部門
- (2) 入試・高大接続委員会
- (3) 学生支援部門
- (4) 全学共通教育部門
- (5) 研修部門

2 部門等に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第8条 センターに、センターの管理及び運営に係る重要事項について審議するため、県立広島大学大学教育実践センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、県立広島大学本部事務部教学課において処理する。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年6月3日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(令和3年法人規程第47号)

(施行期日)

この規程は、令和2年5月20日から施行し、改正後の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則(令和3年法人規程第124号)

(施行期日)

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

県立広島大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) 取組概要

【教育プログラムの構成】

- ・ ICTリテラシーⅠ 1年次必修（1単位）
- ・ ICTリテラシーⅡ 1年次選択（1単位）
- ・ 統計入門 1年～4年次選択（2単位）

修了要件は上記3科目の計4単位を全て取得すること

【取組の特色】

- ・ 1クラスの人数が30～40人程度になるようにクラス分けを行っており、学生一人ひとりに対して、きめ細やかなサポートが可能となっている。

【組織体制】

大学教育実践センターは、教育改革の企画や教育制度の充実に関する業務などを担い、大学としての総合力の強化を図ることを目的に設置されている。

令和4年度、同センターの下に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度申請に向けた検討ワーキング」を立ち上げ、全学部から、数理・データサイエンス・AIの教育内容に関わる教職員が参画し、ICTリテラシー、統計学、AI等を含めた情報教育のカリキュラムを検討し、関連科目の整備を行った。

令和5年度より、同検討ワーキングは、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）運営委員会」に移行し、プログラムの運営、点検にあたる予定である。